



第3回岡山オルガノン連携評価委員会

1 日 時 平成24年1月20日(金) 14:30~16:30

2 場 所 岡山理科大学 第9号館 3階 大会議室

3 参加者 岡山オルガノン連携評価委員会委員

4 議題案

(1) 委員長の選出

(2) 本連携取組事業説明(大学教育連携センター長 木村 宏)

- ・全体の事業概要について
- ・連携取組事業評価について

(3) 平成23年度連携取組内容および3年間の成果報告

- ・共通計画について(①②③④⑤⑥⑧関係)
(大学教育連携センター 木村 宏)
- ・学士力育成のための取組について(⑦⑨⑩⑪関係)
(岡山大学オフィスコーディネーター 遠山 和大)
- ・社会人基礎力育成のための取組について(⑫⑬⑭⑮関係)
(中国学園大学オフィス代表 飯田 哲司)
- ・地域発信力育成のための取組について(⑯⑰⑱関係)
(岡山商科大学オフィス室長 大崎 紘一)

(4) 事業評価に関する意見交換(取組報告に関する質疑応答を含む)

(5) 平成24年度以降の将来構想について(大学教育連携センター長 木村 宏)

5 岡山オルガノン連携評価委員会委員および出席者一覧

(1) 有識者（産学官の外部委員）

所 属・職 名	氏 名	出欠	代理出席	随行者
岡山県・県民生活部長	浅野 嘉彦	出		県民生活部県民生活交通課総括参事 竹田 人士
岡山県教育委員会・教育長	竹井 千庫	欠	総括主幹 亀山 定司	
社団法人岡山経済同友会・代表幹事	中島 基善	欠	ナカシマプロペラ株式会社管理本部顧問 下山 俊一	
山陽新聞社・代表取締役社長	越宗 孝昌	欠	山陽新聞社論説委員会主幹 木山 博雅	
立命館大学共通教育推進機構・教授	木野 茂	出		
両備ホールディングス株式会社・代表取締役社長	小嶋 光信	欠	両備ホールディングス株式会社常務取締役 小山 嘉紀	

(2) 構成大学代表者（学長等）

所 属・職 名	氏 名	出欠	代理出席	随行者
岡山大学・学長	森田 潔	欠	理事 荒木 勝	学務部長 大前 弘 学務部学務企画課総務・企画グループ主査 野曾 康史
岡山県立大学・学長	三宮 信夫	出		
岡山学院大学・学長	原田 博史	欠	人間生活学部教授 友近 健一	
岡山商科大学・学長	井尻 昭夫	出		
岡山理科大学・学長	波田 善夫	出		
川崎医科大学・学長	福永 仁夫	欠	学長補佐、衛生学教授 大槻 剛巳	
川崎医療福祉大学・学長	岡田 喜篤	欠	学長補佐 金光 義弘	
環太平洋大学・学長	梶田 叡一	欠	副学長 永井 純	
吉備国際大学・学長	松本 皓	出		事務局長 伊藤 明
倉敷芸術科学大学・学長	唐木 英明	出		
くらしき作陽大学・学長	有本 章	出		
山陽学園大学・学長	赤木 忠厚	出		
就実大学・学長	押谷善一郎	欠	薬学部教授・教務部長 片岡 洋行	企画広報課事務員 千田尾 翠
中国学園大学・学長	松畑 熙一	出		
ノートルダム清心女子大学・学長	高木 孝子	欠	人間生活学研究科長 加藤 正春	

平成23年度

第3回岡山オルガノン連携評価委員会

資料集

平成24年1月20日

目 次

連携取組事業の評価について	1
---------------	---

《平成23年度連携取組報告資料》

関連番号資料	11
--------	----

《平成23年度関係書類》

平成23年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書	29
------------------------------	----

平成23年度岡山オルガノン事業年間活動カレンダー	41
--------------------------	----

平成23年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）実績報告書	49
---------------------------------	----

平成23年度補助金調書および実績報告書対比表	55
------------------------	----

《参考資料》

平成21年度連携取組事業評価報告書	65
-------------------	----

平成22年度連携取組事業評価報告書	89
-------------------	----

連携取組事業の評価について

連携取組事業の評価について

[本連携取組事業の目的]

連携校間における（A）教養教育の充実・共同FD・SD活動による「学士力」育成、（B）実践的キャリア指導・社会活動参画による「社会人基礎力」育成、（C）地域連携による人材育成・地域貢献活動による「地域発信力」育成、という核となる3つの力の育成であり、これらの取組が地域一体となった実践の実現により、「岡山オルガノン」が構築され、岡山県から発信される地域創生型の人材育成へとつなげることです。特に本事業では、ネットワーク網で結ばれたテレビ会議システムの活用により、遠隔授業などの教育支援だけではなく、教職員や学生の交流を深化させていくための重要なコミュニケーション支援としての役割も果たし、これにより大学間連携の充実化を図りたいと考えています。

[評価の目的]

本連携取組事業の各々の取組を年度毎に振り返り、今後の継続的事業展開だけではなく、さらに発展的な取組へとつなげ、岡山県内の大学教育・学生サービスの質的向上を図ることを目的として点検・評価を行います。これを通して、成果や課題を連携校すべてにフィードバックし、各大学の特色を踏まえた上での大学教育充実に向けた改善を図る契機として活用します。

[実施期間]

平成24年1月20日～平成24年1月31日

[評価規準・評価観点]

（1）事業取組評価

- ①本連携取組事業の内容が目的に沿って適切な企画・実施がなされているか
- ②大学間の連携が適切に図れているか
- ③本事業のために導入した設備が目的達成のために有効に活用されているか

（2）地域貢献評価：

- ①産官民や高校との連携が適切に図れているか
- ②地域の担い手となる人材育成につながる取組となっているか

[評価基準]

- 4：十分に満足できる（期待する効果が十分に見られる）
- 3：おおむね満足できる（期待する効果はあるが、未到達の部分もある）
- 2：努力を要する（期待する効果が見られない）
- 1：問題がある（期待する効果へとつながるよう計画がなされていない）

[取組点検項目]

文部科学省に今年度提出した交付申請書の「本年度の補助事業実施計画」にある以下の18項目について評価をしていただきます。

(1)共通計画

- ① 4月～ 大学教育連携センターおよび各オフィスの運営
- ② 4月～ 「将来構想委員会」の開催
- ③ 5月～ 「岡山オルガノン代表者委員会」の開催
- ④ 12月上旬 「岡山オルガノン事業報告会」の開催
- ⑤ 1月 平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加（実施せず）
- ⑥ 1月下旬 「連携評価委員会」の開催、最終報告書の作成

(2)学士力育成のための計画

- ⑦ 4月～ 単位互換制度を活用した配信科目の追加検討・協議・決定
- ⑧ 4月～ 新規VOD科目のコンテンツ制作、8月～9月にICT活用教材作成講習会の実施
- ⑨ 8月 独自の共同SD研修会「クレイマー対策講座」を実施
- ⑩ 9月 FD研修事業「i*See 2011」の共催
- ⑪ 11月 「共同FD・SD実施報告会」（遠隔授業による成果報告を含む）の開催

(3)社会人基礎力育成のための計画

- ⑫ 4月～ 連携校および高校（高大連携）への出張講義の実施
＜実践的キャリア指導チームの強化充実＞
- ⑬ 6月 学生参画によるキャリア教育担当者意見交換会（ワークショップ）の開催
- ⑭ 10月 「実践マナー&ビジネスマインド短期集中講座」の実施
- ⑮ 11月 「社会人基礎力養成シンポジウム」の開催

(4)地域発信力育成のための計画

- ⑯ 4月～ 双方向ライブ型方式による遠隔授業の継続配信
- ⑰ 6月 「大学連携による地域活性化シンポジウム」の開催
- ⑱ 7月 「エコナイト」の開催

[評価報告書の作成について]

連携評価委員会開催当日に、大学教育連携センターおよび各オフィスより、各取組点検項目につきまして配布資料に従って概略の説明を致しますので、以下のとおり、本連携取組の評価報告書の作成をお願い致します。

- (1) 評価報告書は連携評価委員会の全委員にご提出いただきます。
- (2) 委員会から評価報告書の作成につきましては、上記で説明しました [本連携取組事業の目的] および [評価の目的] をご理解いただき、[評価規準・評価観点] に従い、評定およびコメントの記載をお願いします。
- (3) 評定は各項目別に [評価基準] の4段階評価をお願いします。「総合評価」では全体の評定をお書きください。コメント欄には、大項目ごとに各評定に基づき「優れている事項」や「改善すべき事項」など、記述していただくようお願いします。特に、評定で「2」または「1」の評価をされた場合は、課題や改善点など具体的に記述していただき今後の取組に反映させたいと思っております。また、各取組点検項目の小項目の番号(①～⑱)について個別にコメントを記述される場合は、各項目の番号が分かるように付記してください。
- (4) 「点検項目別評価」、「総合評価」と「本事業3年間を通しての総合評価」の評価をお願いします。「その他のコメント」につきましては、本連携取組についてご意見・ご感想等ご自由にご記入ください。
- (5) 行数・页数など必要に応じて追加していただいて結構です。

※記入例は次頁をご参照ください。また、本資料集に過去2回の連携評価報告全文を掲載していますので、ご参照ください。

[提出方法]

大学教育連携センターにメールで添付してお送りください。

e-mail アドレス : info@okayama-organon.jp

提出期限 : 平成 24 年 1 月 31 日 (火) 17:00

《記入例》

①・・・および・・・に関する科目の検討		④	3	2	1
コメント	<p>全般的に・・・について目標が達成できている。</p> <p>今後は・・・の点に注意して・・・の一層の充実を図るよう期待する。</p> <p>(あるいは、・・・の点で特に効果が得られているようであり、今後も一層・・・に注意して成果を出していただきたい。)</p>				

②「・・・シンポジウム」の開催		4	③	2	1
コメント	<p>・・・に関してはおおむね目標が達成され、その効果が期待できる。ただし、・・・については一部まだ取り組みの遅れ(あるいは、・・・などに不十分な点)が見られるので、・・・に注意して、次年度以降には達成させる必要がある。</p>				

③「・・・委員会」の開催		4	3	②	1
コメント	<p>・・・を実施したことにより、・・・に大きな成果があがっているのは確かである。ただし、実施した・・・の取組(①)が部分的であり、・・・と・・・を目標にしている・・・への寄与は低いと考えられる。そのため、・・・の取組(①)と・・・の取組(②)については、・・・を整備し、・・・に対してより発展的な事業を展開し、・・・の向上を図るよう検討する必要がある。</p>				

④・・・に対する・・・活動の展開		4	3	2	①
コメント	<p>・・・に関しては、事業の当初目標が充分達成されているとは考えられない。特に、・・・の点で問題が有ると思われるので、・・・に留意し、早急に実施体制や・・・を見直す必要がある。(あるいは、・・・のように目標設定を変更し、・・・のような効果が得られるよう見直す必要がある。)(あるいは、導入した・・・等の設備が・・・活用されていないようであり、今後は・・・のような適用方法に変更して、導入効果を得るよう努力されたい。)</p>				

(趣旨)

第1条 この要項は、岡山理科大学、岡山大学、岡山県立大学、岡山学院大学、岡山商科大学、川崎医科大学、川崎医療福祉大学、環太平洋大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、山陽学園大学、就実大学、中国学園大学、ノートルダム清心女子大学（以下、「構成大学」という）が、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムに基づく構成大学間の連携取組事業（以下、「連携取組事業」という）に関し締結した「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムの共同実施に関する協定書」第2条に基づき、連携評価委員会の組織及び運営に関し、必要事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 連携評価委員会は次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 構成大学が実施した連携取組事業の内容および成果の評価を行うこと。
- (2) 構成大学が実施した連携取組事業の内容に関して指導および助言を行うこと。

(組織)

第3条 連携評価委員会の組織は次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 有識者（産学官の外部委員）
- (2) 構成大学代表者（学長等）
- (3) その他委員会が必要と認めた者（学生を含む）

(委員長)

第4条 連携評価委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

- 2 委員長は、連携評価委員会の会議を主宰し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(委員会の成立等)

第5条 連携評価委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 連携評価委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 連携評価委員会は、必要があるときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 連携評価委員会の事務は、構成大学の協力を得て、岡山理科大学内に設置している大学教育連携センターにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、連携評価委員会に関し、必要な事項は別に定める。

(平成22年1月22日：岡山オルガノン代表者委員会にて承認)

(1) 有識者（産学官の外部委員）

所 属	職 名	氏 名
岡山県	県民生活部長	浅野嘉彦
岡山県教育委員会	教育長	竹井千庫
社団法人岡山経済同友会	代表幹事	中島基善
山陽新聞社	代表取締役社長	越宗孝昌
立命館大学共通教育推進機構	教授	木野茂
両備ホールディングス株式会社	代表取締役社長	小嶋光信

(2) 構成大学代表者（学長等）

所 属	職 名	氏 名
岡山大学	学長	森田潔
岡山県立大学	学長	三宮信夫
岡山学院大学	学長	原田博史
岡山商科大学	学長	井尻昭夫
川崎医科大学	学長	福永仁夫
川崎医療福祉大学	学長	岡田喜篤
環太平洋大学	学長	梶田叡一
吉備国際大学	学長	松本皓
倉敷芸術科学大学	学長	唐木英明
くらしき作陽大学	学長	有本章
山陽学園大学	学長	赤木忠厚
就実大学	学長	押谷善一郎
中国学園大学	学長	松畑熙一
ノートルダム清心女子大学	学長	高木孝子
岡山理科大学	学長	波田善夫

『岡山オルガノン』の構築—学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—

連携取組事業評価報告書（平成23年度）

1. 基本情報

作成日	平成24年1月 日（ ）
委員氏名	

2. 点検項目別評価

(1) 共通計画

①大学教育連携センターおよび各オフィスの運営	4	3	2	1
②「将来構想委員会」の開催	4	3	2	1
③「岡山オルガノン代表者委員会」の開催	4	3	2	1
④「岡山オルガノン事業報告会」の開催	4	3	2	1
⑤平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加	/			
⑥「連携評価委員会」の開催、最終報告書の作成	4	3	2	1
コメント				

(2) 学士力育成のための計画

⑦単位互換制度を活用した配信科目の追加検討・協議・決定	4	3	2	1
⑧新規VOD科目のコンテンツ制作、8月～9月にICT活用教材作成講習会の実施	4	3	2	1
⑨独自の共同SD研修会「クレイマー対策講座」を実施	4	3	2	1
⑩FD研修事業「i*See 2011」の共催	4	3	2	1
⑪「共同FD・SD実施報告会」（遠隔授業による成果報告を含む）の開催	4	3	2	1
コメント				

(3) 社会人基礎力育成のための計画

⑫連携校および高校（高大連携）への出張講義の実施<実践的キャリア指導チームの強化充実>	4	3	2	1
⑬学生参画によるキャリア教育担当者意見交換会（ワークショップ）の開催	4	3	2	1
⑭「実践マナー&ビジネスマインド短期集中講座」の実施	4	3	2	1
⑮「社会人基礎力養成シンポジウム」の開催	4	3	2	1
コメント				

(4) 地域発信力育成のための計画

⑯双方向ライブ型方式による遠隔授業の継続配信	4	3	2	1
⑰「大学連携による地域活性化シンポジウム」の開催	4	3	2	1
⑱「エコナイト」の開催	4	3	2	1
コメント				

3. 総合評価

評 定	4	3	2	1
コメント				

4. その他のコメント

--

5. 本事業3年間を通しての総合評価

評 定	4	3	2	1
コメント				

関連番号資料

1

—共通計画—

大学教育連携センターおよび各オフィスの運営

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：大学教育連携センター)

(1) 大学教育連携センターおよび各オフィスの役割

各所掌部門(学士力・社会人基礎力・地域発信力)において連携校間での連絡調整、運営委員会の開催、イベントの企画・運営、情報発信・広報等を担当している。大学教育連携センターは本取組全体の統括を行い、連携校間の連絡調整や情報共有等の中心的な役割を果たし、各オフィスは所掌部門に関する協議を行い、方針策定を行うことで、平成22年度の準備、平成23年度の試行・検討した成果(教育共有化や連携行事開催等)を順調に成し遂げることができた。

(2) 組織

名 称	所掌部門	構 成 員 (本補助金による被雇用者)
大学教育連携センター	取組全体の統括	コーディネーター (1名)、e-Learning 専門スタッフ* (1名)、事務補佐員 (2名)
岡山大学オフィス	学士力育成取組	コーディネーター (1名)、事務補佐員 (1名)
岡山商科大学オフィス	地域発信力育成取組	コーディネーター (1名)、事務補佐員 (1名)
中国学園大学オフィス	社会人基礎力育成取組	コーディネーター (1名)、事務補佐員 (1名)

*平成22年5月より新たにe-Learning 専門スタッフを配置し、VODコンテンツの撮影・編集や学習管理システムの管理・運営に従事している。

(3) 会議開催

定期的にコーディネーター会議(年間9回:6/17、7/15、8/23、9/7、10/11、11/15、12/16、2月上旬と3月下旬予定)または大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議(年2回:4/22、5/27)を開催し、事業全体の進捗状況の把握や各オフィス間の取組調整、意見交換・情報共有を図った。

(4) 情報発信充実に向けた取組

①ホームページ (<http://okayama-organon.jp>) の充実

各種会議やイベントの資料等の情報公開

②岡山オルガノン学生向けプロモーションビデオの活用

取組説明、単位互換説明、学生参画型活動紹介

(http://okayama-organon.jp/htdocs/?page_id=162 参照)

③メールマガジン「岡山オルガノン通信」の発行

本取組の最新情報をメールマガジン形式で平成22年6月から毎月発行している。講読者は本取組の運営委員等関わっている教職員(215名)、またホームページからの登録は誰でも可能となっており学生を含む一般登録者(20名)である。平成23年度は12号(4/15、5/20、6/20、7/15、8/2、9/20、10/20、11/18、12/8、1/19、2/20と3/21予定)発行した。課題としてはさらに多くの関係者・一般に講読してもらい、本取組に参加・理解を促していくことである。

(http://okayama-organon.jp/htdocs/?page_id=159 参照)



(5) 補助金適正化に向けた取組

平成22年度の実績報告書作成においては、中間監査の実施、会計経理担当者会議の開催、独自の記入上の注意点の作成等により、大きな混乱もなく終えることができたため、平成23年度は記入上の注意点を一部改訂のみとし、連携校全体の補助金執行・会計報告書作成の注意喚起を行った。また、最終年度のため、円滑な補助金執行が求められるので、センターより7月14日および10月21日にメールにて補助金執行状況調査を実施し、年度末の集中的な予算執行や執行停滞等を防ぐ対策を取った。

②

—共通計画—

「将来構想委員会」の開催

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：大学教育連携センター)

「岡山オルガノン」の事業は、構想段階より大学コンソーシアム岡山の連携事業を発展させることを目標としており、したがって本事業の補助期間終了後には大学コンソーシアム岡山へ事業継承することが前提となっていた。そのため、平成22年度9月には、岡山オルガノンおよび大学コンソーシアム岡山の両者において、協力して事業継承の協議を行う「将来構想委員会」の設置が決定された。今年に入って以下のとおり9回にわたって会議を開催し、平成24年度以降の事業継承の原案を策定した。

(1) 審議経過

第0回 平成23年1月26日(水)：(1)委員会設立の経過説明、(2)委員の確認、(3)将来構想委員会要項について、(4)委員長の選出、(5)状況説明、(6)岡山オルガノンの事業継承について意見交換

第1回 平成23年2月16日(水)：(1)文部科学省による面接調査について、(2)将来構想委員会要項について、(3)岡山オルガノンの継承について

- ・事業の統合について、
- ・遠隔教育事業の継承体制

第2回 平成23年3月4日(金)：(1)岡山オルガノンの継承について(主に財政面に関する検討)

- ・岡山オルガノンの想定ランニングコストについて、
- ・経費負担のあり方について

第3回 平成23年4月19日(火)：(1)岡山オルガノンの継承について(事業の再編成に関する検討)

- ・事業の再編成について、
- ・事業継承組織について、
- ・経費負担について

第4回 平成23年5月17日(火)：(1)岡山オルガノンの継承について(前回に引き続いて検討)

第5回 平成23年8月8日(月)：(1)継承組織について、(2)経費負担について

第6回 平成23年9月5日(月)：(1)経費負担について(第1次原案作成)

第12回 大学コンソーシアム岡山代表者会議 平成23年9月6日(火)：上記の第1次事業継承原案を保留(大学コンソーシアム岡山の新事業展開に関する詳細を見直した上で再検討することを決定)

これ以降は、大学コンソーシアム岡山の企画会議と連携して、さらに詳細に大学コンソーシアム岡山における新事業体制の構築に関する検討を進めた。

第7回 平成23年11月1日(火)：(1)岡山オルガノンの継承についての詳細検討

- ・予算関係、
- ・組織関係、
- ・継承に関するスケジュール、
- ・大学コンソーシアム岡山の平成24年度事業計画への継承事業の組み入れ

第8回 平成23年11月25日(金)：(1)岡山オルガノンの継承について

- ・組織関係、
- ・予算関係

最終案としての事業継承案を了承

第2回 岡山オルガノン代表者委員会 平成23年12月6日(火)：

- ・岡山オルガノンの事業継承案の了承、
- ・平成24年度事業計画案の了承

第13回 大学コンソーシアム岡山代表者会議 平成24年1月20日(金)



(2) 事業継承案の概要

第8回将来構想委員会で承認された原案の概要は以下の通りである。

- ①各種委員会の統合と組織再編成：岡山オルガノンの6委員会を3委員会に統合し、大学コンソーシアム岡山の3事業部の中核組織とする。事務局に遠隔教育担当職員を1名採用する。
- ②継承事業：本取組の根幹をなす遠隔教育事業(ライブ型およびVOD型)は今後3年間を目処に大学教育事業部にて継承する。地域活性化事業に関しては、すでに連携校に定着した学生交流事業である「エコナイト」、および「日ようび子ども大学」等の地域活性化イベントを継承する。共同FD・SD事業については規模を縮小して継承する。社会人基礎力養成シンポジウムも平成24年度は継続実施する。
- ③経費負担：大学コンソーシアム岡山で新たに継承する事業推進費として、大学コンソーシアム岡山の会費とは別に、各連携校が年額15万円+在学部生数当50円を負担する。これとは別に、連携校は遠隔教育システムの維持費として年額348,384円(平成23年度支出実績準拠)を負担する。
- ④継承に関するスケジュール：遠隔方式による単位互換教育について、平成24年4月までは大学教育連携センターおよび各オフィスが協力して実施する。

③

—共通計画—

「岡山オルガノン代表者委員会」の開催

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：大学教育連携センター)

岡山オルガノン代表者委員会は全連携校の取組担当者および大学教育連携センター・各オフィスのコーディネーターで組織されている。委員会では、本取組における連携校間の共通意識の強化および連携校間の相互協力の体制強化につながり、連携校での一貫した取組ができるだけでなく、本事業の実施上の諸課題等についても具体的な問題点に関して協議し、調整を図ることでより良い教育の提供が可能になった。各回の委員会での報告および審議事項は以下の通りである。

(1) 第1回岡山オルガノン代表者委員会(平成23年5月10日開催)

平成22年度の連携評価報告書について説明が行われた。この評価内容に基づき、平成23年度の補助事業実施方針として以下の9点が了承された。

- ①事業の持続可能性と将来的な事業負担の検討
- ②各大学内での事業等の浸透化
- ③ホームページを活用した情報公開・情報発信の充実化
- ④著作権関連事項の早期検討
- ⑤単位互換履修生募集および学生参画イベント等の呼びかけと周知徹底
- ⑥配信科目の充実化とFD・SD活動の協働体制の強化
- ⑦テレビ会議システムの積極的な活用
- ⑧大学におけるキャリア教育の充実化
- ⑨社会人基礎力育成のための教育への受講者数増加

その他、平成23年度岡山オルガノン事業予定、平成22年度岡山オルガノン事業報告、将来構想委員会、大学連携による地域活性化シンポジウム、エコナイト、遠隔授業におけるFD・SDシンポジウム、平成23年度補助金の確定、最終報告書について報告がなされた。



(2) 第2回岡山オルガノン代表者委員会(平成23年12月6日開催)

まず、以下の3点の報告があった。

- ①岡山オルガノンの平成23年度の実施事業10項目について、大学教育連携センターおよび各事業担当オフィスが報告。
- ②本事業の継承案を審議する将来構想委員会の審議経過(8回分)および審議結果について報告。
- ③本事業で実施した遠隔教育について、ライブ型遠隔講義については、2年間で47名の学生が受講した。VOD型遠隔講義については、平成22年後期より授業を開始し、2年間で計18科目のコンテンツを作成し、591名の学生が受講した。

審議事項としては、将来構想委員会の結論を受けて大学コンソーシアム岡山へのオルガノン事業継承について審議し、以下の点を大学コンソーシアム岡山へ提案することが了承された。

- ①継承組織としては、岡山オルガノンの6委員会を3委員会に集約する。
- ②「岡山オルガノン」の名称を残す。
- ③オルガノン連携校15大学が、事業推進費として新たに年間総額約400万円を負担する。その負担割合は一律15万円+在学学部生数当50円とする。
- ④③とは別に、遠隔教育システムの維持費として、各連携校が年間約35万円を負担する。
- ⑤以上の事項は今後3年間を目途とし、それ以降は3年目に再検討する。

その他、今年度の残りの事業について案内が行われた。



4

—共通計画—

「岡山オルガノン事業報告会」の開催

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：大学教育連携センター)

(1) 岡山オルガノン事業報告会概要

地域住民や全国の大学関係者に対して本取組の成果や課題、また大学教育連携の有用性について報告・発表をする「岡山オルガノン事業報告会」を開催した。これにより、本取組について地域住民や全国大学関係者に対して広く理解してもらうことができ、本取組の成果や課題を活かして、この補助事業で取り組んできた内容を全国に情報発信することができた。

■テーマ：「連携校による岡山オルガノンの構築を目指した事業取組」

■開催日時：平成23年12月3日(土) 13:00~16:10

■会場：岡山理科大学 第25号館 8階 理大ホール

■参加方法：参加費無料、事前申込不要、どなたでも

■後援等申請団体・機関：岡山県、岡山県教育委員会、岡山市、倉敷市、高梁市、総社市、社団法人岡山経済同友会、山陽新聞社、大学コンソーシアム岡山

■プログラム

13:00~13:10 開会挨拶(岡山理科大学学長 波田 善夫 岡山オルガノン事業推進代表者)

13:10~14:10 基調講演「社会の中の大学」

講師 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長 樋口 聡 氏

14:20~16:00 各連携校報告(「岡山オルガノン」事業への取組)

16:00~16:10 閉会挨拶(岡山商科大学学長 井尻 昭夫 大学コンソーシアム岡山会長)

※司会進行：大学教育連携センター副センター長 竹内 渉

(2) 広報活動

岡山オルガノン公式ホームページで案内を掲載すると共に、ちらし・ポスターを連携校および各関係機関に配布した。また、岡山オルガノン通信にも掲載し、広く参加を呼び掛けた。

(3) 実施結果

文部科学省平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に選定され、岡山オルガノンの構築を目指して取り組んできた本事業は、今年度補助期間の最終年度を迎えることとなり、全連携校より本事業に対する成果と課題について報告・発表がなされた。また、基調講演では、「社会の中の大学」と題して、文部科学省の樋口聡氏にご講演をいただいた。これにより、各連携校の構成員をはじめ、学生や一般の方々から、本取組に対して広く理解を得ることができた。さらに、本取組の成果や課題を活かして、地域の大学改革の推進を図ることができた。当日の参加者は、110名にのぼり、盛大に開催することができた。



5

—共通計画—

平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：大学教育連携センター)

平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」については、諸般の事情により中止する旨の連絡が文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室より届いたので、今年度の本取組は計画のみとなった。

⑥

ー共通計画ー

「連携評価委員会」の開催、最終報告書の作成

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：大学教育連携センター)

(1) 最終報告書の制作概要

本事業の最終報告書は本編と資料編の2部構成とする。本編は、平成21年9月1日以降から平成23年9月30日までの各連携校の取組についてまとめた。なお、本年10月1日以降の取組については資料編に追加収録する。平成24年2月に本編を完成し、発行する予定である。また、資料編はCDのみとし、平成24年3月上旬に完成し、3月下旬に発行予定である。原稿の作成に当たっては、単に事業の実施報告にとどまることなく、今後の事業取組に活かせるように心掛けた。また、最終報告書の記載内容はホームページに掲載することで、岡山オルガノンの取組を広く広報するとともに、これまでの取組を連携校や地域で共有することにより、今後のさらなる発展的な取組へとつなげることができると考える。

(2) 最終報告書内容

本編は以下の内容とし、約190ページからなる。

目次

はじめに

『岡山オルガノン』の構築について

第1章 連携取組概要

第2章 組織体制と環境整備

第3章 学士力育成のための取組

第4章 社会人基礎力育成のための取組

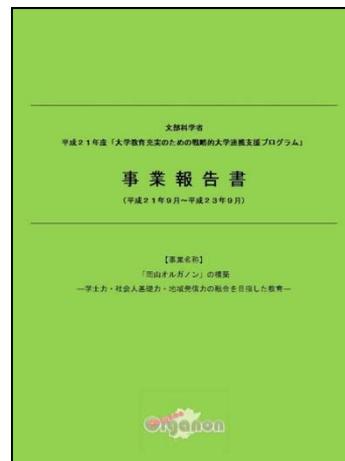
第5章 地域発信力育成のための取組

第6章 外部評価

第7章 戦略的大学連携事業総括

第8章 各連携校取組

おわりに



(3) 最終報告書の構成

原稿の作成にあたっては、多様な関連資料を含め、活動の記録に留まることのないよう、他のGPでも参考になるような報告書作りを心がけた。また、年度毎に取組を紹介するのではなく、取組毎に時系列で表記し、その概要や報告事項、また写真等があれば適宜挿入し、さらに失敗談やそれに対する改善策等についても明記した。

(4) 連携評価委員会委員の選任

連携評価委員会は、有識者（産学官の外部委員）および連携校代表者（学長等）で組織されている。有識者としては、本取組の関係自治体・関係団体である岡山県、岡山県教育委員会、岡山経済同友会、山陽新聞社、両備グループから、県外の大学から立命館大学 木野 茂 教授を委員として選任し、平成23年5月に委員委嘱状を送付し承諾いただいた。前年度に比べ委員委嘱状を早期に送付したことで、本取組の進捗状況を確認することができた。

(5) 第3回連携評価委員会（平成24年1月20日）

平成24年1月20日に「連携評価委員会」を岡山理科大学で開催する。

7

— 学士育成のための計画 —

単位互換制度を活用した配信科目の追加検討・協議・決定

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：岡山大学オフィス)

今年度は昨年度に引き続き、テレビ会議システムを利用したライブ科目に加え、e-Learning を利用した VOD 科目も開講することで、多彩な形態で授業の提供が可能となり、学生の幅広い学習ニーズに対応することができるようになった。教養と専門の区別なく幅広く科目の充実を図ることができ、特に、提供大学の特色を活かした科目を提供する事で、連携大学の教養教育を質・量ともに充実する上で、また、非常勤講師の確保に対して貢献することができた。

(1) 「学士課程教育連携委員会」における科目・授業実施に関する検討

来年度以降のライブ配信・VOD 配信による単位互換科目の継続的な実施に向け、「学士課程連携評価委員会」において、各大学で受講上の課題について検討を行った。前期に実施された「授業科目に関するアンケート」の結果も参考にして、各大学の特色を活かした科目を提供してもらうよう、各大学に対して依頼を行った。また、可能な限り各大学が共通の時間帯(前年度に定めた、どの大学の授業時間とも極力重ならない「ライブ科目授業のための専用時間(オルガノン時間)»)でオルガノン科目の授業を行うことも確認した。

(2) 今年度実施の科目

岡山オルガノンにおける科目配信が開始された平成22年度では、ライブ配信科目が3大学から5科目、VOD配信科目が3大学から3科目であった。しかし、平成23年度には順調に科目数を増加させ、ライブ配信科目は11大学から14科目、VOD配信科目は10大学から18科目が配信された(写真1)。内容の面においても、各連携校独自の特色を持つ科目を選定し、その中には「岡工学(岡山理科大学)」「倉敷まちづくり論(倉敷芸術科学大学)」「経営学特殊講義(岡山商科大学)」(写真2)など、岡山地域に根ざした内容を持つ科目も含まれており、履修生からも好評を得た。このように、大学の枠にとらわれずに広い分野における学びの機会を連携校の学生に対して提供し、連携校の教養教育を質・量ともに充実させることができた。しかし、連携校ではまだ多くの魅力的な科目が開講されており、今後さらに、そうした科目を共有してゆくことが求められる。



写真1 岡山オルガノン科目案内チラシ

(3) 来年度の配信科目

来年度の配信科目については、現在、取りまとめを行っているところであるが、本年度に提供された科目に加えて、新規の科目の追加も見込まれている。

来年度は大学コンソーシアム岡山への合流が決まっているが、これまでオルガノンが提供してきた科目については、その授業形態の特質も考慮し、来年度一年間は従来どおり「オルガノン科目」として履修生を募集し、科目を提供することとなった。再来年度以降、大学コンソーシアム岡山の科目として、どのような形態で科目提供して行くか、来年度中に結論を出す必要がある。



写真2 「経営学特殊講義」授業風景

8

—学士力育成のための計画—

新規 VOD 科目のコンテンツ制作、8月～9月に ICT 活用教材作成講習会の実施

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：大学教育連携センター)

(1) VOD コンテンツ制作

平成 22 年春より各大学で平成 23 年度および平成 24 年度提供の VOD (Video On Demand) 科目について調査を行い、VOD コンテンツ制作のスケジュールについて夏休みまでに調整を行った。全連携校からの VOD 提供科目を早期に確認したことにより、コンテンツ制作を計画的に行えるようになり、科目設定においても他の連携校と調整を行うことができ、学生に対して提供教育領域と教育手法の多様化につなげることができた。平成 23 年度前期は 6 科目を配信した(表 1)。平成 23 年度前期の VOD 科目受講生は計 184 名であった。

表 1 平成 23 年度前期 VOD 科目

大学名	科目名	受講者数
岡山県立大学	解析学 I	73 名
岡山理科大学	環境と社会	25 名
	アルゴリズム入門	9 名
	インターネット入門	7 名
くらしき作陽大学	音楽療法概論	33 名
	食心理学	37 名

また、平成 23 年度後期には 12 科目を配信した(表 2)。配信した科目については概ね 3 年間は継続して VOD 科目として提供する予定である。修正が必要な場合は個別に対応する。平成 23 年度後期の VOD 科目の受講者は計 229 名であった。

表 2 平成 23 年度後期 VOD 科目

大学名	科目名	受講者数
岡山商科大学	パーソナルファイナンス： 金融資産運用・不動産 I	12 名
岡山理科大学	環境と社会	15 名
	アルゴリズム入門	2 名
	インターネット入門	3 名
	環境考古学	9 名
川崎医療福祉大学	睡眠学	87 名
環太平洋大学	レクリエーション論	15 名
吉備国際大学	スポーツ産業論	25 名
山陽学園大学	現代中国論	15 名
就実大学	日本人の思想	15 名
	日本美術史 b	9 名
中国学園大学	運動生理学	22 名

(2) 学習管理システム管理・運用

平成 22 年度後期より単位互換として学習管理システムを用いており、VOD 科目の担当教員や受講学生のヘルプ窓口として大学教育連携センタースタッフが対応した。実際に単位互換科目として実施したことで、学習管理システムの使用方や定期試験実施方法等対面方式による授業とは異なる課題も把握でき、平成 24 年度以降の円滑な実施につなげることができた。

(3) ICT 活用教材作成講習会「まなびオルガノンの効果的な活用について」(11月10日開催)

講習会では、教職員に対して e-Learning 活用法や VOD 教材作成法の講習会を開き、その手法や取組における必要性について学習する機会を設け、来年度以降も遠隔教育を継続して実施することにより、ICT 技術を用いた教育の充実を図り、多様な形態による教育の提供が行えるようになることを目指した。プログラムは、開会挨拶および岡山理科大学の単位互換制度について、大学教育連携センター長の木村宏より説明があり、この後、まなびオルガノンの基本操作とその活用方法について、岡山理科大学大学教育連携センターの e-Learning 専門スタッフの岡戸真理子が説明を行った。さらに、まなびオルガノンの特化した活用方法について、岡山理科大学大学院生の井川真弓氏が実践報告を行い、来年度以降の遠隔教育を継承実施するための教育提供を行うことができた。



9

— 学士力育成のための計画 —

独自の共同SD研修会「クレイマー対策講座」を実施

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：岡山大学オフィス)

2011年度の共同SD活動として、2011年8月29日に岡山大学において共同SD研修会を実施した。

近年、権利意識の高まりとともに学校現場に対する苦情が増加しているが、中には「モンスターペアレンツ」に代表されるような、正当な苦情・要望の範囲を逸脱したのもみられ、正常な教育活動に支障を来す例もある。そこで、これら苦情にいかに対処するかを考えるため、「クレイマー対策」というテーマを設定し、弁護士であり岡山大学法務研究科の教員でもある2名を講師に招いて研修を行った。

研修の前半では「現場での対応とその他法的手段」(写真1)というテーマ、後半では「事後の対応」(写真2)というテーマで、具体的な事例を多く交えつつ、弁護士としての法律的な面からの考察や、豊富な経験を背景にした「クレイマー」対応の方法についての解説が行われた。また、連携校の中には大学病院などの医療機関を擁する大学があることを踏まえ、教育の現場のみならず、医療現場での対応についても研修の中で取り上げられた。

このような「クレイマー」の問題は、連携校の現場においても時として身近に起こりうる問題であるため、多くの教職員の関心を引き起こし、138名という、当初予定していた人数を大きく上回る参加者を集めることができた。参加申し込みに際しては、研修の中で取り上げてもらいたい質問を募ったが、多くの具体的な事例が寄せられた。こうした個別の事例についての対処方法も研修の中で取り上げられ、より実践的な内容の研修となった。

SDに関する研修は各大学で実施されている場合が多いが、今回行われたような、法律的な観点や、実際の現場対応という実践的な観点を盛り込んだ研修では、実務的な経験を持つ講師を招く必要がある。このため、そうした教員を擁していない大学では実施が困難である。しかし、岡山オルガノンという大学連携事業を通じ、こうした研修の機会を連携校間で共有することが可能となった。

なお、SD研修事業を行うにあたり、昨年度は「吉備創生カレッジ」への業務委託を行ったが、今年度は委託を行わなかった。これは、教育現場での具体例を多く扱うため、参加者を連携校の教職員に限定する必要が生じたためである。



写真 1 「現場での対応とその他法的手段」



写真 2 「事後の対応」

10

—学士力育成のための計画—

FD 研修事業「i*See 2011」の共催

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：岡山大学オフィス)

岡山大学学生・教職員教育改善専門委員会と連携し、岡山大学において学生参画型FD研修事業「i*See 2011」を開催した。このことにより、学生目線による教育改善活動について考える機会を創出し、さらに大学職員の教育改善活動への積極的関与の動機づけが図られた。

「i*See 2011」は「大学生生活を充実させるために」というテーマで、平成23年9月10日(土)・11日(日)に実施された。全国27大学から107名の参加者があり、連携校からも学生・教職員の参加が多数あった。初日は、アイスブレイクを兼ねたウォームアップとして「大学生生活バスケット」(写真1)から始まった。続いて、クリッカーを用いた調査を交えつつ、参加者全員に書いてもらった「1週間のタイムテーブル」からユニークなものを紹介する事例報告が行われ、さらにその報告をもとに、全体討論として「大学生生活を充実させるためには何を一番大切にしたらよいか」についての議論が参加者の間で交わされた(写真2)。

2日目の午前中には、学生・教職員を交えた数名のグループに分かれ、「大学生生活を充実させるために、大学が出来ること」というテーマでグループディスカッションを行った。さらに午後にはグループを組み直して午前中の議論の続きを行い、最後に、グループとして大学などに望むことを「要求書」や「直訴状」などの形にまとめた(写真3)。

「i*See 2011」の企画・運営は、岡山大学の学生・教職員教育改善専門委員の学生委員が中心となり、学生の手によって主体的に進められた。また、イベントの進行に際しても、学生と教員さらには一般職員に至るまで、対等な立場で議論が行われた。

このイベントを通じて、学生が教育改善活動の客体的役割にとどまらず、主体的に関与すべきであるという認識を、学生自身を持つことができるようになった。また、職員も教育改善活動の補助的役割にとどまらず、何ができるかを再考するきっかけとなった。さらに、こうした学生・職員の意識改革が大学の学びを活性化させることにつながることを意識共有できた。

なお、この取組自体は、2004年度以降、岡山大学の取組として展開されており、参加者も全国から集まっているが、学生参画型教育改善の実施の難しさもあって、意外に地元の大学からの参加者が少なかった。しかし、岡山オルガノンと共催という形をとってからは、地元である連携校からの参加者も目立ち、先進的な教育改善の取組を連携校で共有する事ができた。このため、今後、各大学の学生参画型教育改善を進める上で大きな効果があった。



写真 1 大学生生活バスケット



写真 2 全体討論



写真 3 グループ毎のまとめ

11

— 学士育成のための計画 —

「共同 FD・SD 実施報告会」(遠隔授業による成果報告を含む) の開催

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：岡山大学オフィス)

(1) 報告会概要

「大学連携による遠隔授業と FD・SD に関するシンポジウム」と題し、岡山オルガノンの大学連携事業でこれまでにやってきた、様々な形態による遠隔授業の実施状況を振り返り、講演者・報告者・参加者の意見交換や議論を通して、遠隔授業の特長と魅力を広く公開するイベントを開催した。

■開催日時：平成23年10月30日(日) 13時 - 15時40分

■会場：岡山理科大学 第25号館8階 理大ホール

■後援等申請団体・機関：岡山県・岡山県教育委員会・岡山市・倉敷市・高梁市・総社市・社団法人岡山経済同友会・山陽新聞社・大学コンソーシアム岡山

■プログラム

[第1部]

13:00~13:05 開会挨拶 (岡山理科大学学長 波田 善夫 氏)

13:05~13:50 基調講演 (金沢大学教授 青野 透 氏)

テーマ：「遠隔授業の双方向性と学生の学習意欲」

[第2部]

14:10~14:40 事例報告 (コーディネータ：岡山大学准教授 和賀 崇 氏)

テーマ 「様々な授業形態から効果的な授業を考える」

報告1 「対面型授業」(岡山大学准教授 有澤 恒夫 氏)

報告2 「双方向ライブ型授業」(川崎医科大学教授 大槻 剛巳 氏)

報告3 「VOD型授業」(岡山理科大学教授 大西 荘一 氏)

14:50~15:30 フロアディスカッション

15:30~15:35 コーディネータ統括

15:35~15:40 閉会挨拶 (大学コンソーシアム岡山会長 井尻 昭夫 氏)



(2) 実施結果

シンポジウムでは、116名の一般市民、教職員、学生、連携校関係者の参加を得ることができた。第1部の基調講演では、「遠隔授業の双方向性と学生の学習意欲」というテーマで、クリッカーを使用した独自の講義スタイルやインターネットを利用した教員、学生間のコミュニケーションの重要性、活用の有効性等について講演をいただいた。第2部の事例報告では、「様々な授業形態から効果的な授業を考える」というテーマで対面型、双方向ライブ型、VOD型授業を担当されている連携校の先生から発表が行われ、各授業方式における教育の質向上に果たす役割や具体的な活用報告等、興味深い報告を拝聴することができた。参加者アンケートの回答では、「教員がどのように授業を考えているのかを知れてよかった」、「FDの手法が理解できた」、「eラーニングの導入を検討している為大変参考になった」等の貴重な意見や感想をいただいた。



基調講演



事例報告



フロアディスカッション

12

—社会人基礎力育成のための計画—

連携校および高校（高大連携）への出張講義の実施 <実践的キャリア指導チームの強化充実>

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

（文責：中国学園大学オフィス）

（1）あらたな実践的・体験型講義プログラムの作成と検証

昨年度までの講義プログラムに加えて、ワーキング（意見交換会）の場で学生および社会人から要望のあがった「課題解決力の強化」「アウトプット力（発信力）の強化」を重視した訓練メニューを開発・導入した。

取り組む課題は、企業側との打合せから、より実践的な内容として、「チームワーク力」「修整能力」の強化も図るべくグループワーク形式の講義案として完成させた。

この新講義は、連携校大学のみならず企業からも実施オファーをいただき、新人研修・昇格者研修および管理職研修の各種セミナーを実施した。企業からの依頼の増加は、作成した講義の「実践的内容」「体験型スタイル」と「講師力」とが評価されたものと振り返る。

企業研修を通じて得た社会人の受講反応・感想は、学生に即フィードバックでき、連携校での講義実施に大いに役立ち、とても有効な実践・検証の場となった。

（企業での講義は6～7時間と長時間が常であり、その実践は「集中型講義」の検証にも直結した）

（2）実践的体験型の講義・講演の実施

平成23年度は、下記の通り「年間91講義（月平均7.5講義）」を実施した。

* 講義・講演の実施回数

	大学 正規講義 (2単位)	大学 単発講義 講演	高校 出前講義 +教員研修	企業 新人研修 管理職研修	計	(月平均)
平成21年度 後期	—	13	9	9	31	(4.4)
平成22年度	—	30	22	4	56	(4.6)
平成23年度	30	18	23	20	91	(7.5)
計	30	61	54	33	178	(5.7)

【講義実施の連携校大学】

正規講義：岡山理科大学

単発講義：岡山大学、環太平洋大学、倉敷芸術科学大学、中国学園大学

（連携校以外の講義実施：中国短期大学、香川大学、姫路獨協大学）



* 特記) ①高校での講義実施は、受講人数・授業時間・会場形態などで様々なパターンの経験ができ、その実践は講義の品質アップに極めて有効であった。また、反応の薄い高校生に対して、単発の機会での場をつかみ理解させ浸透させる講師技量の向上面においても大きな意味があった。

②高校や企業での実施は、教員との勉強会実施や企業の人事担当・管理職との意見交換につながった。

13

—社会人基礎力育成のための計画—

学生参画によるキャリア教育担当者意見交換会（ワークショップ）の開催

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：中国学園大学オフィス)

* 「委員会」に代わり、実質関係者および受講生代表による「ワーキング」「ワークショップ」の開催に変更した。

【理由】 ・ 連携校より担当委員の選出が難しいとの相談があがったため

(「キャリア教育担当は非常勤講師である」「就活支援担当は講義プログラム作成者ではない」等)

・ 事業目的達成のためには、次のメンバーによる意見交換・情報交換が有効であるため

- A. キャリア形成講座の現役受講生
- B. キャリア形成講座の受講経験者（現 学生）
- C. キャリア形成講座の受講経験者（現 社会人）
- D. 大学のキャリア教育担当教員・専門研究者、高校のキャリア教育担当教諭
- E. 企業の人事教育担当者および管理職

⇒ 上記の経緯・理由により、ワーキング（共同研究・共同検討のための意見交換会）方式に変更した

(1) ワーキングの実施

- 平成23年度のテーマ： ①学生や社会が望む「キャリア形成教育」とは
②実践的場面で活かされる「社会人基礎力」とは

■ワーキングの実施回数

	キャリア講座 現役受講生	キャリア講座 受講経験者 (現 学生)	キャリア講座 受講経験者 (現 社会人)	大学教員 高校担当者	企業の担当者	計
平成22年度	4	9	4	5	3	25
平成23年度	2	6	4	3	4	19
計	6	15	8	8	7	44

(2) 学生・社会人の参画によるワークショップの開催

- ・日時： 平成23年 9月30日（金） 14:00～16:00
- ・場所： 中国学園大学 12号館 M203教室
- ・対象： 連携校のキャリア教育担当者・就職支援室職員など *旧委員会メンバーを含む
- ・内容： ①ワーキング報告「ヒヤリングから見た学生と社会の要望」（中国学園大学オフィス 飯田）
②プレゼン「今、学生が望むキャリア教育とは」（現役学生3名+若手社会人1名）
③グループディスカッション（4グループに分かれてのディスカッションと発表）
- ・参加者数： 20名（大学教職員13名、学生3名、社会人1名、担当責任者3名）
- ・参加大学： 岡山商科大学、岡山理科大学、川崎医科大学、環太平洋大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、就実大学、中国学園大学



14

—社会人基礎力育成のための計画—

「実践マナー&ビジネスマインド短期集中講座」の実施

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：中国学園大学オフィス)

- * 今年度あらたに構築した実践的・体験型講義プログラムを、「一日集中講義」形式にて実施した。
【強化ポイント】 「課題解決力」「アウトプット力（発信力）」「チームワーク力」「修整能力」
- * 実際の企業内社員研修と同内容の講義を、オルガノン実践的キャリア指導チームの講師が実施した。

■「ビジネスマインド集中講座」

- ・日時 : 平成23年11月27日(日) 12:30~17:00
- ・場所 : 中国学園大学 図書館 L309教室
- ・内容 : 【第1部】「社会人基礎力養成講座」 講師) 桑田 朋美
 - ・自分と向き合う ~やる気の醸成
 - ・印象マネジメント ・自分を認め活かすために

- 【第2部】「戦略・戦術ノウハウ養成講座」 講師) 松田 周司
 - ・問題解決の技法 (実践課題解決ワーク)
 - ・戦略的思考の道具

- 【第3部】「質問力アップ講座」 講師) 上村 明子
 - ・質問ノウハウと効果的テクニック ・魅力的な話法レッスン

- ・受講者数 : 第1部 22名、第2部 23名、第3部 21名
- ・受講大学 : 岡山大学、岡山県立大学、岡山商科大学、就実大学、ノートルダム清心女子大学、中国学園大学 + 中国短期大学の一部 + 社会人 (高校職員、企業の教育担当者)

* 特記) 開催告知と同時に定員オーバーとなったため、45名超の受講申込みがあった中国短期大学に対しては、別日程にて3講義を実施することとした(12月・1月)



《参考》 平成22年度「実践マナー&ビジネスマインド講座」

平成22年12月4日(土) 12:30~17:00 (岡山大学 一般教育D棟23教室)

- 【第1部】「実践マナー講座」 講師) 桑田 朋美 32名
- 【第2部】「実践ビジネスマインド講座」 講師) 飯田 哲司 36名
- 【第3部】「自己表現力アップ講座」 講師) 上村 明子 24名

受講大学 : 岡山大学、岡山県立大学、岡山理科大学、吉備国際大学、就実大学、ノートルダム清心女子大学 + 中国短期大学、香川大学 + 社会人

15

—社会人基礎力育成のための計画—

「社会人基礎力養成シンポジウム」の開催

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：中国学園大学オフィス)

* 昨年度と同様に、学生・社会人交流スタイルでの「社会人基礎力養成シンポジウム」を開催した。

【強化ポイント】 若手社員に加えて、リーダー社員によるシンポジウムを追加導入

■「社会人基礎力養成シンポジウム」

- ・日時 : 平成23年12月11日(日) 13:00~17:00
- ・場所 : 中国学園大学 12号館 大ホール (M301教室)

- ・内容 : 【第1部】 講演「現場で求められる社会人基礎力とは」
 講師) 飯田 哲司 (岡山オルガノン 中国学園大学オフィス)
 テーマ) ・基礎力を発揮するために ・行動を「力」に変える
 ・目標と現状のギャップを埋める行動と目標設定



【第2部】 シンポジウム①「若手社会人の体験談報告」

- パネラー) 若手社会人3名 (岡山県内の大学出身者、入社2~3年目社員)
- テーマ) ・実社会で大切にしている「基礎力」 ・学生と社会人の違い
 ・自分を変えた出来事・言葉 ・学生たちへ贈る言葉

【第3部】 シンポジウム②「リーダー社員からのメッセージ」

- パネラー) 岡山県内の企業のリーダー社員4名 (営業、事務推進、経営戦略、人事教育)
- テーマ) ・「主体性」 ・「課題発見力」 ・「傾聴力」 ・「ポジティブ思考力」
 ・ゆとり世代を鍛え活かす ・現場のチームワーク力 ・社外ネットワーク

- ・参加者数 : 189名 (大学生132名、大学教職員24名、一般および高校教員等33名)
- ・参加大学 : 岡山大学、岡山県立大学、岡山理科大学、くらしき作陽大学、ノートルダム清心女子大学、中国学園大学 + 中国短期大学、香川大学



《参考》 平成22年度「社会人基礎力養成シンポジウム」

平成22年12月25日(土) 13:00~16:30 於: 中国学園大学 大ホール

【第1部】 基調講演「現場で活かせ! 社会人基礎力」 講師) 松下 直子氏 (オフィスあん 代表)

【第2部】 シンポジウム「後輩たちに贈る現場の熱い言葉」 パネラー) 若手社会人4名

参加者数 : 147名 (大学生115名、大学生以外32名)

受講大学 : 岡山大学、岡山商科大学、岡山理科大学、吉備国際大学、ノートルダム清心女子大学、中国学園大学 + 中国短期大学、香川大学、関西学院大学 + 社会人

16

—地域発信力育成のための計画—

双方向ライブ型方式による遠隔授業の継続配信

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：岡山商科大学オフィス)

(1) 講義運用方法の確立に向けて

テレビ会議システム基本操作マニュアルの作成

テレビ会議システムの基本操作マニュアルや動画ビデオを配信するための操作手順書等を平成22年度に作成した。平成23年4月13日(水)に簡易版マニュアルを作成し、機器担当者一覧、配信デモ日程表と一緒に送付した。また、平成23年4月5日(火)に運用に関する資料及び岡山オルガノンホームページに講義資料をアップロード・ダウンロードするための手順書を作成し送付した。双方向ライブ型遠隔講義や遠隔会議を円滑に行えるよう、体制を整えることができた。



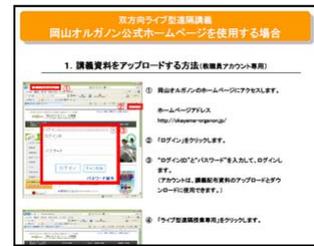
テレビ会議システム基本操作マニュアル



MCU接続方式操作マニュアル



簡易版マニュアルの作成



講義資料の登録手順書

(2) 双方向ライブ型遠隔講義 配信テストの実施

4月8日(金)～4月25日(月)の期間を配信テスト月間とした。双方向ライブ型遠隔講義を前期に配信及び受信する大学を中心に通信テストと操作練習を行うことにより、各大学の機器動作及び操作に関する不明点を確認することができた。

(3) 「双方向コンテンツ委員会」の開催

平成23年度は双方向コンテンツ委員会を2回開催した。履修生募集のチラシ作成、平成24年度以降の双方向ライブ型遠隔講義の運用、大学コンソーシアム岡山継承における業務一元化等について議論し、各大学における問題点や意見を聴取することができた。その他「第24回大学コンソーシアム岡山運営委員会」が平成23年8月22日(月)にテレビ会議システムを使用して開催されることにより、機器担当者の都合と教室の空き状況を確認し調整を行った。

(4) 双方向ライブ型遠隔講義 履修者数と単位修得者数

平成23年度前期の双方向ライブ型遠隔講義は7科目、履修者数は11名、単位修得者数は11名であった。来年度以降も科目の開発及び履修生数の増加における検討を行い、取り組んでいく必要がある。

平成22年度	No	配信大学	科目名	単位修得者数/履修者数	
前期	1	岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅰ	3/3	4/4
	2	川崎医科大学	基礎環境医学	1/1	
後期	1	岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅱ	3/5	9/16
	2	倉敷芸術科学大学	倉敷まちづくり基礎論	3/7	
	3		倉敷まちづくり実践論	3/4	
合計				13/20	
平成23年度	No	配信大学	科目名	単位修得者数/履修者数	
前期	1	岡山大学	大学と社会	4/4	11/11
	2	岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅰ	0/0	
	3	川崎医科大学	個人・社会と医療考	2/2	
	4	川崎医療福祉大学	哲学	0/0	
	5	倉敷芸術科学大学	倉敷まちづくり基礎論	2/2	
	6		まちづくりインターンシップ	2/2	
	7	くらしき作陽大学	特別支援教育概論	1/1	
合計				11/11	

—地域発信力育成のための計画—

17

「大学連携による地域活性化シンポジウム」の開催

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：岡山商科大学オフィス)

平成23年6月26日(日)に岡山商科大学で開催した「大学連携による地域活性化シンポジウム」は、第1分科会は67名、第2分科会は508名の合計575名の一般市民(大学教職員、学生を含む)が参加した。

第1分科会「大学における活動と大学間連携」は、大学教育連携センターが中心となり実施した。岡山オルガノンや地域活性化への取組紹介、連携校学生による学生活動報告やパネルディスカッションなど、パネリストとフロアとの活発な意見交換を行うことができた。第2分科会「日ようび子ども大学」は、幼児・児童教育の実践研究を行う8大学によるイベント実施により、児童は元より保護者、県内教育関係者の資質向上にも大きく貢献した。また参加者アンケートの結果を通して連携校だけではなく地域一体となった取組みの必要性について確認することができた。テレビ会議システム2台を各会場に設置して、第1分科会の様子を第2分科会の会場で生中継配信した。

後援は、岡山県、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、倉敷市教育委員会、総社市教育委員会、高梁市教育委員会、(社)岡山経済同友会、山陽新聞社、大学コンソーシアム岡山の9団体であった。本シンポジウムは山陽新聞朝刊とおかやま財界に掲載された。



第1分科会チラシ

第2分科会チラシ

第1分科会 ディスカッション

第2分科会 展示ブース

第1分科会生中継

【第1分科会】学生活動の取組報告「大学における活動と大学間連携」プログラム

- 基調講演 「川崎医療福祉大学ボランティアセンターの取組について」
西本 哲也 氏 (川崎医療福祉大学 ボランティアセンター 副センター長・講師)
- 学生による事例報告とディスカッション
コーディネーター 小山 悦司 氏 (倉敷芸術科学大学 教育研究支援センター所長、教授)
- 事例報告
 - (1) 「i*See 2010～第1回大学生改善交流」高橋 和 さん (岡山大学、i*See 2010 実行委員長)
 - (2) 「若者の元気がまちを元気にする！」入江 公美子 さん 壺井 志保 さん 難波 志帆 さん (倉敷芸術科学大学)
 - (3) 「科学ボランティアセンター学生スタッフ会の活動紹介」安宅 祐介 くん 杉山 都飛 くん (岡山理科大学)
 - (4) 「本学ボランティアセンター学生スタッフの活動報告と課題」新谷 卓也 くん (川崎医療福祉大学 大学院)

【第2分科会】「日ようび子ども大学」出展大学、テーマ、及び責任者

大学名	テーマ	出展者氏名
岡山県立大学	いろいろな遊具(ゆうぐ)であそぼう!	情報工学部 准教授 越川 茂樹 氏 保健福祉学部 講師 新山 順子 氏
岡山商科大学	「欲しいものや必要なもの」違いを見つけて手に入れられるかな?	経営学部 准教授 高林 宏一 氏
岡山理科大学	おうちでできる楽しい実験・工作	理学部 准教授 高原 周一 氏
川崎医療福祉大学	お子さんの“気質(性格)”を理解して関わりかたについて考えてみよう	医療福祉学部 准教授 武井 祐子 氏
倉敷芸術科学大学	色で遊ぼう!体を使ったお絵かき教室	産業科学技術学部 教授 小山 悦司 氏
山陽学園大学	「生活心理による安全安心マップ」づくり	総合人間学部 教授 澁谷 俊彦 氏
就実大学	就実子育てアカデミーってなんだろう?	教育学部 教授 佐藤 和順 氏
中国学園大学	作って遊ぼう!親子で工作教室!!	子ども学部 講師 中田 周作 氏

18

—地域発信力育成のための計画—

「エコナイト」の開催

■取組の内容および実績 / 具体的な成果と今後の課題

(文責：岡山商科大学オフィス)

平成23年7月7日(木)を中心に開催した「エコナイト」は、地域研究に関する取り組みを行うと共に、連携校15大学で足並みをそろえて省エネについて考える環境教育の実践的活動であり、連携校全体で約1,500名が参加した。岡山県、岡山市等行政団体及び企業とリンクして学生間の交流活動推進と地域への拡充を目的とし、学内消灯や自動車通勤の自粛、その他各大学でイベントを行うことにより意義ある活動を行うことができた。また、教職員と学生が一体となってエコ啓発教育やイベントの取り組みを共有することにより、環境保護の重要性に対する理解と認識を深めることができた。

(1) 岡山県との連携活動

(a) 省エネ活動

5月中旬以降各大学でクールビズを実施、冷暖房温度を28℃に設定、不要な家電品の電源を切る等節電活動を9月下旬(各大学により実施期間は異なる)まで行った。

(b) ライトダウン

午後8時にライトダウンを行い、各大学の施設等を可能な限り消灯した。

(c) マイ・カー乗るまあ day (No my car day)

自動車通勤をしている教職員等は、可能な限り車の利用を控えた。



東日本応援活動 日本地図作成

(2) 岡山市との連携による「東日本応援およびエコイベント」

実施場所：NHK ひかりの広場

参加大学：岡山商科大学、岡山理科大学、山陽学園大学、就実大学

実施内容：「“がんばろう日本”のための『エコ活動』」

学生教職員92名と一般市民の約110名が参加した。4大学の学生78名が主体となって、キャンドルホルダーを使用して東北地方をハートでマークした日本地図作成を行った。またエコうちわに市民の方々から応援メッセージを記入したものを東北に138枚送付した。石巻市でうちわを使用した方から8月8日(月)にお礼状が送られてきた。就実大学も7月9日(土)に科研研究会に参加した際に東北大学大学院文学研究科に東日本応援メッセージ入りうちわ約40本をお渡した。

(3) エコキャンドルの作製工場見学

実施場所：ペガサスキャンドル株式会社

参加大学：岡山大学、岡山商科大学、岡山理科大学、中国学園大学

実施内容：エコ教育の一環として6月22日(水)にキャンドル・ロウソクの開発、製造、販売を行っているペガサスキャンドル(株)へ学生29名が訪問した。廃食油からキャンドルを作製する過程を見学し、学生間の交流活動とエコ啓発教育を推進することができた。

(4) 各大学の活動

連携校12大学の学生が主体となって特色あるイベントを実施し、環境教育の実践的活動に取り組むことができた。



エコナイト フラジ



東日本応援活動 記念撮影



東北へ送付したエコうちわと石巻市から届いたお礼のはがき



エコキャンドル作製工場見学

平成23年度

大学改革推進等補助金

(大学改革推進事業)

調書

平成 23 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書

1. 大学等名／設置者名	岡山理科大学 / 学校法人加計学園
2. プログラム名	大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム
3. 取組名称	「岡山オルガノン」の構築 —学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—
4. 選定年度	平成 21 年度
5. 取組代表者／ 取組担当者	(所属部局・職名・氏名) 取組代表者 学 長 波田 善夫 取組担当者 学外連携推進室 副室長 木村 宏
6. 事務担当者 主担当、副担当を必ず 2名記載して下さい。	主担当 (所属部局・職名・氏名) 学外連携推進室 次長 金子 典正 TEL 086-252-3161 (代表) 086-256-9731 (直通) FAX 086-256-9732 E-mail organon@pub.ous.ac.jp
	副担当 学外連携推進室 課長 小夜 美知子 TEL 086-252-3161 (代表) 086-256-9731 (直通) FAX 086-256-9732 E-mail organon@pub.ous.ac.jp
7. 選定取組の概要	<p>平成 21 年度大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムで選定された「『岡山オルガノン』の構築—学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—」は、過去 3 年間の大学コンソーシアム岡山での連携を強化し、岡山県下の各大学が個別に実施している優れた取組を互いに連携することで各取組を発展・充実させ、地域活性化の担い手となる人材育成に資する総合的教育充実事業である。</p> <p>本事業の目標は、学士力、社会人基礎力、地域発信力の向上であり、これらを融合させることで地域創生型の人材を育成する。具体的には、e-Learning 方式による教育共有の実現、FD・SD 活動の共同実施、学生個々のコンピテンシー向上を目指すキャリア形成教育の共同実施と教育指導者の育成、地域創生・環境教育に関わる教養教育の創出、地域経済界との連携による人材育成教育などである。全大学が特色を生かしつつ、積極的に本事業に取り組み、新たな地域貢献を実現させる。</p>
8. 補助事業の目的・必要性	<p>(1) 全体</p> <p>本補助事業の全体の目的は、連携校間における (A) 教養教育の充実・共同 FD・SD 活動による「学士力」育成、(B) 実践的キャリア指導・社会活動参画による「社会人基礎力」育成、(C) 地域連携による人材育成・地域貢献活動による「地域発信力」育成、という核となる 3 つの力の育成であり、これらの取組が地域一体となった実践の実現により、「岡山オルガノン」が構築され、岡山県から発信される地域創生型の人材育成へとつなげることである。特に本事業では、ネットワーク網で結ばれたテレビ会議システムの活用により、遠隔授業などの教育支援だけでなく、教職員や学生の交流を深化させていくための重要なコミュニケーション支援としての役割も果たし、これにより大学間連携の充実化を図りたい。</p> <p>(2) 本年度</p> <p>本補助事業の本年度の目的は、上記 3 つの力の育成を図るため、21 年度の準備期間および 22 年度の試行実施の成果と課題に基づき、より発展的かつ充実した事業展開を図り、補助期間終了後の継続に向けて「岡山オルガノン」の基礎を構築する。具体的な取組としては、テレビ会議システムや VOD を活用した単位互換科目の拡充、共同 FD 活動の検討・実施や成</p>

果発表、独自の共同 SD 研修会の実施、実践的キャリア指導チームによる連携校等でのキャリア教育、地域活性化シンポジウムやエコナイトのイベント開催、そして補助期間の最終報告書をまとめ事業全体の報告会を行う。また、「岡山オルガノン」の構築に向けた補助期間終了後の実施については、将来構想委員会を中心に、大学コンソーシアム岡山への確実かつ円滑な継承が可能となるよう協議を行う。

9. 本年度の補助事業実施計画

本年度の補助事業の目的を達成するため、

■共通計画（岡山理科大学）

- ① 4月～ 大学教育連携センターおよび各オフィスの運営
- ② 4月～ 「将来構想委員会」の開催
- ③ 5月～ 「岡山オルガノン代表者委員会」の開催
- ④ 12月上旬 「岡山オルガノン事業報告会」の開催
- ⑤ 1月 平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加
- ⑥ 1月下旬 「連携評価委員会」の開催、最終報告書の作成

■学士力育成のための計画（岡山大学）

- ⑦ 4月～ 単位互換制度を活用した配信科目の追加検討・協議・決定
- ⑧ 4月～ 新規VOD科目のコンテンツ制作、8月～9月にICT活用教材作成講習会の実施
- ⑨ 8月 独自の共同SD研修会「クリエイター対策講座」を実施
- ⑩ 9月 FD研修事業「i*See 2011」の共催
- ⑪ 11月 「共同FD・SD実施報告会」（遠隔授業による成果報告を含む）の開催

■社会人基礎力育成のための計画（中国学園大学）

- ⑫ 4月～ 連携校および高校（高大連携）への出張講義の実施＜実践的キャリア指導チームの強化充実＞
- ⑬ 6月 学生参画によるキャリア教育担当者意見交換会（ワークショップ）の開催
- ⑭ 10月 「実践マナー&ビジネスマインド短期集中講座」の実施
- ⑮ 11月 「社会人基礎力養成シンポジウム」の開催

■地域発信力育成のための計画（岡山商科大学）

- ⑯ 4月～ 双方向ライブ型方式による遠隔授業の継続配信
- ⑰ 6月 「大学連携による地域活性化シンポジウム」の開催
- ⑱ 7月 「エコナイト」の開催

10. 補助事業の内容（上記9. の実施計画と対応）

本補助事業は、選定された大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムにおける「『岡山オルガノン』の構築—学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—」について、3つの力の育成に大学が連携して取り組むことで、地域創生型人材の育成だけでなく、高大連携や産学官民連携により地方大学の活性化と再生にもつながられ、県内全体の総合的な高等教育の一層の充実・発展を目指す補助事業であり、内容は以下の通りである。

■共通計画

- ① 大学教育連携センター（岡山理科大学）および各オフィス（岡山大学、岡山商科大学、中国学園大学）に継続して人員配置を行い、それぞれの力の育成のために運営委員会の開催や連携校間での連絡調整、全体の現状把握をしながら、大学連携の推進を図る。
- ② 本取組の連携校教職員および大学コンソーシアム岡山運営委員で組織される「将来構想委員会」を開催する。補助期間終了後の本取組の継続的な実施に向け、大学コンソーシアム岡山との組織統合の具体的な進め方等について協議を行う。
- ③ 連携校の取組担当者およびコーディネーターで組織される「岡山オルガノン代表者委員会」を開催する。取組全体の進捗状況の検証を行い、必要に応じて審議事項の決定を行う。
- ④ 地域住民や全国の大学関係者に対して本取組の成果や課題、また大学教育連携の有用性について報告・発表をする「岡山オルガノン事業報告会」を開催する。
- ⑤ 文部科学省主催の平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ積極的に参加し、本取組に関する情報提供及び他大学の取組の手法、特に補助期間終了後の継続形態等についての情報収集に努め、今後の戦略的大学連携支援に活用する。
- ⑥ 有識者（産学官の外部委員）および連携校代表者（学長等）で組織される「連携評価委員会」を開催する。また外部評価組織として本取組の内容や成果に関する評価報告書を作成し、必要に応じて改善要求や助言指導等を実施する。また本取組の補助期間全体の事業内容を整理し今後の取組に反映させるため、大学教育連携センターおよび各オフィスが中心となって最終報告書を作成する。

■学士力育成のための計画

- ⑦ 連携校の教職員で組織される「学士課程教育連携委員会」を開催し、23年度以降単位互換科目としてライブ方式やVODで配信提供する科目について検討・協議を行い、決定する。単位互換科目については、各大学の特色を出しながら1～2科

目を提供してもらい、本年度は双方向ライブ型遠隔科目で14科目（前期7科目、後期7科目）、VOD型遠隔科目で17科目（前期6科目、後期11科目）の提供を行う。

- ⑧ e-Learning コンテンツとして VOD 型遠隔科目をさらに拡充させるために、新しいコンテンツを作成・編集し、学習管理システムを活用した単位互換科目として提供できるよう体制の強化を図る。また、連携校の教職員に対して e-Learning 活用法や VOD 教材作成法の講習会を継続して開き、その手法や取組における必要性について学習する講習会を設ける。
- ⑨ 共同 SD 活動として、独自の共同 SD 研修会「クレイマー対策講座」を開講する。岡山大学法務研究科の教員に講師を依頼し、正常な苦情・要望から逸脱した要求に対する対処法について研修を行う。
- ⑩ FD 研修事業として岡山大学主催の FD 活動である教育改善学生交流「i*See 2011」を共催する。連携校の教職員・学生に対してこれへの積極的な参加を促し、「学生参画」による教育改善への理解と展開を図る。
- ⑪ 本取組における共同 FD・SD 実施報告会を開催し、これまでの共同 FD・SD の取り組みに関する総括を行う。報告会では、連携各大学における FD・SD 活動の成果を共有し、またライブ型・VOD 型遠隔授業を通じて FD への効果・成果についても議論し、今後の各大学における活動の発展を図る。

■社会人基礎力育成のための計画

- ⑫ 連携校からの講義依頼は「単発」「連続」「正規」の各形態で受託提供する。通年で依頼のある高大連携講義も質の高いプログラム確立とスキルアップのため引き続き受託する。実社会での課題解決プログラムを講義プランとして確立する。
- ⑬ 22 年度に学生と講座 OB に実施したヒアリングと意見交換を元に、連携校間でキャリア教育担当者によるワークショップを実施する。講座展開に、学生の要望と社会の生の声を反映させるため、ワークショップは学生参加スタイルで実施する。
- ⑭ 一日3講義を連続実施する「短期集中講座」を学生の希望する土曜日に開講する。実際の企業内研修の内容を取り入れ、22 年度よりも更に実践的な講義とし、大学連携「キャリア形成講座」との関連付けから短期ながら体験型要素を濃くする。
- ⑮ 22 年度同様、「講演+シンポジウム」の形態で実施する。シンポジウムは地域の第一線で活躍する若手社員（キャリア形成講座 OB）による実態報告第 2 弾を行い、学生と社会人の交流と情報交換の場も創出する。講演は講師チームで実施する。

■地域発信力育成のための計画

- ⑯ 単位互換科目のライブ型遠隔授業は、経営学特殊講義 I・II（岡山経営学）、岡山学、倉敷まちづくり基礎論・実践論などの地域および各大学の特色を生かした科目を配信し、履修生の学習意欲を高める質の向上を目指した遠隔授業を展開する。
- ⑰ 連携校の学生や大学教職員、地域一般が共同で参画できる事業実施を目指して、地域に関する取組を集約し、大学間連携による地域活性化を図る子どもまたは福祉をテーマにして、「大学連携による地域活性化シンポジウム」を開催し、本取組を広く認知してもらう。
- ⑱ 産学官連携のエコ啓発のための環境教育実践活動である「エコナイト」を県・市等と連携して実施し、学生・市民の環境意識を高める。また、行政・経済団体・市民団体等で構成される「エコパートナーシップおかやま」を通じ情報共有発信と連携活動を行う。

本年度は上記の諸事業を通じて、選定取組の充実・発展だけでなく、本取組の基盤を形成させ、補助期間終了後の展開を視野に入れた取組を実施し、本取組の目的である大学教育の基礎・原動力となる「岡山オルガノン」の構築を図ることが本補助事業の内容である。

11. 補助事業から得られる具体的な成果（上記10.の補助事業の内容と対応）

上記の本年度の補助事業実施計画を実施することにより、本補助事業から得られる具体的な成果は、以下の通りである。

■共通計画

- ① 大学教育連携センターおよび各オフィスは本事業を進める上で中核的役割を果たし実施状況の把握や情報整理などにも努める。これらの組織を有機的に活用することにより、円滑な事業展開・拡充へとつながり、更には岡山県内全体の教育力向上につなげられる。
- ② 「将来構想委員会」は本取組を補助期間終了後も継続して取り組むために連携校間で協議する重要な委員会であり、特に大学コンソーシアム岡山との組織統合をするために必要な関係機関との検討・協議をはじめ、人員や費用等実質的な継続運営について協議を進め、継続実施の実現へとつなげることができる。
- ③ 「岡山オルガノン代表者委員会」は定期的な進捗状況の検証、全体の方針策定を行い、事業取組評価と地域貢献評価の2点を実践するために重要な機関である。これにより本取組の事業推進の円滑な実施を図ることができる。
- ④ 「岡山オルガノン事業報告会」を開催することで、本取組について地域住民や全国大学関係者に対して広く理解してもらうことができ、本取組の成果や課題を活かして、この補助事業で取り組んできた内容を全国に情報発信させることができる。
- ⑤ 本取組について全国の関係機関の先進的事例について知る機会となり、本取組の改善や課題解決に活用することができ、さらに継続実施での更なる発展的な取組へとつなげることができる。
- ⑥ 「連携評価委員会」は本取組の成果が当初目標に適ったものであるかを客観的・継続的に評価し、必要に応じて関係者へのヒアリング調査も行いながら確認作業を進め、本取組に対する改善要求や助言指導を行い、継続的評価を図ることができる。最終報告書の作成は、岡山オルガノンの取組を広報するだけでなく、これまでの取り組みを連携校や地域で共有

することにより、今後の更なる発展的な取組へとつなげることができる。

■学士力育成のための計画

- ⑦ 双方向ライブ型遠隔科目・VOD型遠隔科目ともに単位互換科目の提供科目数をさらに充実させることにより、一大学では開講できない多彩な科目提供が可能となり、各大学の特色ある授業を連携校間で共有することができる。また、教養教育科目の非常勤講師の不足に対応することができる。
- ⑧ VOD型遠隔科目の追加コンテンツを作成することで、学生の学士力育成において複合的学際性を高めることができる。また、ICT活用教材作成講習会を継続して実施することにより、ICT技術を用いた教育の拡充を図り、多様な形態による教育の提供が行える。
- ⑨ 教職員がクレーマー対策について、現場での対処・法的手段・事後処理などの具体的な方法を身につけることができる。このことにより、連携校における学生サービスの向上へとつなげることができる。
- ⑩ 岡山大学における「学生主体型」という先進的なFD活動を基盤として、県内の教職員が更に学生共同参画型のFD活動についての見識を深め、本取組が実施する共同FD活動への積極的参加へとつながる。学生が本取組に参画することで自ら受ける教育への意識や意欲の向上を図ることができる。
- ⑪ 連携校間でFD・SD活動に関する知見の共有化を図ることで、連携校全体の教育手法の改善に役立ち、教員の指導力向上は学生の教育力向上へとつながる。またFD・SD実施報告会の開催により、共同FD・SD活動に対する意識を高め、補助期間後の継続した円滑な実施へとつなげることができ、さらに、遠隔授業の特長と魅力を広く公開することにより、遠隔教育の一層の充実を図ることができる。

■社会人基礎力育成のための計画

- ⑫ 大学・高校における各種講義の実践は、「チームのスキル向上」「質の高いプログラムの確立」「教材開発」につながる。高大連携の継続推進は、地域創生型の人材育成に貢献し、地域における大学と高校の関係性強化も果たす。
- ⑬ 大学連携「キャリア形成講座」および高大連携教育での実践内容と実態の報告・共有は、学生や企業が望む「質の高いプログラム確立」につながる。各連携校独自のキャリア教育での実態と課題の共有は、教科の開発・充実・展開に活きる。
- ⑭ 学生からの要望でもある短期集中講座は、通常の大学連携「キャリア形成講座」を受講できない学生に講義提供ができる。体験型スタイルにより他大学学生との交流や協働活動の機会も得られる。大学講義を地域の高校に見せる場にもなっている。
- ⑮ 若手社会人の生の実態を題材にした企画内容は、学生の発見気づき・疑問解決・意思決定に役立つ。社会人との交流の場の提供も加えることで、その意味合いと効果を強める。講師チームと社会人との情報交換も新教材開発に活きる。

■地域発信力育成のための計画

- ⑯ 遠隔授業の継続配信により、効果的な遠隔授業のあり方について実施しながら連携校間で検討し、配信科目の種類、配信方法について展開を図ることができる。
- ⑰ 「大学連携による地域活性化シンポジウム」を行うことで、大学が行う地域に関する研究を集約し、連携校間の学生交流及び大学と市民との繋がりを保ち、地域との関係に立って大学の教育・研究への取り組みを可能とする。また本取組の趣旨及び事業概要を広く一般（学生、地域住民、大学教職員も含む）に説明する場として活用され、連携校だけではなく地域一体となった取組の必要性について提案し、地域や学生に対して協力要請を行うことができる。
- ⑱ 「エコナイト」は環境教育の実践的活動であり、連携校の学生及び市民が一体となって環境啓発への意識を高めることができる。

12. 補助対象経費の明細

補助事業経費の総額 (合計)		補助金の金額 (申請予定額)		自己収入その他の金額	
①=②+③ (千円)		② (千円)		③ (千円)	
57,251		57,251		0	
補助金額					
経費区分		金額 (千円)	積算内訳		
補助 対象 経 費	【全体】				
	設備備品費	3,827			
	旅費	2,306			
	人件費	23,454			
	事業推進費	27,664			
	【うち岡山理科大学】	20,897			
	設備備品費	968	設備備品費	968 千円	
			ライブ型遠隔授業表示装置一式 (1台)	500 千円	【⑦⑩関係】
			テレビ会議システム用カメラ一式 (1台)	468 千円	【⑦⑩関係】
	旅費	516	国内旅費	516 千円	
			実地調査・視察・外部イベント旅費 (2人×6回)	360 千円	【①⑦⑧⑩関係】
			外部講師旅費 (2人×1回)	100 千円	【④関係】
			連携校出張旅費 (2人×12か月)	36 千円	【①⑧⑩関係】
			連携評価委員会出席旅費 (1人×1回)	20 千円	【⑥関係】
	人件費	7,464	謝金	177 千円	
			連携評価委員会出席謝金 (22千円×6人)	133 千円	【⑥関係】
			外部講師謝金 (22千円×2人)	44 千円	【④関係】
			雇用等経費	7,287 千円	
			コーディネーター (300千円×1人×12か月)	3,600 千円	【①②③④⑥関係】
			e-Learning 専門スタッフ (280千円×1人×12か月)	3,360 千円	【①⑧⑩関係】
		連携事業推進補助 (3人×140時間) (4月～1月:780円/1h)	327 千円	【⑦⑩関係】	
事業推進費	11,949	消耗品費	2,000 千円		
		文房具等一式	600 千円	【①②③④⑥関係】	
		連携事業推進等消耗品費	900 千円	【⑦⑧⑩関係】	
		VOD コンテンツ制作関連消耗品費	500 千円	【①⑧関係】	
		借料・損料	30 千円		
		ホームページ用レンタルサーバー (2,500円×12か月)	30 千円	【①関係】	
		印刷製本費	357 千円		
		最終報告書 (700円×400部)	280 千円	【⑥関係】	
		事業報告会用ちらし (20円×2,000枚)	40 千円	【④関係】	
		事業報告会用ポスター (185円×200枚)	37 千円	【④関係】	
		通信運搬費	224 千円		
		資料等送料 (12か月) (250円×800通)	200 千円	【①～⑩関係】	
		電話料 (2千円×12か月)	24 千円	【①～⑩関係】	
		雑役務費	5,760 千円		
		事務補佐員派遣料 (240千円×2人×12か月)	5,760 千円	【①②③④⑥⑧⑩関係】	
		委託費	3,578 千円		
		LMS サーバー保守管理料 (4月～3月)	2,149 千円	【⑦⑧関係】	

		多地点接続用サーバー保守管理料 (4月~3月)	1,129 千円	【⑦⑩関係】
		センター用複写機保守料 (25 千円×12 か月)	300 千円	【①②③④⑥⑧⑩関係】
【うち岡山大学】	10,013			
旅費	360	国内旅費	360 千円	
		実地調査・視察・外部イベント旅費 (2人×6回)	360 千円	【⑦⑨⑩⑪関係】
人件費	6,933	謝金	150 千円	
		外部講師謝金 (30 千円×5 人、旅費相当含む)	150 千円	【⑩⑪関係】
		雇用等経費	6,783 千円	
		コーディネーター (323 千円×1 人×12 か月)	3,876 千円	【①⑦⑨⑩⑪関係】
		事務職員 (234 千円×1 人×12 か月)	2,808 千円	【①⑦⑨⑩⑪関係】
		連携事業推進補助 (4 人×30 時間)	99 千円	【⑦⑩関係】
		(4 月~2 月: 830 円/1h)		
事業推進費	2,720	消耗品費	1,600 千円	
		文房具等一式	300 千円	【①⑦⑨⑩⑪関係】
		連携事業推進等消耗品費	1,300 千円	【⑦⑧⑩関係】
		印刷製本費	1,020 千円	
		FD 研修事業用ちらし (20 円×1,000 枚)	20 千円	【⑩関係】
		FD 研修事業用資料 (400 円×200 部)	80 千円	【⑩関係】
		FD・SD 実施報告会用ちらし (20 円×1,000 枚)	20 千円	【⑪関係】
		FD・SD 実施報告会用資料 (500 円×200 部)	100 千円	【⑪関係】
		単位互換ちらし (17 円×40,000 枚)	668 千円	【⑦関係】
		単位互換ポスター (330 円×400 枚)	132 千円	【⑦関係】
		通信運搬費	100 千円	
		資料等送料 (12 か月) (250 円×288 通)	72 千円	【①~⑩関係】
		単位互換関連郵送料 (1 千円×14 通×2 回)	28 千円	【⑦⑧⑩関係】
【うち岡山県立大学】	575			
旅費	10	国内旅費	10 千円	
		委員会等出席旅費 (1 人×10 回)	10 千円	【①~⑩関係】
人件費	99	雇用等経費	99 千円	
		連携事業推進補助 (3 人×30 時間)	99 千円	【⑦⑩関係】
		(10 月~2 月: 1,100 円/1h)		
事業推進費	466	消耗品費	366 千円	
		ライブ型遠隔授業関連消耗品費	366 千円	【⑦⑩関係】
		通信運搬費	100 千円	
		単位互換関連郵送料 (240 円×14 通×30 回)	100 千円	【⑦⑧⑩関係】
【うち岡山学院大学】	393			
事業推進費	393	消耗品費	393 千円	
		連携事業推進等消耗品費	393 千円	【⑦⑧⑩関係】
【うち岡山商科大学】	8,318			
旅費	300	国内旅費	300 千円	
		先進取組大学視察旅費 (1 人×9 回)	180 千円	【①⑩⑪⑫⑬⑭⑮関係】
		GP 合同フォーラム参加旅費 (1 人)	50 千円	【⑤関係】
		外部講師旅費 (4 人×1 回)	40 千円	【⑮関係】
		連携等推進事業旅費 (1 人×10 回)	30 千円	【①~⑩関係】

人件費	120	謝金	36千円	
		外部講師謝金 (12千円×3人)	36千円	【⑰関係】
		雇用等経費	84千円	
		連携事業推進補助 (2人×60時間) (4月～1月:700円/1h)	84千円	【⑦⑰関係】
事業推進費	7,898	消耗品費	1,200千円	
		文房具等一式	300千円	【①⑱⑲⑳関係】
		連携事業推進等消耗品費	900千円	【⑦⑸⑱関係】
		借料・損料	858千円	
		サテライトオフィス用コピー機借料 (60千円×12か月)	720千円	【①⑱⑲⑳関係】
		サテライトオフィス用パソコン借料 (8,190円×12か月)	98千円	【①⑱⑲⑳関係】
		バス借上げ料 (1台×1回)	40千円	【⑱関係】
		印刷製本費	300千円	
		シンポジウム用ちらし (20円×3,000枚)	60千円	【⑰関係】
		シンポジウム用資料 (500円×360部)	180千円	【⑰関係】
		エコナイト用ちらし (20円×3,000枚)	60千円	【⑱関係】
		通信運搬費	100千円	
		資料等送料 (12か月) (250円×400通)	100千円	【①～⑱関係】
		雑役務費	5,400千円	
		コーディネーター派遣料 (225千円×1人×12か月)	2,700千円	【①⑱⑲⑳関係】
		事務補佐員派遣料 (225千円×1人×12か月)	2,700千円	【①⑱⑲⑳関係】
		委託費	40千円	
		バス運行管理士委託料 (1人×1回)	40千円	【⑱関係】
【うち川崎医科大学】 旅費	237 7	国内旅費	7千円	
		委員会等出席旅費 (1人×16回)	7千円	【①～⑱関係】
事業推進費	230	消耗品費	230千円	
		連携事業推進等消耗品費	230千円	【⑦⑸⑱関係】
【うち川崎医療福祉大学】 旅費	440 10	国内旅費	10千円	
		委員会等出席旅費 (1人×13回)	10千円	【①～⑱関係】
人件費	120	雇用等経費	120千円	
		連携事業推進補助 (1人×4か月) (4月～7月:30千円/1か月)	120千円	【⑦⑰関係】
事業推進費	310	消耗品費	310千円	
		連携事業推進等消耗品費	310千円	【⑦⑸⑱関係】
【うち環太平洋大学】 設備備品費	842 200	設備備品費	200千円	
		ライブ型遠隔授業ビデオカメラ一式 (1台)	200千円	【⑦⑱関係】
人件費	192	雇用等経費	192千円	
		連携事業推進補助 (1人×240時間)	192千円	【⑦⑰関係】

		(4月～1月：800円/1h)		
事業推進費	450	消耗品費	450千円	
		連携事業推進等消耗品費	450千円	【⑦⑧⑬関係】
【うち吉備国際大学】	1,392			
旅費	300	国内旅費	300千円	
		実地調査・視察・外部イベント旅費(2人×3回)	180千円	【⑦⑧⑬関係】
		委員会等出席旅費(2人×12回)	120千円	【①～⑱関係】
人件費	292	雇用等経費	292千円	
		連携事業推進補助(2人×200時間)	292千円	【⑦⑬関係】
		(4月～1月：730円/1h)		
事業推進費	800	消耗品費	700千円	
		ライブ型遠隔授業関連消耗品費	700千円	【⑦⑬関係】
		通信運搬費	100千円	
		単位互換関連郵送料(1,250円×10通×8か月)	100千円	【⑦⑧⑬関係】
【うち倉敷芸術科学大学】	2,456			
設備備品費	909	設備備品費	909千円	
		テレビ会議システム用カメラ式(2台)	909千円	【⑦⑬関係】
旅費	10	国内旅費	10千円	
		委員会等出席旅費(1人×10回)	10千円	【①～⑱関係】
人件費	790	謝金	400千円	
		まちづくり科目外部講師謝金(40千円×10人)	400千円	【⑦⑬関係】
		雇用等経費	390千円	
		連携事業推進補助(5人×100時間)	390千円	【⑦⑬関係】
		(4月～1月：780円/1h)		
事業推進費	747	消耗品費	737千円	
		連携事業推進等消耗品費	737千円	【⑦⑧⑬関係】
		通信運搬費	10千円	
		単位互換関連郵送料(1,000円×10回)	10千円	【⑦⑧⑬関係】
【うちくらしき作陽大学】	1,292			
設備備品費	200	設備備品費	200千円	
		ライブ型遠隔授業ビデオカメラ式(1台)	200千円	【⑦⑬関係】
旅費	222	国内旅費	222千円	
		外部イベント参加旅費(1人×3回)	150千円	【⑦⑨⑩⑪関係】
		委員会等出席旅費(2人×12回)	72千円	【①～⑱関係】
人件費	492	謝金	300千円	
		外部講師謝礼(100千円×3人、旅費相当含む)	300千円	【⑨⑪関係】
		雇用等経費	192千円	
		連携事業推進補助(2人×120時間)	192千円	【⑦⑬関係】
		(4月～1月：800円/1h)		
事業推進費	378	消耗品費	168千円	

		連携事業推進等消耗品費	168 千円	【⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯関係】
		印刷製本費	150 千円	
		FD・SD 研修会用ちらし (20 円×3,750 枚×2 回)	150 千円	【⑨⑩関係】
		通信運搬費	60 千円	
		資料等送料 (5 千円×12 か月)	60 千円	【⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯関係】
【うち山陽学園大学】	1, 260			
設備備品費	950	設備備品費	950 千円	
		ライブ型遠隔授業表示装置一式 (1 台)	750 千円	【⑦⑫⑬⑭⑮⑯関係】
		ライブ型遠隔授業ビデオカメラ一式 (1 台)	200 千円	【⑦⑫⑬⑭⑮⑯関係】
人件費	192	雇用等経費	192 千円	
		連携事業推進補助 (2 人×120 時間)	192 千円	【⑦⑫⑬⑭⑮⑯関係】
		(4 月～1 月 : 800 円/1h)		
事業推進費	118	消耗品費	98 千円	
		ライブ型遠隔授業関連消耗品費	98 千円	【⑦⑫⑬⑭⑮⑯関係】
		通信運搬費	20 千円	
		単位互換関連郵送料 (2,500 円×8 か月)	20 千円	【⑦⑧⑫⑬⑭⑮⑯関係】
【うち就実大学】	487			
設備備品費	200	設備備品費	200 千円	
		ライブ型遠隔授業ビデオカメラ一式 (1 台)	200 千円	【⑦⑫⑬⑭⑮⑯関係】
人件費	266	雇用等経費	266 千円	
		連携事業推進補助 (4 人×90 時間)	266 千円	【⑦⑫⑬⑭⑮⑯関係】
		(4 月～1 月 : 740 円/1h)		
事業推進費	21	消耗品費	10 千円	
		ライブ型遠隔授業関連消耗品費	10 千円	【⑦⑫⑬⑭⑮⑯関係】
		通信運搬費	11 千円	
		単位互換関連郵送料 (11 か月) (420 円×28 通)	11 千円	【⑦⑧⑫⑬⑭⑮⑯関係】
【うち中国学園大学】	7, 957			
設備備品費	200	設備備品費	200 千円	
		ライブ型遠隔授業ビデオカメラ一式 (1 台)	200 千円	【⑦⑫⑬⑭⑮⑯関係】
旅費	421	国内旅費	421 千円	
		研修会参加旅費 (1 人×10 回)	200 千円	【⑫⑬⑭⑮⑯関係】
		実地調査・視察旅費 (2 人×24 回)	180 千円	【⑫⑬⑭⑮⑯関係】
		外部講師旅費 (11 人×1 回)	41 千円	【⑮⑯関係】
人件費	6, 302	謝金	110 千円	
		外部講師謝金 (10 千円×11 人×1 回)	110 千円	【⑮⑯関係】
		雇用等経費	6,192 千円	
		コーディネーター (社会保険料等全込)	3,600 千円	【①⑫⑬⑭⑮⑯関係】
		(300 千円×1 人×12 か月)		
		事務補佐員 (社会保険料等全込)	2,400 千円	【①⑫⑬⑭⑮⑯関係】
		(200 千円×1 人×12 か月)		
		連携事業推進補助 (2 人×120 時間)	192 千円	【⑦⑫⑬⑭⑮⑯関係】
		(4 月～1 月 : 800 円/1h)		

事業推進費	1,034	消耗品費	600千円			
		文房具等一式	200千円	【①②③④⑤関係】		
		連携事業推進等消耗品費	400千円	【⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯関係】		
		印刷製本費	334千円			
		講座用ちらし (40円×2,000枚)	80千円	【⑭関係】		
		講座用ポスター (185円×200枚)	37千円	【⑭関係】		
		シンポジウム用ちらし (40円×2,000枚)	80千円	【⑮関係】		
		シンポジウム用ポスター (185円×200枚)	37千円	【⑮関係】		
		シンポジウム用冊子 (500円×200部)	100千円	【⑮関係】		
		通信運搬費	100千円			
		資料等送料 (12か月) (250円×400通)	100千円	【①～⑱関係】		
		【うちノートルダム清心女子大学】	692			
		設備備品費	200	設備備品費	200千円	
				ライブ型遠隔授業ビデオカメラ一式 (1台)	200千円	【⑦⑱関係】
		旅費	150	国内旅費	150千円	
		外部イベント参加旅費 (3人×1回)	150千円	【⑦⑨⑩関係】		
人件費	192	雇用等経費	192千円			
		連携事業推進補助 (2人×120時間) (4月～1月:800円/1h)	192千円	【⑦⑱関係】		
事業推進費	150	消耗品費	150千円			
		ライブ型遠隔授業関連消耗品費	150千円	【⑦⑱関係】		

合計	57,251	
----	--------	--

各年度の補助事業経費 (①) の合計額

年度	平成23年度
予定額 (千円)	57,251

13. 設備備品費補足表

品名	数量	金額	納入予定時期	目的・使途・利用頻度
テレビ会議システム 用カメラ一式	3台	1,377千円	平成23年4月	本設備備品は、選定事業におけるライブ型遠隔授業の配信において、テレビ会議システムの追加HD（高画質）カメラとして購入する。現行のカメラ1台では教員と学生を交互に映す場合カメラを旋回する必要があるが、旋回角度の制限や旋回時間がかかる等問題があり、本備品の導入により1教室2台のカメラで配信映像を容易かつ瞬時に切り替えられ、円滑な授業運営につなげられる。本備品はライブ型遠隔授業（14科目）時に継続して使用する。また本備品は選定事業の専用備品として活用するため代替品がなく、購入する予定である。本品は補助事業期間終了後も継続して使用するため、レンタルより安価な購入とし設備備品費とした。
ライブ型遠隔授業 表示装置一式	2台	1,250千円	平成23年4月	本設備備品は、選定事業におけるライブ型遠隔授業、教職員や学生同士のコミュニケーションツールとして活用するものであり、配信される映像を表示するためのものである。本年度購入する2大学は、教室の学生収容規模や表示装置の未設置により、代替品がなく授業配信映像表示に対応するため購入する予定である。本年度はライブ型遠隔授業（14科目）だけでなく会議や機器操作練習等でも継続して利用する。本品は補助事業期間終了後も継続して使用するため、レンタルより安価な購入とし設備備品費とした。
ライブ型遠隔授業 ビデオカメラ一式	6台	1,200千円	平成23年4月	本設備備品は、選定事業におけるライブ型遠隔授業において機器や通信回線の不具合が発生し授業が受配信できない場合に備え、ライブ型遠隔授業を撮影・録画しDVD等に複製することにより、障害発生時でも学生は同様の授業を受講できるようにするためのものである（質疑応答等は個別対応）。本備品は毎回のライブ型遠隔授業の記録に使用するため、開講期間中は継続して利用する。本備品は選定事業の専用備品として活用するため代替品がなく、購入する予定である。本品は補助事業期間終了後も継続して使用するため、レンタルより安価な購入とし設備備品費とした。

14. 大学改革推進等補助金の配分状況

(単位：千円)

	申請額	補助金額		自己負担額
			うち共通分	
岡山理科大学	20,897	20,897	18,402	0
岡山大学	10,013	10,013	8,254	0
岡山県立大学	575	575	0	0
岡山学院大学	393	393	0	0
岡山商科大学	8,318	8,318	7,104	0
川崎医科大学	237	237	0	0
川崎医療福祉大学	440	440	0	0
環太平洋大学	842	842	0	0
吉備国際大学	1,392	1,392	0	0
倉敷芸術科学大学	2,456	2,456	400	0
くらしき作陽大学	1,292	1,292	450	0
山陽学園大学	1,260	1,260	0	0
就実大学	487	487	0	0
中国学園大学	7,957	7,957	6,985	0
ノートルダム清心女子大学	692	692	0	0
計	57,251	57,251	41,595	0

平成23年度

岡山オルガノン事業

年間活動カレンダー

2011年度岡山オルガノン活動予定表(第1四半期:4月～6月)

4月		5月		6月	
1	金		1	水	16:50～18:20ライブ授業⑧特別支援教育総論《くらしき作陽大学》
2	土		2	木	
3	日		3	金	9:00～10:30ライブ授業⑦①個人・社会と医療者《川崎医科大学》 12:45～14:15ライブ授業⑦②大学と社会《岡山大学》
4	月		4	土	13:10～18:10ライブ授業⑦③倉敷まちづくり基礎論 《倉敷芸術科学大学》 ライブ授業⑨④個人・社会と医療者《川崎医科大学》
5	火		5	日	
6	水	16:50～18:20ライブ授業①特別支援教育総論《くらしき作陽大学》	6	月	8:40～10:10ライブ授業⑨⑤哲学《川崎医療福祉大学》 14:40～16:10ライブ授業⑨⑥経営学特殊講義Ⅰ《岡山商科大学》
7	木		7	火	
8	金	9:00～10:30ライブ授業①個人・社会と医療者《川崎医科大学》	8	水	16:50～18:20ライブ授業⑨特別支援教育総論《くらしき作陽大学》
9	土		9	木	
10	日		10	金	9:00～10:30ライブ授業⑧⑦個人・社会と医療者《川崎医科大学》 12:45～14:15ライブ授業⑧⑧大学と社会《岡山大学》
11	月	8:40～10:10ライブ授業①哲学《川崎医療福祉大学》 14:40～16:10ライブ授業①経営学特殊講義Ⅰ《岡山商科大学》	11	土	
12	火		12	日	
13	水	16:50～18:20ライブ授業②特別支援教育総論《くらしき作陽大学》	13	月	8:40～10:10ライブ授業⑩⑨哲学《川崎医療福祉大学》 14:40～16:10ライブ授業⑩⑩経営学特殊講義Ⅰ《岡山商科大学》
14	木		14	火	
15	金	岡山オルガノン通信No.20発行 9:00～10:30ライブ授業②個人・社会と医療者《川崎医科大学》 12:45～14:15ライブ授業②大学と社会《岡山大学》	15	水	16:50～18:20ライブ授業⑩特別支援教育総論《くらしき作陽大学》
16	土		16	木	
17	日		17	金	11:00～12:00[理大]コーディネーター会議《岡山大学》 17:00～18:30[商大]双方向コンテント委員会《岡山商科大学》 12:45～14:15ライブ授業⑨⑨大学と社会《岡山大学》
18	月	8:40～10:10ライブ授業②哲学《川崎医療福祉大学》 14:40～16:10ライブ授業②経営学特殊講義Ⅰ《岡山商科大学》	18	土	13:10～18:10ライブ授業⑩⑪倉敷まちづくり基礎論 《倉敷芸術科学大学》

4月		5月		6月	
19	火	17:00～18:00[理大]将来構想委員会《岡山商科大学》	19	木	
20	水	16:50～18:20ライブ授業③特別支援教育総論《くらしき作陽大学》	20	金	岡山オルガン通信No.21発行 9:00～10:30ライブ授業⑤個人・社会と医療考《川崎医科大学》 12:45～14:15ライブ授業⑤大と社《岡山大学》
21	木		21	土	13:10～18:10ライブ授業④・⑤・⑥倉敷まちづくり基礎論 《倉敷芸術科学大学》
22	金	10:30～12:00[理大]大学教育連携センター・サテライトオフィス 担当者会議《岡山理科大学》 9:00～10:30ライブ授業③個人・社会と医療考《川崎医科大学》 12:45～14:15ライブ授業②大学と社会《岡山大学》	22	日	
23	土		23	月	8:40～10:10ライブ授業⑦哲学《川崎医療福祉大学》 14:40～16:10ライブ授業⑦経営学特殊講義Ⅰ《岡山商科大学》
24	日		24	火	
25	月	8:40～10:10ライブ授業③哲学《川崎医療福祉大学》 14:40～16:10ライブ授業③経営学特殊講義Ⅰ《岡山商科大学》	25	水	16:50～18:20ライブ授業⑦特別支援教育総論《くらしき作陽大学》
26	火		26	木	
27	水	16:50～18:20ライブ授業④特別支援教育総論《くらしき作陽大学》	27	金	15:30～17:00[理大]大学教育連携センター・サテライト オフィス担当者会議《岡山理科大学》 9:00～10:30ライブ授業⑥個人・社会と医療考《川崎医科大学》 12:45～14:15ライブ授業⑥大と社《岡山大学》
28	木		28	土	
29	金	祝 昭和の日	29	日	
30	土		30	月	8:40～10:10ライブ授業⑧哲学《川崎医療福祉大学》 14:40～16:10ライブ授業⑧経営学特殊講義Ⅰ《岡山商科大学》
			31	火	17:00～19:00[商大]地域活性化委員会《岡山商科大学》
					【確認事項】 ・[商大]エコナイト実施計画アンケート(※4/5) ・[商大]双方向ライブ型遠隔科目受信のお願い(4/6) ・[理大]平成23年度年間常時予定提出依頼(※4/6) ・[商大]ライブ型遠隔講義担当者連絡票について(※4/8) ・[商大]大学連携による地域活性化シンポジウム企画案確認(※4/8) ・[文部科学省]平成23年度交付申請書(※4/13) ・[理大]平成23年度担当者名簿更新依頼(※4/15) ・[文部科学省]平成22年度実績報告書(※4/28)
					【確認事項】 ・[商大]エコナイトイベント実施のご連絡(※5/12) ・[商大]「エコナイト」イベント参加のお願い(※5/27 & 6/10) ・[理大]平成24年度VOD科目提供に関する調査(※5/31)
					【確認事項】 ・[理大]大学連携による地域活性化シンポジウム ・分科会方式 ・場所:岡山商科大学 学生会館 1階-2階 【エコナイト関係】 ・エコナイトの準備等行う 【確認事項】 ・[理大]連携評価委員会委員へ委嘱状および日程調整票送付(※6/10) ・[岡大]後期科目に関する照会(※6/16) ・[岡大]後期開講科目ちらしの原稿作成について(依頼)(※6/16) ・[文部科学省]交付請求書第1・第2-四半期分(※7/8)

2011年度岡山オルガノン活動予定表(第2四半期:7月～9月)

7月		8月		9月	
日	内容	日	内容	日	内容
1 金	12:45～14:15ライブ授業⑪大学と社会《岡山大学》	1 月		1 木	
2 土	13:10～18:10ライブ授業⑬・⑭・⑮倉敷まちづくり基礎論 《倉敷芸術科学大学》	2 火	岡山オルガノン通信No.24発行	2 金	
3 日		3 水		3 土	13:10～18:10ライブ授業⑬・⑭・⑮まちづくりインターンシップ 《倉敷芸術科学大学》
4 月	8:40～10:10ライブ授業⑬哲学《川崎医療福祉大学》 14:40～16:10ライブ授業⑬経営学特殊講義Ⅰ《岡山商科大学》	4 木		4 日	
5 火		5 金		5 月	16:00～17:00[理大]将来構想委員会《岡山理科大学》
6 水	16:50～18:20ライブ授業⑬特別支援教育総論《くらしき作陽大学》	6 土		6 火	
7 木	[商大]エコナイト《連携各大学》	7 日	9:00～14:30作陽サマーキッズキャンパス2011 《くらしき作陽大学》(後援)	7 水	10:00～11:30[理大]コーデイネーター会議《岡山大学》
8 金	12:45～14:15ライブ授業⑯大学と社会《岡山大学》	8 月	15:00～16:30[理大]将来構想委員会《岡山商科大学》	8 木	
9 土	13:10～16:25ライブ授業①・②まちづくりインターンシップ 《倉敷芸術科学大学》	9 火		9 金	
10 日		10 水		10 土	[岡大]*See2011《岡山大学》
11 月	8:40～10:10ライブ授業⑭哲学《川崎医療福祉大学》 14:40～16:10ライブ授業⑭経営学特殊講義Ⅰ《岡山商科大学》	11 木		11 日	[岡大]*See2011《岡山大学》
12 火	16:45～18:15[理大]e-Learning運営委員会《岡山理科大学》	12 金		12 月	
13 水	16:50～18:20ライブ授業⑭特別支援教育総論《くらしき作陽大学》	13 土		13 火	
14 木		14 日		14 水	
15 金	岡山オルガノン通信No.23発行 10:00～12:00[理大]コーデイネーター会議《岡山大学》 12:45～14:15ライブ授業⑮大学と社会《岡山大学》	15 月		15 木	
16 土		16 火		16 金	
17 日		17 水		17 土	
18 月・祝	海の日	18 木		18 日	

7月		8月		9月	
19	火		19	金	19 月・祝 敬老の日
20	水	16:50～18:20ライブ授業⑮特別支援教育総論《くらしき作陽大学》	20	土	岡山オルガノン通信No.25発行
21	木		21	日	
22	金	12:45～14:15ライブ授業⑯大学と社会《岡山大学》	22	月	16:30～18:00ライブ授業①宗教思想《山陽学園大学》
23	土	13:10～16:25ライブ授業③・④まちづくりインタビュー 《倉敷芸術科学大学》	23	火	10:00～12:00[理大]コデーネーター会議《岡山大学》
24	日		24	水	
25	月	8:40～10:10ライブ授業⑮哲学《川崎医療福祉大学》 14:40～16:10ライブ授業⑮経営学特殊講義Ⅰ《岡山商科大学》	25	木	
26	火		26	金	14:40～16:10ライブ授業①経営学特殊講義Ⅱ《岡山商科大学》 16:50～18:20ライブ授業①岡山学《岡山理科大学》
27	水		27	土	
28	木	14:50～16:30ノートルダム清心女子大学FD講演会 《ノートルダム清心女子大学》(後援)	28	日	8:40～10:10ライブ授業①音楽の鑑賞《岡山県立大学》 13:10～14:40ライブ授業①現代子ども学入門《中国学園大学》
29	金	12:45～14:15ライブ授業⑯大学と社会《岡山大学》	29	月	10:00～15:00[岡大]共同SD研修会《岡山大学》
30	土		30	火	14:00～16:00[中国]社会人基礎力養成「ワークショップ」 《中国学園大学》
31	日		31	水	
<p>【単位互換履修生募集受付期間：7/1～9/14】 【7/7エコナイト ※時期の前後あり】 ・マイカー乗るまあDayや一斉ライブダウンを共通取組として実施</p> <p>ライブ授業⑤～⑯「まちづくりインタビュー」(7/24～9/2の間、計90時間)《倉敷芸術科学大学》</p> <p>【確認事項】 ・[岡大]後期開講科目の履修受付期間延長の調査について(※7/21) ・[岡大]エコナイト実施報告アンケート(※7/22) ・[理大]平成23年度補助金執行状況に関する調査について(※7/29)</p>		<p>【単位互換履修生募集受付期間(後期)：7/1～9/14】 【9/10-9/11※See2011】 ・場所：岡山大学 一般教育棟 【キャリア教育担当者意見交換会(ワークショップ)】 ・場所：中国学園大学</p> <p>【確認事項】 ・[理大]学習管理システム「まなびオルガノン」のアカウントにつきまして(※9/26) ・[理大]最終報告書原稿執筆依頼(※9/30)</p>		<p>【単位互換履修生募集受付期間(後期)：7/1～9/14】 【8/29共同SD研修会「クリエイター対策講座」】 ・場所：岡山大学 一般教育棟E棟2階 E21教室</p> <p>【確認事項】 ・[岡大]大学コンソーシアム岡山 遠隔会議実施のご連絡(※8/8) ・[文部科学省]H22実績報告書の確認事項(※8/12)</p>	

2011年度岡山オルガノン活動予定表(第3四半期:10月～12月)

10月		11月		12月	
1	土 13:10～18:10ライブ授業①・②・③倉敷まちづくり実践論 《倉敷芸術科学大学》	1	火 16:00～17:30[理大]将来構想委員会《岡山理科大学》 10:35～12:05ライブ授業⑤スポーツ栄養学《環太平洋大学》	1	木 16:30～18:00ライブ授業⑩宗教思想《山陽学園大学》
2	日	2	水 8:40～10:10ライブ授業⑥音楽の鑑賞《岡山県立大学》 13:10～14:40ライブ授業⑥現代子ども学入門《中国学園大学》	2	金 15:00～17:00[岡大]学士課程教育連携委員会《岡山大学》
3	月 14:40～16:10ライブ授業②経営学特殊講義Ⅱ《岡山商科大学》 16:50～18:20ライブ授業②岡山学《岡山理科大学》	3	木祝 文化の日	3	土 13:00～16:10[理大]岡山オルガノン事業報告会《岡山理科大学》 13:10～18:10ライブ授業⑬・⑭・⑮倉敷まちづくり実践論 《倉敷芸術科学大学》
4	火 10:35～12:05ライブ授業②スポーツ栄養学《環太平洋大学》	4	金	4	日
5	水 8:40～10:10ライブ授業②音楽の鑑賞《岡山県立大学》 13:10～14:40ライブ授業②現代子ども学入門《中国学園大学》	5	土	5	月 14:40～16:10ライブ授業⑩経営学特殊講義Ⅱ《岡山商科大学》 16:50～18:20ライブ授業⑩岡山学《岡山理科大学》
6	木 16:30～18:00ライブ授業③宗教思想《山陽学園大学》	6	日	6	火 13:00～14:30[理大]岡山オルガノン代表者委員会 《岡山商科大学》
7	金 16:50～18:20ライブ授業③岡山学《岡山理科大学》	7	月 14:40～16:10ライブ授業⑥経営学特殊講義Ⅱ《岡山商科大学》 16:50～18:20ライブ授業⑦岡山学《岡山理科大学》	7	水 8:40～10:10ライブ授業⑩音楽の鑑賞《岡山県立大学》 13:10～14:40ライブ授業⑩現代子ども学入門《中国学園大学》
8	土 16:50～18:20ライブ授業③岡山学《岡山理科大学》	8	火 10:35～12:05ライブ授業⑥スポーツ栄養学《環太平洋大学》	8	木 岡山オルガノン通信No.28発行 16:30～18:00ライブ授業⑪宗教思想《山陽学園大学》
9	日	9	水 8:40～10:10ライブ授業⑦音楽の鑑賞《岡山県立大学》 13:10～14:40ライブ授業⑦現代子ども学入門《中国学園大学》	9	金
10	月祝 体育の日	10	木 15:30～17:00[理大]ICT活用教材作成講習会《岡山理科大学》 16:30～18:00ライブ授業⑦宗教思想《山陽学園大学》	10	土
11	火 12:30～14:00[理大]コア・ディネーター会議《岡山理科大学》 10:35～12:05ライブ授業③スポーツ栄養学《環太平洋大学》 14:40～16:10ライブ授業③経営学特殊講義Ⅱ《岡山商科大学》	11	金 13:10～18:10ライブ授業⑩・⑪・⑫倉敷まちづくり実践論 《倉敷芸術科学大学》	11	日 13:00～17:00[中国]社会人基礎力養成シンポジウム 《中国学園大学》
12	水 8:40～10:10ライブ授業③音楽の鑑賞《岡山県立大学》 13:10～14:40ライブ授業③現代子ども学入門《中国学園大学》	12	土 13:10～18:10ライブ授業⑩・⑪・⑫倉敷まちづくり実践論 《倉敷芸術科学大学》	12	月 14:40～16:10ライブ授業⑪経営学特殊講義Ⅱ《岡山商科大学》 16:50～18:20ライブ授業⑪岡山学《岡山理科大学》
13	木 16:30～18:00ライブ授業④宗教思想《山陽学園大学》	13	日	13	火 10:35～12:05ライブ授業⑪スポーツ栄養学《環太平洋大学》
14	金	14	月 14:40～16:10ライブ授業⑦経営学特殊講義Ⅱ《岡山商科大学》 16:50～18:20ライブ授業⑧岡山学《岡山理科大学》	14	水 8:40～10:10ライブ授業⑩音楽の鑑賞《岡山県立大学》 13:10～14:40ライブ授業⑩現代子ども学入門《中国学園大学》
15	土 13:10～18:10ライブ授業④・⑤・⑥倉敷まちづくり実践論 《倉敷芸術科学大学》	15	火 14:30～17:00[理大]コア・ディネーター会議《岡山商科大学》 10:35～12:05ライブ授業⑦スポーツ栄養学《環太平洋大学》	15	木 16:30～18:00ライブ授業⑫宗教思想《山陽学園大学》
16	日	16	水 8:40～10:10ライブ授業⑧音楽の鑑賞《岡山県立大学》 13:10～14:40ライブ授業⑧現代子ども学入門《中国学園大学》	16	金 15:30～17:00[理大]コア・ディネーター会議《岡山大学》
17	月 14:40～16:10ライブ授業④経営学特殊講義Ⅱ《岡山商科大学》 16:50～18:20ライブ授業④岡山学《岡山理科大学》	17	木 16:30～18:00ライブ授業⑧宗教思想《山陽学園大学》	17	土 16:50～18:20ライブ授業⑫岡山学《岡山理科大学》
18	火 10:35～12:05ライブ授業④スポーツ栄養学《環太平洋大学》	18	金 岡山オルガノン通信No.27発行	18	日

10月		11月		12月	
19	水	8:40～10:10ライブ授業④音楽の鑑賞《岡山県立大学》 13:10～14:40ライブ授業④現代子ども学入門《中国学園大学》	19	土	14:40～16:10ライブ授業⑫経営学特殊講義Ⅱ《岡山商科大学》 16:50～18:20ライブ授業⑬岡山学《岡山理科大学》
20	木	岡山オルガノン通信No.26発行 16:30～18:00ライブ授業⑤宗教思想《山陽学園大学》	20	日	10:35～12:05ライブ授業⑩スポーツ栄養学《環太平洋大学》
21	金		21	月	14:40～16:10ライブ授業⑧経営学特殊講義Ⅱ《岡山商科大学》
22	土		22	火	10:35～12:05ライブ授業⑧スポーツ栄養学《環太平洋大学》
23	日		23	水・祝	勤労感謝の日 天皇誕生日
24	月	14:40～16:10ライブ授業⑤経営学特殊講義Ⅱ《岡山商科大学》 16:50～18:20ライブ授業⑤岡山学《岡山理科大学》	24	木	16:30～18:00ライブ授業⑨宗教思想《山陽学園大学》
25	火		25	金	14:30～16:00[商大]双方向コンテンツ委員会《岡山商科大学》 16:30～18:00[理大]将来構想委員会《岡山商科大学》
26	水	8:40～10:10ライブ授業⑤音楽の鑑賞《岡山県立大学》 13:10～14:40ライブ授業⑤現代子ども学入門《中国学園大学》	26	土	10:35～12:05ライブ授業①スポーツ栄養学《環太平洋大学》
27	木	16:30～18:00ライブ授業⑥宗教思想《山陽学園大学》	27	日	12:30～17:00[中国]ビジネスマインド集中講座《中国学園大学》
28	金		28	月	14:40～16:10ライブ授業⑨経営学特殊講義Ⅱ《岡山商科大学》 16:50～18:20ライブ授業⑨岡山学《岡山理科大学》
29	土	13:10～18:10ライブ授業⑦・⑧・⑨倉敷まちづくり実践論 《倉敷芸術科学大学》	29	火	10:35～12:05ライブ授業⑨スポーツ栄養学《環太平洋大学》
30	日	11:00～12:30[理大]意見交流会《岡山理科大学》 13:00～15:40[岡大・商大・理大]大学連携による遠隔授業とFD・SDIに関するシンポジウム《岡山理科大学》	30	水	8:40～10:10ライブ授業⑨音楽の鑑賞《岡山県立大学》 13:10～14:40ライブ授業⑨現代子ども学入門《中国学園大学》
31	月	16:50～18:20ライブ授業⑥岡山学《岡山理科大学》	31	土	
<p>【大学連携による遠隔授業とFD・SDIに関するシンポジウム】</p> <p>・場所:岡山理科大学 第25号館 8階 理大ホール</p> <p>【確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[文部科学省]交付請求書第3-四半期分(※10/14) ・[岡大]2011年度後期単位互換履修生受入状況の照会(※10/18) ・[理大]平成23年度補助金執行状況に関する調査について(※10/28) 		<p>【(C)活用教材作成講習会】</p> <p>・場所:岡山理科大学 第11号館 5階 実習室</p> <p>【ビジネスマインド集中講座】</p> <p>・場所:中国学園大学 図書館 3階 L309教室</p>		<p>【岡山オルガノン事業報告会】</p> <p>・場所:岡山理科大学 第25号館 8階 理大ホール</p> <p>【社会人基礎力養成シンポジウム】</p> <p>・場所:中国学園大学 第12号館 3階 M301教室</p> <p>【確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[理大]事業報告書(冊子)初稿確認依頼(※1/13) ・[理大]事業報告書追加分(CD-R)原稿執筆依頼(※1/13) ・[岡大]平成24年度単位互換授業科目に関する開講科目提供(※1/13) ・[商大]双方向ライブ型遠隔講義 単位修得者数について(※12/22) ・[理大]VOD遠隔科目に関する単位取得者数の調査について(※1/13) ・[文部科学省]交付請求書第4-四半期分(※12/22) 	

2011年度岡山オルガン活動予定表(第4四半期:1月~3月)

1月		2月		3月	
1	日・祝 元日	1	水 8:40~10:10ライブ授業⑮音楽の鑑賞《岡山県立大学》	1	木
2	月・振 振替休日	2	木	2	金
3	火	3	金	3	土
4	水	4	土	4	日
5	木	5	日	5	月
6	金	6	月	6	火
7	土	7	火	7	水
8	日	8	水	8	木
9	月・祝 成人の日	9	木	9	金
10	火	10	金	10	土
11	水 8:40~10:10ライブ授業⑯音楽の鑑賞《岡山県立大学》 13:10~14:40ライブ授業⑰現代子ども学入門《中国学園大学》	11	土・祝 建国記念日	11	日
12	木 16:30~18:00ライブ授業⑱宗教思想《山陽学園大学》	12	日	12	月
13	金	13	月	13	火
14	土	14	火	14	水
15	日	15	水	15	木
16	月 14:40~16:10ライブ授業⑲経営学特殊講義Ⅱ《岡山商科大学》 16:50~18:20ライブ授業⑳岡山学《岡山理科大学》	16	木	16	金
17	火 10:30~12:00[理大]大学教育連携センター運営委員会《岡山理科大学》 10:35~12:05ライブ授業㉑スポーツ栄養学《環太平洋大学》	17	金	17	土
18	水 8:40~10:10ライブ授業㉒音楽の鑑賞《岡山県立大学》 13:10~14:40ライブ授業㉓現代子ども学入門《中国学園大学》	18	土	18	日

1月		2月		3月	
19	木	16:30～18:00ライブ授業⑩宗教思想《山陽学園大学》 岡山オルガノン通信No.29発行	日	19	月
20	金	14:30～16:30[理大]連携評価委員会《岡山理科大学》	月	20	火・祝 春分の日
21	土		火	21	水 岡山オルガノン通信No.31発行予定
22	日		水	22	木
23	月	14:40～16:10ライブ授業⑮経営学特殊講義Ⅱ《岡山商科大学》 16:50～18:20ライブ授業⑮岡山学《岡山理科大学》	木	23	金
24	火	10:35～12:05ライブ授業⑮スポーツ栄養学《環太平洋大学》	金	24	土
25	水	8:40～10:10ライブ授業⑭音楽の鑑賞《岡山県立大学》 13:10～14:40ライブ授業⑮現代子ども学入門《中国学園大学》	土	25	日
26	木	16:30～18:00ライブ授業⑮宗教思想《山陽学園大学》	日	26	月
27	金		月	27	火
28	土		火	28	水
29	日		水	29	木
30	月			30	金
31	火	[理大]補助金執行締め日 10:35～12:05ライブ授業⑮スポーツ栄養学《環太平洋大学》		31	土
【1/31補助金執行締め日】 ・補助対象経費の計上は原則として1月末までとする。 ・ただし、人件費、公共料金等必要な経費は除く。 【大学教育改革プログラム合同プログラム中止】		【単位互換履修生募集要項完成】 【事業報告書(冊子)発行:400部】		【事業報告書追加分(CD)発行:450枚、HP公開】 【平成24年度単位互換履修生募集用チラシ配布】 ・平成24年度単位互換履修生募集受付期間(前期):3/25～4/7 【確認事項】 ・[文部科学省]H23年度実績報告書等作成(※4/30?) ・[文部科学省]H22補助金額の確定(3/31?)	
【確認事項】 ・[理大]実績報告書等作成依頼(※2/15) ・[理大]連携評価委員会連携取組事業評価報告書作成依頼(※1/27) ・[文部科学省]H22実績報告書の修正・確認事項(?)					

平成23年度
大学改革推進等補助金
(大学改革推進事業)
実績報告書

※本書類は1月現在の内容であり、4月の文部科学省提出時に一部変更することがあります。

補助事業の実績

■共通計画（組織基盤）

①大学教育連携センターおよび各オフィスの運営

大学教育連携センターおよび各オフィスは、3つの力（学士力・社会人基礎力・地域発信力）育成のため連携校間での連絡調整、運営委員会の開催、イベントの企画・運営等を担当した。定期的にコーディネーター会議（年間7回）または大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議（年2回）を開催し、事業全体の進捗状況の把握や各オフィス間の取組調整、事業の進め方等について意見交換・情報共有を図った。また、ホームページの充実、プロモーションビデオの公開、メールマガジン「岡山オルガノン通信」（20号～29号）の発行など、情報発信も積極的に行った。今年度は事業最終年度となるため、円滑な補助金執行および実績報告書類作成負担の軽減のため、連携校に対する2回の補助金執行状況調査の実施および実績報告書類作成スケジュールの提示を行った。

②「将来構想委員会」の開催

「将来構想委員会」は、各連携校および大学コンソーシアム岡山から委員を選出し、23年1月26日に準備会議を行い、以降23年11月25日まで8回会議を開催した（23年度は6回開催）。補助期間終了後の大学コンソーシアム岡山との組織統合について、各種運営委員会の統合と組織再編成、継承事業、人件費を含む経費負担、継承スケジュール等、具体的な展開方策や財政的措置に関する協議を続け、大学コンソーシアム岡山への事業継承および再編案を取りまとめた。この原案を基に、大学コンソーシアム岡山との組織統合を図るために必要な検討や協議を大学コンソーシアム岡山側と続けている。また、スムーズな事業継承を実現すべく、本事業の継続に必要な人員配置や費用負担等の実質的な調整作業が24年1月現在続けられている。

③「岡山オルガノン代表者委員会」の開催

第1回岡山オルガノン代表者委員会（23年5月10日開催）では、22年度評価報告書に基づき策定した9点の事業実施方針、23年度事業計画、最終報告書の制作について了承された。第2回委員会（23年12月6日開催）では、今年度実施事業の報告、将来構想委員会の経過報告、遠隔教育の現状報告がなされた。また、大学コンソーシアム岡山への事業継承について審議し、将来構想委員会で作成された原案を了承した。

④「岡山オルガノン事業報告会」の開催

23年12月3日に、「岡山オルガノン事業報告会」を岡山理科大学にて開催した。参加者は110名（教員：45名、職員：56名、学生：7名、一般2名）であった。内容は、「社会の中の大学」と題して文部科学省 高等教育局大学振興課大学改革推進室長の樋口 聡氏による基調講演を行い、その後、すべての連携校の取組担当者（または代理）より各大学における岡山オルガノン事業の取組実績と成果、そして今後の課題について説明・報告がなされ、それらについてフロアディスカッションを行った。

⑤平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加

文部科学省主催の23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」は開催されなかった。そのため、補助期間終了後の継承形態等についての情報収集を行うため、大学教育連携センターより連携校に対し、他の先進的事業取組を展開している大学等への視察を推進し、また本事業に関連のあるフォーラムの案内等を行い、有効に補助金を執行するよう連絡した。

⑥「連携評価委員会」の開催、最終報告書の作成

昨年度に連携評価委員会で作成された評価報告書をもとに今年度は、大学教育連携センター・各オフィス役割の分担明確化、年間活動計画策定、補助金執行確認、情報発信の充実、教職員への周知、テレビ会議システム・学習管理システム活用などの重点項目を取り上げ、連携校の共通認識として事業を推進した。今年度も継続して、産学官の有識者および連携校の学長で組織される「連携評価委員会」を、23年5月に委員委嘱状を送付し承諾してもらった。補助期間全体にわたる本取組の事業内容を把握してもらうため、昨年度に比べ早期に委嘱を行った。24年1月20日に「第3回連携評価委員会」を岡山理科大学にて開催する。また、今年度は今後の事業継承に反映させるために、全連携校協力による最終報告書を作成し、関係自治体や関係機関等に広く配布を行うとともに、ホームページでも閲覧できるようにする。

■学士力育成のための計画

⑦単位互換制度を活用した配信科目の追加検討・協議・決定

今年度は、双方向ライブ型遠隔授業14科目（前期7科目・後期7科目）、VOD型遠隔授業18科目（前期6科目・後期12科目）の配信を行った。また、次年度以降のライブ配信・VOD配信による単位互換科目の継続的な実施に向け、「学士課程教育連携委員会」において、各大学で受講上の課題について検討を行った。前期に実施された「授業科目に関す

るアンケート」の結果も参考にして、各大学の特色を活かした科目を提供してもらうよう、各大学に対して依頼を行った。また、可能な限り各大学が共通の時間帯（昨年度に定めた、どの大学の授業時間とも極力重ならない「ライブ科目授業のための専用時間（オルガノン時間）」）でオルガノン科目の授業を行うことも確認した。

⑧新規 VOD 科目のコンテンツ制作、8 月～9 月に ICT 活用教材作成講習会の実施

22 年度に引き続き、VOD 型遠隔科目の追加コンテンツ制作を計画的に行い、前期 6 科目、後期 12 科目の配信が実現できた。前期 184 名、後期 229 名の学生が受講した。一部の VOD 型遠隔科目は、配信大学の学生の自習用コンテンツとしても活用した。また、次年度 VOD 型遠隔科目として配信するため、今年度開講したライブ型遠隔授業をビデオ撮影した。また、ICT 活用教材作成講習会を 23 年 11 月 10 日に岡山理科大学のパソコン教室を利用して開催し、28 名の連携校教職員が参加した。e-ラーニングサイト「まなびオルガノン」の効果的な活用方法について、大学教育連携センターの e-Learning 専門スタッフから説明を行った。また、23 年 7 月 12 日に e-Learning 運営委員会を開催し、受講上の課題や著作物の取扱い等について協議を行った。

⑨独自の共同 SD 研修会「クレイマー対策講座」を実施

23 年 8 月 29 日に、共同 SD 研修会「クレイマー対策」を岡山大学にて実施し、弁護士であり岡山大学大学院法務研究科の教員でもある 2 名を講師に招いて研修を行った。「現場での対応とその他法的手段」および「事後の対応」というテーマで、具体的な事例を多く交えつつ、弁護士としての法律的な面からの考察や、豊富な経験を背景にした「クレイマー」対応の方法についての解説が行われた。

⑩FD 研修事業「i*See 2011」の共催

23 年 9 月 10 日・11 日に、岡山オルガノンの取組と、岡山大学学生・教職員教育改善専門委員会が連携して学生参画型 FD 研修事業「i*See2011」を開催した。全国 27 大学から、学生・教員・職員あわせて 107 名の参加者があった。

⑪「共同 FD・SD 実施報告会」（遠隔授業による成果報告を含む）の開催

23 年 10 月 30 日に、「大学連携による遠隔授業と FD・SD に関するシンポジウム」と題し、岡山オルガノンの大学連携事業でこれまでに行ってきた、様々な形態による遠隔授業の実施状況を振り返り、講演者・報告者・参加者の意見交換や議論を通して、遠隔授業の特長と魅力を広く公開するイベントを開催した。116 名の一般市民・教職員・学生・連携校関係者の参加を得ることができた。基調講演では、「遠隔授業の双方向性と学生の学習意欲」というテーマで講演をいただいた。事例報告では、「様々な授業形態から効果的な授業を考える」というテーマで対面型、双方向ライブ型、VOD 型授業を担当されている連携校の教員から発表が行われた。

■社会人基礎力育成のための計画

⑫連携校および高校（高大連携）への出張講義の実施＜実践的キャリア指導チームの強化充実＞

連携校および大学への講義提供は、正規講義が 30 回、単発講義は 18 回、高校への出張講義は 23 回、企業には 20 回を数えた。年間計 91 回の講義実施でプログラム確立とチームのスキルアップを果たせた。学生や企業からの要望に応えた新講義プログラムも、大学・企業での実践を通じて作成・検証・構築した。

⑬学生参画によるキャリア教育担当者意見交換会（ワークショップ）の開催

大学教員・キャリア教育講師のみならず、学生・社会人・人事担当・高校教諭とのワーキングを、今年度は計 19 回実施した。ヒアリングから得た学生・企業の声を討論テーマとしたワークショップを 9 月 30 日に開催し、連携校 8 大学の参加に加え、学生・社会人も参画し、活発な意見交換が図れた。

⑭「実践マナー&ビジネスマインド短期集中講座」の実施

今年度は、企業の社員研修と同内容の 3 講義を連続実施した。告知前から定員オーバーとなったため、最多申込みの短大には別日程で開催する約束をして開催した。実施日には、社会人や高校職員も参加し、集中講座として目指した成果は果たせた。

⑮「社会人基礎力養成シンポジウム」の開催

学生と社会人の交流スタイルで、実践的な課題を取り上げたシンポジウムが実施できた。一貫したテーマ（現場で活かせる基礎力とは）による 3 部構成は、参加者から好評を得られた。参加者数は、7 大学＋社会人で計 189 名。昨年度の 147 名を上回り、交流的要素も強まったと感じる。

■地域発信力育成のための計画

⑯双方向ライブ型方式による遠隔授業の継続配信

単位互換科目のライブ型遠隔授業は、前期 7 科目、後期 7 科目を配信し、前期 11 名、後期 16 名の履修生があった。また、双方向ライブ型遠隔講義の運用に関する資料およびテレビ会議システムの基本操作マニュアルを作成し、連携校に配布した。通信テストおよび操作確認を行い、円滑な講義の配信を実施した。また、システムの不具合における対応と連携校に対するサポートを行った。23 年 4 月 8 日～25 日はテレビ会議システムを使用して前期科目を配信する大学を中心として講義の配信テストを実施した。また 23 年 8 月 4 日・5 日は MCU バージョンアップに伴い通信テストを実施した。23 年 9 月 10 日・11 日は「第 8 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」に参加した。23 年 11 月 22 日は「e-Learning Awards 2011 フォーラム」に参加した。双方向コンテンツ委員会は 23 年 6 月 17 日と 23 年 11 月 25 日に実施し、双方向ライブ型遠隔講義システムの運用等についての検討を行った。

⑰「大学連携による地域活性化シンポジウム」の開催

23 年 6 月 26 日に開催した「大学連携による地域活性化シンポジウム」第 1 分科会では、岡山オルガノンの地域活性化への取組と連携学生による学生活動を発表を通し、67 名の一般参加者と学生・教職員とが活発な意見交換をした。第 2 分科会「日ようび子ども大学」では、幼児・児童教育の研究実践を行う連携校 8 大学による子ども参加型ブース展示と発表を行った。389 名の児童と保護者を含む 508 名の参加者があった。地域活性化委員会は 23 年 5 月 31 日に実施し、「大学連携による地域活性化シンポジウム」と「エコナイト」についての検討を行った。

⑱「エコナイト」の開催

23 年 7 月 7 日を中心に連携校参加大学が「エコナイト」における省エネ活動、ライトダウン、マイ・カー乗るまあ day を岡山県との連携活動として実施した。また、「東日本応援およびエコイベント」を、岡山市との連携によって実施し約 110 名が参加した。その他、12 大学が学生主体で行うエコイベントを実施した。4 大学の学生 29 名がエコキャンドルの工場見学に参加した。今年度のエコナイト参加者は連携校全体で 1,500 名であった。

補助事業に係る具体的な成果

■共通計画（組織基盤）

①大学教育連携センターおよび各オフィスの運営

大学教育連携センターは本取組全体の統括を行い、連携校間の連絡調整や情報共有等の中心的な役割を果たし、各オフィスでは所掌取組に関する協議と方針の策定を行うことで、申請時より準備・検討した事業（教育共有化や連携行事開催など）を順調に成し遂げることができた。広報活動として、プロモーションビデオの公開や各種イベントのプレス発表、またメールマガジンの定期発行を積極的に実施したことで、大学教職員だけでなく、学生をはじめ広く一般に対して分かりやすく本事業の取組を紹介でき、多方面にわたる本取組を関係者や一般登録者に対して宣伝・広報できた。日々の進捗状況についてもホームページで随時掲載し、積極的な情報公開にも取り組むことができた。また、連携校に補助金執行状況調査を実施したことで、年度末の集中的な予算執行や執行停滞等を防ぐことができた。

②「将来構想委員会」の開催

将来構想委員会では、22年度より補助期間終了後の本事業継承案の作成に当たった。その結果、軌道に乗った遠隔教育は補助期間終了後もそのまま継続し、その他事業も、実施体制を再編成して継承することに決まった。また、事業継承に必要な経費負担についても原案を作成した。次年度以降の、各大学の事業推進経費負担は「固定額＋学生数比例額」とし、別途、遠隔教育システムの維持に関する維持費を各連携校が均等に負担する方式が決定された。各オフィスおよび6委員会については、統合して大学コンソーシアム岡山の3事業部（大学教育事業部、産学官連携事業部、社会人教育事業部）に3委員会を新設し、事業継承に当たる案に決定した。

③「岡山オルガノン代表者委員会」の開催

岡山オルガノン代表者委員会は、各連携校の取組担当で組織されており、本質的で実りある協議および意思決定機関として機能し、連携校間の相互協力体制の強化だけではなく、本事業の発展的な取組に貢献することができた。また、本事業の継承についても方針等を確認することで、連携校間で次年度以降の事業実施について共通意識を持つ場として有効に活用することができた。

④「岡山オルガノン事業報告会」の開催

基調講演では、今日の社会における大学の抱える諸問題の提起を受け、今後の本事業を継承する上での課題の再確認と解決に関わる示唆を得ることができた。また、連携校による事業取組報告では、各大学が抱える課題等について熱心な議論が行われ、本事業を通じて岡山県内にある大学が連携することの意義を再認識することができ、さらに地域との連携を今後強固にすることで、大学が社会の中で果たす役割について連携校間で共有することができた。本事業における今後の課題が明確となり、将来へさらに深化させた事業展開を実施するための1つの大きな方向性を見出すことができた。

⑤平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加

合同フォーラムでは多くの先進事例を知る良い機会であったが今年度は開催されなかったことから、各大学で課題となっている事柄に関して、各大学で自主的に先進事例を視察することで、連携校で補助事業終了後も本事業に継続して普遍的に取り組み、発展できる体制作りにつなげられた。

⑥「連携評価委員会」の開催、最終報告書の作成

最終報告書を作成したことにより、3年間にわたる本事業の成果を整理することができただけでなく、本事業継承に係る重要な資料として活用できるものとなった。さらに本事業を通して地域や全国の高等教育機関等で「大学連携」の重要性についても広くPRすることができ、今後の更なる発展的な取組につなげることができるものと考えている。

■学士力育成のための計画

⑦単位互換制度を活用した配信科目の追加検討・協議・決定

オルガノン科目の配信も軌道に乗り、順調に科目数を増加させつつある。次年度以降は大学コンソーシアム岡山との組織統合も行われるが、多彩な授業形態によって学生の幅広い学習ニーズに対応することができるようになった。また、提供大学の特色を活かした科目や、岡山地域に根ざした科目を提供することで、連携大学の教養教育を質・量ともに充実させ、また、非常勤講師の確保に対して貢献することができた。

⑧新規VOD科目のコンテンツ制作、8月～9月にICT活用教材作成講習会の実施

年間18科目のVOD型遠隔科目を配信できたことは、学生に対する提供教育領域と教育手法の多様化につなげることができ、学士力育成という所期の目的を達成できた。また、今後の発展的運用について検討・試行したことにより、各大

学からも積極的な活用提案や要望などが寄せられ、学習管理システムの有用性について連携校間で一層の理解と認識を深めることができた。また、ICT活用教材作成講習会を開催したことにより、「まなびオルガノン」の機能や操作方法について、連携校教職員の理解が深められたことから、受講学生に対するサポートの一層の充実を図ることができた。

⑨独自の共同SD研修会「クレイマー対策講座」を実施

「クレイマー」の問題は、連携校の現場においても時として身近に起こりうる問題であるため、多くの教職員の関心を呼び起こし、138名という、当初予定していた人数を大きく上回る参加者を集めることができた。参加申し込みに際しては、研修の中で取り上げてもらいたい質問を募ったが、多くの具体的な事例が寄せられた。こうした個別の事例についての対処方法も研修の中で取り上げられ、より実践的な内容の研修となった。

⑩FD研修事業「i*See 2011」の共催

学生が教育改善活動の客体的役割にとどまらず、主体的に関与すべきであるという認識を、学生自身が持つことができるようになった。また、職員も教育改善活動の補助的役割にとどまらず、何ができるかを再考するきっかけとなった。さらに、こうした学生・職員の意識改革が大学の学びを活性化させることにつながることを意識共有できた。さらに、地元である連携校からの参加者も目立ち、先進的な教育改善の取組を連携校で共有することができた。このため、今後、各大学での学生参画型教育改善を進める上で大きな効果があった。

⑪「共同FD・SD実施報告会」（遠隔授業による成果報告を含む）の開催

基調講演では、クリッカーを使用した独自の講義スタイルやインターネットを利用した教員、学生間のコミュニケーションの重要性、ICT活用の有効性等についての知見を深めることができた。また、事例報告においては、各授業方式における教育の質向上に果たす役割や具体的な活用報告等、興味深い報告を聴くことができた。参加者アンケートの回答では、「教員がどのように授業を考えているのかを知れてよかった」、「FDの手法が理解できた」、「eラーニングの導入を検討しているため大変参考になった」等の貴重な意見や感想をいただいた。議論を通じて、ライブやVODといった新しい授業形態を広く知らしめるとともに、様々な形態による授業配信を継続して行く上で必要となる、実践的な面でのヒントを得ることができた。

■社会人基礎力育成のための計画

⑫連携校および高校（高大連携）への出張講義の実施<実践的キャリア指導チームの強化充実>

学生や社会人とのワーキングで得た意見・要望を組み入れた講義案づくりにより、より実践的な体験型講義の構築が果たせた。企業研修の依頼増はその成果とも言えるが、狙い通り企業や高校での講義は大学での講義実践に大いに役立ち、質の向上やスキルアップ、教材開発などでも大きな成果・収穫となった。

⑬学生参画によるキャリア教育担当者意見交換会（ワークショップ）の開催

9月のワークショップでは、キャリア教育と就活支援の違いについてなど、具体的な討議が学生参加のもとで実現できた。またワーキングを通じて、社会人と学生とのあらたな交流機会の創出も進み、12月の「シンポジウム」の企画～実施～振り返りへとつながった。

⑭「実践マナー&ビジネスマインド短期集中講座」の実施

企業からの意見・事例も踏まえプランニングした「課題解決力」「アウトプット力」「チームワーク力」「修整力」の強化を、体験を通じて身につける短期集中講義パターンの構築が果たせた。学生・社会人の混合講義のヒントも得られた。

⑮「社会人基礎力養成シンポジウム」の開催

「若手社会人の報告」に加え、「リーダー社員のメッセージ」を新規導入したが、参加者からは好評を得た。「講演⇒若手の意見⇒リーダーのメッセージ」の流れにより、今回目指したリアルで実のある報告会に近づくことができたと振り返る。シンポジウム終了後の意見交換会も盛り上がりを見せた。

■地域発信力育成のための計画

⑯双方向ライブ型方式による遠隔授業の継続配信

今年度のライブ型遠隔科目は9科目新たに加わり14科目が提供された。特色を生かした科目の配信により学生の学習意欲を高め、またチラシ配布等の広報活動により履修生の増加につなげることができた。講義運用に関する資料、テレビ会議システムの基本操作マニュアル作成により、トラブル等に柔軟に対応することができた。さらに配信テストでは、各大学の設置機器における問題解決につなげることができた。また遠隔授業を周知することにより学生・教職員等が新しいメディアを活用した事業に関心をもち、理解を深めることができた。2度他団体のフォーラムに参加して、学生、教職員、地域が協働する連携力と実行力の重要性を学んだ。双方向コンテンツ委員会では、次年度の双方向ライブ型遠隔

科目の充実と履修生の増加につなげるための検討を実施することができた。

⑰「大学連携による地域活性化シンポジウム」の開催

シンポジウムの第 1 分科会では、岡山オルガノンの大学間連携で行っている地域活性化への取組みを、地域一般に認知してもらうことができ、本取組の必要性を提案することができた。第 2 分科会では、子育て支援や科学実験など遊び感覚で体験できるブース展示を行い、身近に大学を感じてもらう場となり、児童と保護者、県内教育関係者の資質向上にも大きく貢献した。また参加者アンケートを通して連携校と地域が一体となった取組の必要性について確認することができた。地域活性化委員会では、シンポジウムとエコナイト実施において、各大学の特色を生かした企画と検討を行うことができた。

⑱「エコナイト」の開催

エコナイトは、岡山県、岡山市等と連携して学生間の交流活動推進と地域への拡充を目的とし、学内消灯や自動車通勤の自粛、その他各大学でイベントを行い、意義ある活動を行うことができた。学生と教職員が一体となってエコ啓発教育やイベントの取組を共有することにより、環境保護の重要性に対する理解と認識が深まった。また、今年度は、震災復興支援による学生、教職員間の連携力を高めることができた。

平成23年度

補助金調書および実績報告書

対比表

平成23年度補助金調書および実績報告書 対比表

補助金調書		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業から得られる具体的な成果	補助事業の実績
①大学教育連携センターおよび各オフィスの運営	①大学教育連携センター(岡山理科大学)および各オフィス(岡山大学、岡山商科大学、中国学園大学)に継続して人員配置を行い、それぞれの力の育成のために運営委員会の開催や連携校間での連絡調整、全体の現状把握をしながら、大学連携の推進を図る。	①大学教育連携センターおよび各オフィスは本事業を進める上で中核的役割を果たし実施状況の把握や情報整理などにも努める。これらの組織を有機的に活用することにより、円滑な事業展開・拡充へとつながり、更には岡山県内全体の教育力向上につながられる。	①大学教育連携センターおよび各オフィスは、3つの力(学士力・社会人基礎力・地域発信力)育成のため連携校間での連絡調整、運営委員会の開催、イベントの企画・運営等を担当した。定期的にコーディネーター会議(年間7回)または大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議(年2回)を開催し、事業全体の進捗状況の把握や各オフィス間の取組調整、事業の進め方等について意見交換・情報共有を図った。また、ホームページの充実、プロモーションビデオの公開、メールマガジン「岡山オオルガノン通信」(20号～29号)の発行など、情報発信も積極的に行った。今年度は事業最終年度となるため、円滑な補助金執行および実績報告書類作成負担の軽減のため、連携校に対する2回の補助金執行状況調査の実施および実績報告書類作成スケジュールの提示を行った。
			補助事業に係る具体的な成果 ①大学教育連携センターは本取組全体の統括を行い、連携校間の連絡調整や情報共有等の中心的な役割を果たし、各オフィスでは所掌取組に関する協議と方針の策定を行うことで、申請時より準備・検討した事業(教育共有化や連携行事開催など)を順調に成し遂げることができた。広報活動として、プロモーションビデオの公開や各種イベントのプレス発表、またメールマガジンの定期発行を積極的に行なった。また、大学教職員だけでなく、学生をはじめ広く一般に対して分かりやすく本事業の取組を紹介でき、多方面にわたる本取組に関係者や一般登壇者に対して宣伝・広報できた。日々の進捗状況についてもホームページで随時掲載し、積極的な情報公開にも取り組むことができた。また、連携校に補助金執行状況調査を実施したことで、年度末の集中的な予算執行や執行停滞等を防ぐことができた。

平成23年度補助金調書および実績報告書 対比表

補助金調書		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業の成果	補助事業に係る具体的な成果
②「将来構想委員会」の開催	②本取組の連携校教職員および大学コンソーシアム岡山運営委員で組織される「将来構想委員会」を開催する。補助期間終了後の本取組の継続的な実施に向け、大学コンソーシアム岡山との組織統合の具体的な進め方等について協議を行う。	②「将来構想委員会」は本取組を補助期間終了後も継続して取り組むために連携校間で協議する重要な委員会であり、特に大学コンソーシアム岡山との組織統合をするために必要な関係機関との検討・協議をはじめ、人員や費用等実質的な継続運営について協議を進め、継続実施の実現へとつなげることができた。	②「将来構想委員会」は、各連携校および大学コンソーシアム岡山から委員を選出し、23年1月26日まで8回会議を行い、以降23年11月25日まで8回会議を開催した(23年度は6回開催)。補助期間終了後の大学コンソーシアム岡山との組織統合について、各種運営委員会の統合と組織再編成、継承事業、人件費を含む経費負担、継承スケジュール等、具体的な展開の方策や財政的措置に関する協議を続け、大学コンソーシアム岡山への事業継承および再編案を取りまとめた。この原案を基に、大学コンソーシアム岡山との組織統合を図るために必要な検討や協議を大学コンソーシアム岡山側と続けていく。また、スムーズな事業継承を実現すべく、本事業の継続に必要な人員配置や費用負担等の実質的な調整作業が24年1月現在続けられている。
③「岡山オルガノン代表者委員会1」の開催	③連携校の取組担当者およびコーディネーターで組織される「岡山オルガノン代表者委員会」を開催する。取組全体の進捗状況の検証を行い、必要に応じて審議事項の決定を行う。	③「岡山オルガノン代表者委員会」は定期的な進捗状況の検証、全体の方針策定を行い、事業取組評価と地域貢献評価の2点を確実に実施するために重要な機関である。これにより本取組の事業推進の円滑な実施を図ることができる。	③岡山オルガノン代表者委員会は、各連携校の取組担当者で組織されており、本質的で実りある協議および意思決定機関として機能し、連携校間の相互協力体制の強化だけでなく、本事業の発展的な取組に貢献することもできた。また、本事業の継承についても方針等を確認すること、連携校間で次年度以降の事業実施について共通意識を持つ場として有効に活用することができた。

平成23年度補助金調査および実績報告書 対比表

補助金調査		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業から得られる具体的な成果	補助事業の実績
④「岡山オルガノン事業報告会」の開催	④地域住民や全国の大学関係者に対して本取組の成果や課題、また大学教育連携の有用性について報告・発表をする「岡山オルガノン事業報告会」を開催する。	④「岡山オルガノン事業報告会」を開催することで、本取組について地域住民や全国大学関係者に対して広く理解してもらうことができ、本取組の成果や課題を活かして、この補助事業で取り組んできた内容を全国に情報発信させることができる。	④23年12月3日に「岡山オルガノン事業報告会」を岡山理科大学にて開催した。参加者は110名（教員：45名、職員：56名、学生：7名、一般2名）であった。内容は、「社会の中の大学」と題して文部科学省 高等教育局大学振興課大学改革推進室長の樋口 聰 氏による基調講演を行い、その後、すべての連携校の取組担当者（または代理）より各大学における岡山オルガノン事業の取組実績と成果、そして今後の課題について説明・報告がなされ、それらについてフロアディスカッションを行った。
⑤平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加	⑤文部科学省主催の平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ積極的に参加し、本取組に関する情報提供及び他大学の取組の手法、特に補助期間終了後の継続形態等についての情報収集に努め、今後の戦略的連携支援に活用する。	⑤本取組について全国の関係機関の先進的事例について知る機会となり、本取組の改善や課題解決に活用することができ、さらに継続実施での更なる発展的な取組へとつなげることができる。	⑤合同フォーラムでは多くの先進事例を知る良い機会であったが今年度は開催されなかったことから、各大学で課題となっている事例に関して、各大学で自主的に先進事例を視察することで、連携校で補助事業終了後も本事業に継続して普遍的に取り組み、発展できる体制作りにつなげられた。
			④基調講演では、今日の社会における大学の抱える諸問題の提起を受け、今後の本事業を継承する上での課題の再確認と解決に關わる示唆を得ることができた。また、連携校による事業取組報告では、各大学が抱える課題等について熱心な議論が行われ、本事業を通じて岡山県内にある大学が連携することの意義を再認識する上で、さらに地域との連携を今後強固にすることで、大学が社会の中で果たす役割について連携校間で共有することができた。本事業における今後の課題が明確となり、将来へさらに深化させた事業展開を実施するための1つの大きな方向性を見出すことができた。
			⑤合同フォーラムでは多くの先進事例を知る良い機会であったが今年度は開催されなかったことから、各大学で課題となっている事例に関して、各大学で自主的に先進事例を視察することで、連携校で補助事業終了後も本事業に継続して普遍的に取り組み、発展できる体制作りにつなげられた。

平成23年度補助金調書および実績報告書 対比表

補助金調書		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
⑥「連携評価委員会」の開催、最終報告書の作成	⑥有識者(産学官の外郭委員)および連携校代表者(学長等)で組織される「連携評価委員会」を開催する。また外部評価組織として本取組の内容や成果に関して改善要求や助言指導等を実施する。また本取組の補助期間全体の事業内容を整理し今後の取組に反映させるため、大学教育連携センターおよび各オファイスが中心となって最終報告書を作成する。	⑥昨年度に連携評価委員会で作成された評価報告書をもとに今年度は、大学教育連携センター・各オファイス役割の分担明確化、年間活動計画策定、補助金執行確認、情報発信の充実、教職員への周知、テレビ会議システム・学習管理システム活用などの重点項目を取り上げ、連合年度も継続して、産学官の有識者および連携校の学長で組織される「連携評価委員会」を、23年5月に委員委嘱状を送付し承諾してもらった。補助期間全体にわたる本取組の事業内容を把握してもらったため、昨年度に比べ早期に委嘱を行った。24年1月20日に「第3回連携評価委員会」を岡山理科大学にて開催する。また、今年度は今後の事業継承に反映させるために、全連携校協力による最終報告書を作成し、関係自治体や関係機関等に広く配布を行うとともに、ホームページでも閲覧できるようにする。	⑥最終報告書を作成したことにより、3年間にわたる本事業の成果を整理することができただけでなく、本事業継承に係る重要な資料として活用できるものとなった。さらに本事業を通して地域や全国の高等教育機関等で「大学連携」の重要性についても広くPRすることができ、今後の更なる発展的な取組につなげることができると考えている。
⑦単位互換制度を活用した配信科目の追加検討・協議・決定	⑦連携校の教職員で組織される「学士課程教育連携委員会」を開催し、23年度以降単位互換科目としてライブ方式やVODで配信提供する科目について検討・協議を行い、決定する。単位互換科目については、各大学の特色を出しながら1～2科目を提供してもらい、本年度は双方向ライブ型遠隔科目で14科目(前期7科目、後期7科目)、VOD型遠隔科目で17科目(前期6科目、後期11科目)の提供を行う。	⑦今年度は、双方向ライブ型遠隔授業14科目(前期7科目・後期7科目)、VOD型遠隔授業18科目(前期6科目・後期12科目)の配信を行った。また、次年度以降のライブ配信・VOD配信による単位互換科目の継続的な実施に向け、「学士課程教育連携委員会」において、各大学で受講上の課題について検討を行った。前期に実施された「授業科目に関するアンケート」の結果も参考にして、各大学の特色を活かした科目を提供してもらおうよう、各大学に対して依頼を行った。また、可能な限り各大学が共通の時間帯(昨年度に定められた、どの大学の授業時間とも極力重ならない「ライブ科目授業のための専用時間(オルガノン時間)1)でオルガノン科目の授業を行うことも確認した。	⑦オルガノン科目の配信も軌道に乗り、順調に科目数を増加させつつある。次年度以降は大学コンソーシアム岡山との組織統合も行われるが、多彩な授業形態によって学生の幅広い学習ニーズに対応することができるようになった。また、提供大学の特色を活かした科目や、岡山地域に根ざした科目を提供することで、連携大学の教養教育を質・量ともに充実させ、また、非常勤講師の確保に対して貢献することができた。

平成23年度補助金調書および実績報告書 対比表

補助金調書		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
⑧新規VOD科目のコンテンツ制作、8月～9月にICT活用教材作成講習会の実施	⑧e-LearningコンテンツとしてVOD型遠隔科目をさらに拡充させるために、新しいコンテンツを作成・編集し、学習管理システムを活用した単位互換科目として提供できるような体制の強化を図る。また、連携校の教職員に対してe-Learning活用方法やVOD教材作成法の講習会を継続して開き、その手法や取組における必要性について学習する講習会を設ける。	⑧22年度に引き続き、VOD型遠隔科目の追加コンテンツ制作を計画的に行い、前期6科目、後期12科目の配信が実現できた。前期184名、後期229名の学生が受講した。一部のVOD型遠隔科目は、配信大学の学生の自習用コンテンツとしても活用した。また、次年度VOD型遠隔科目として配信するため、今年度開講したライブ型遠隔授業をビデオ撮影した。また、ICT活用教材作成講習会を23年11月10日に岡山理科大学のパソコン教室を利用して開催し、28名の連携校教職員が参加した。e-Learningサイト「まなびオルガノン」の効果的な活用方法について、大学教育連携センターのe-Learning専門スタッフから説明を行った。また、23年7月12日にe-Learning運営委員会を開催し、受講上の課題や著作物の取扱い等について協議を行った。	⑧年間18科目のVOD型遠隔科目を配信できたことは、学生に対する提供教育領域と教育手法の多様化につながることができ、学士力育成という所期の目的を達成できた。また、今後の発展的運用について検討・試行したことにより、各大学からも積極的な活用提案や要望などが寄せられ、学習管理システムの有用性について連携校間で一層の理解と認識を深めることができた。また、ICT活用教材作成講習会を開催したことにより、「まなびオルガノン」の機能や操作方法について、連携校教職員の理解が深められたことから、受講学生に対するサポートの一層の充実を図ることができた。
⑨独自の共同SD研修会「クレイマー対策講座」を実施	⑨共同SD活動として、独自の共同SD研修会「クレイマー対策講座」を開講する。岡山大学法務研究科の教員に講師を依頼し、正常な苦情・要望から逸脱した要求に対処する対処法について研修を行う。	⑨23年8月29日に、共同SD研修会「クレイマー対策」を岡山大学にて実施し、弁護士であり岡山大学大学院法務研究科の教員でもある2名を講師に招いて研修を行った。「現場での対応とその他法的手段」および「事後の対応」というテーマで、具体的な事例を多く交えつつ、弁護士としての法的な面からの考察や、豊富な経験を背景にした「クレイマー」対応の方法についての解説が行われた。	⑨「クレイマー」の問題は、連携校の現場においても時として身近に起こりうる問題であるため、多くの教職員の関心を呼び起こし、138名という、当初予定していた人数を大きく上回る参加者を集めることができた。参加申し込みに際しては、研修の中で取り上げてもいい質問を募ったが、多くの具体的な事例が寄せられた。こうした個別の事例についての対処方法も研修の中で取り上げられ、より実践的な内容の研修となった。

平成23年度補助金調書および実績報告書 対比表

補助金調書		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業から得られる具体的な成果	補助事業の実績
⑩FD研修事業「*See 2011」の共催	⑩FD研修事業として岡山大学主催のFD活動である教育改善学生交流「*See 2011」を共催する。連携校の教職員・学生に對してこれへの積極的な参加を促し、「学生参画」による教育改善への理解と展開を図る。	⑩岡山大学における「学生主体型」という先進的なFD活動を基盤として、県内の教職員が更に学生共同参画型のFD活動についての見識を深め、本取組が実施する共同FD活動への積極的参加へとつながる。学生が本取組に参画することで自ら受ける教育への意識や意欲の向上を図ることができる。	⑩23年9月10日・11日に、岡山オルガノンの取組と、岡山大学学生・教職員教育改善専門委員会が連携して学生参画型FD研修事業「*See2011」を開催した。全国27大学から、学生・教職員・職員あわせて107名の参加者があった。
⑩共同FD・SD実施報告会「遠隔授業」による成果報告を含む」の開催	⑩本取組における共同FD・SD実施報告会を開催し、これまでの共同FD・SDの取組に関し、これまでに総括を行う。報告会では、連携各大学におけるFD・SD活動の成果を共有し、またライブ型・VOD型遠隔授業を通じてFDへの効果・成果についても議論し、今後の各大学における活動の発展を図る。	⑩連携校間でFD・SD活動に関する知見の共有化を図ることで、連携校全体の教育手法の改善に役立ち、教員の指導力向上は学生の教育力向上へとつながる。またFD・SD実施報告会の開催により、共同FD・SD活動に対する意識を高め、補助期間後の継続した円滑な実施へとつなげることができ、さらに、遠隔授業の特長と魅力を広く公開することににより、遠隔教育の一層の充実を図ることができ	⑩23年10月30日に、「大学連携による遠隔授業とFD・SDに関するシンポジウム」と題し、岡山オルガノンの大学連携事業でこれまでに行ってきた、様々な形態による遠隔授業の実施状況を振り返り、講演者・報告者・参加者の意見交換や議論を通して、遠隔授業の特長と魅力を広く公開するイベントを開催した。116名の一般市民・教職員・学生・連携校関係者の参加を得ることができた。基調講演では、「遠隔授業の双方向性と学生の学習意欲」というテーマで講演をいただいた。事例報告では、「様々な授業形態から効果的な授業を考える」というテーマで対面型、双方向ライブ型、VOD型授業を担当されている連携校の教員から発表が行われた。
			補助事業に係る具体的な成果 ⑩学生が教育改善活動の客体的役割にとどまらず、主体的に関与すべきであるという認識を、学生自身が持つことができようになった。また、職員も教育改善活動の補助的役割にとどまらず、何ができるかを再考するきっかけとなった。さらに、こうした学生・職員の意識改革が大学の学びを活性化させたことにつながることを意識共有できた。さらに、地元である連携校からの参加者も目立ち、先進的な教育改善の取組を連携校で共有することができた。このため、今後、各大学の学生参画型教育改善を進める上で大きな効果があった。
			⑩基調講演では、クリッカーを使用した独自の講義スタイルやインターネットを利用した教員、学生間のコミュニケーションの重要性、ICT活用の有効性等についての知見を深めることができた。また、事例報告においては、各授業方式における教育の質向上に果たす役割や具体的な活用報告等、興味深い報告を聴くことができた。参加者アンケートの回答では、「教員がどのように授業を考えているのかを知ることができた」、「FDの手法が理解できただけでなく、「eラーニングの導入を検討しているため大変参考になった」等の貴重な意見や感想をいただいた。議論を通じて、ライブやVODといった新しい授業形態を広く知らしめるとともに、様々な形態による授業配信を継続して行く上で必要となる、実践的な面でのヒントを得ることができた。

平成23年度補助金調書および実績報告書 対比表

補助金調書		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業から得られる具体的な成果	補助事業の実績
⑩連携校および高校（高大連携）への出張講義の実施＜実践的キャリア指導チームの強化充実＞	⑩連携校からの講義依頼は「単発」「連続」「正規」の各形態で受託提供する。通年で依頼のある高大連携講義も質の高いプログラムを確立し、地域創生型の人材育成に貢献し、地域における大学の関係性強化も果たす。	⑫大学・高校における各種講義の実践は、「チームのスキル向上」「質の高いプログラムの確立」「教材開発」につながる。高大連携の継続推進は、地域創生型の人材育成に貢献し、地域における大学の関係性強化も果たす。	⑫連携校および大学への講義提供は、正規講義が30回、単発講義は18回、高校への出張講義は23回、企業には20回教えた。年間計91回の講義実施でプログラム確立とチームのスキルアップを果たした。学生や企業からの要望に応えた新講義プログラムも、大学・企業での実践を通じて作成・検証・構築した。
⑪学生参加によるキャリア教育担当者意見交換会（ワークショップ）の開催	⑪22年度に学生と講座OBIに実施したヒアリングと意見交換を元に、連携校間でキャリア教育担当者によるワークショップを実施する。講座展開に、学生の要望と社会の生の声を反映させるため、ワークショップは学生参加スタイルで実施する。	⑬大学教員・キャリア教育講師のみならず、学生・社会人・人事担当・高校教諭とのワーキングを、今年度は計19回実施した。ヒアリングから得た学生・企業の声を討論テーマとしたワークショップを9月30日に開催し、連携校8大学の参加に加え、学生・社会人も参画し、活発な意見交換が図れた。	⑬9月のワーキングでは、キャリア教育と就活支援の違いについてなど、具体的な討議が学生参加のもとで実現できた。またワーキングを通じて、社会人と学生とのあらたな交流機会の創出も進み、12月の「シンポジウム」の企画～実施～振り返りへとつながった。
⑭「実践マナー&びじネスマインド短期集中講座」の実施	⑭一日3講義を連続実施する「短期集中講座」を学生の希望する土曜日に関講する。実際の企業内研修の内容を取り入れ、22年度よりも更に実践的な講義とし、大学連携「キャリア形成講座」との関連付けから短期ながら体験型要素を濃くする。	⑭学生からの要望でもある短期集中講座は、通常の大学連携「キャリア形成講座」を受講できない学生に講義提供ができる。体験型スタイルにより他大生との交流や協働活動の機会も得られる。大学講義を地域の高校に見せる場にもなっている。	⑭企業からの意見・実例も踏まえブランドニングした「課題解決力」「アウトプット力」「チームワーク力」「修整力」の強化を、体験を通じて身につける短期集中講義パートナーの構築が果たされた。学生・社会人の混合講義のヒントも得られた。
⑮「社会人基礎力養成シンポジウム」の開催	⑮22年度同様、「講演+シンポジウム」の形態で実施する。シンポジウムは地域の第一線で活躍する若手社員（キャリア形成講座OB）による実態報告第2弾を行い、学生と社会人の交流と情報交換の場も創出する。講演は講師チームで実施する。	⑮若手社会人の生の実態を題材にした企画内容は、学生の発見気づき・疑問解決・意思決定に役立つ。社会人との交流の場の提供も加えることで、その意味合いと効果を強める。講師チームと社会人との情報交換も新教材開発に活きる。	⑮「若手社会人の報告」に加え、「リーダー・社員のメッセージ」を新規導入したが、参加者からは好評を得た。「講演⇒若手の意見⇒リーダーのメッセージ」の流れにより、今回目指したリアルで実のある報告会に近づくことができた。振り返る。シンポジウム終了後の意見交換会も盛り上がりを見せた。

平成23年度補助金調書および実績報告書 対比表

補助金調書		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業から得られる具体的な成果	補助事業の実績
⑩双方向ライブ型方式による遠隔授業の継続配信	⑩単位互換科目のライブ型遠隔授業は、経営学特殊講義Ⅰ・Ⅱ（岡山経営学）、岡山学、倉敷まちづくり基礎論、実践論などの地域および各大学の特色を生かした科目を配信し、履修生の学習意欲を高める質の向上を目指した遠隔授業を展開する。	⑩遠隔授業の継続配信により、効果的な遠隔授業のあり方について実施しながら連携校間で検討し、配信科目の種類、配信方法について展開を図ることができている。	⑩単位互換科目のライブ型遠隔授業は、前期7科目、後期7科目を配信し、前期11名、後期16名の履修生があった。また、双方向ライブ型遠隔講義の運用に関する資料およびテレビ会議システムの基本操作マニュアルを作成し、連携校に配布した。通信テストおよび操作確認を行い、円滑な講義の配信を実施した。また、システムの不具合における対応と連携校に対するサポートを行った。23年4月8日～25日はテレビ会議システムを使用して前期科目を配信する大学を中心として講義の配信テストを実施した。また23年8月4日・5日はMCUバージョンアップに伴い通信テストを実施した。23年9月10日・11日は「第8回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」に参加した。23年11月22日は「e-Learning Awards 2011フォーラム」に参加した。双方向コンテンツ委員会は23年6月17日と23年11月25日に実施し、双方向ライブ型遠隔講義システムの運用等についての検討を行った。
⑪「大学連携による地域活性化シンポジウム」の開催	⑪連携校の学生や大学教職員、地域一般が共同で参画できる事業実施を目指して、地域に関する取組を集約し、大学間連携による地域活性化を図る子どももまた地域活性化シンポジウムを開催し、本取組を広く認知してもらう。	⑪「大学連携による地域活性化シンポジウム」を行うことで、大学が行う地域に関する研究を集約し、連携校間の学生交流及び大学と市民との繋がりを保ち、地域との関係に立って大学の教育・研究への取り組みを可能とする。また本取組の趣旨及び事業概要を広く一般（学生、地域住民、大学教職員も含む）に説明する場として活用され、連携校だけでなく地域全体となった取組の必要性について提案し、地域や学生に対して協力要請を行うことができる。	⑪シンポジウムの第1分科会では、岡山オオルガノンの大学間連携で行っている地域活性化への取組を、地域一般に認知してもらうことができ、本取組の必要性を提案することができた。第2分科会では、子育て支援や科学実験など遊び感覚で体験できるブース展示を行い、身近に大学を感じてもらおう場となり、児童と保護者、県内教育関係者の質向上にも大きく貢献した。また参加者アンケートを通して連携校と地域が一体となった取組の必要性について確認することができた。地域活性化委員会では、シンポジウムとエコナイト実施において、各大学の特色を生かした企画と検討を行うことができた。

平成23年度補助金調査および実績報告書 対比表

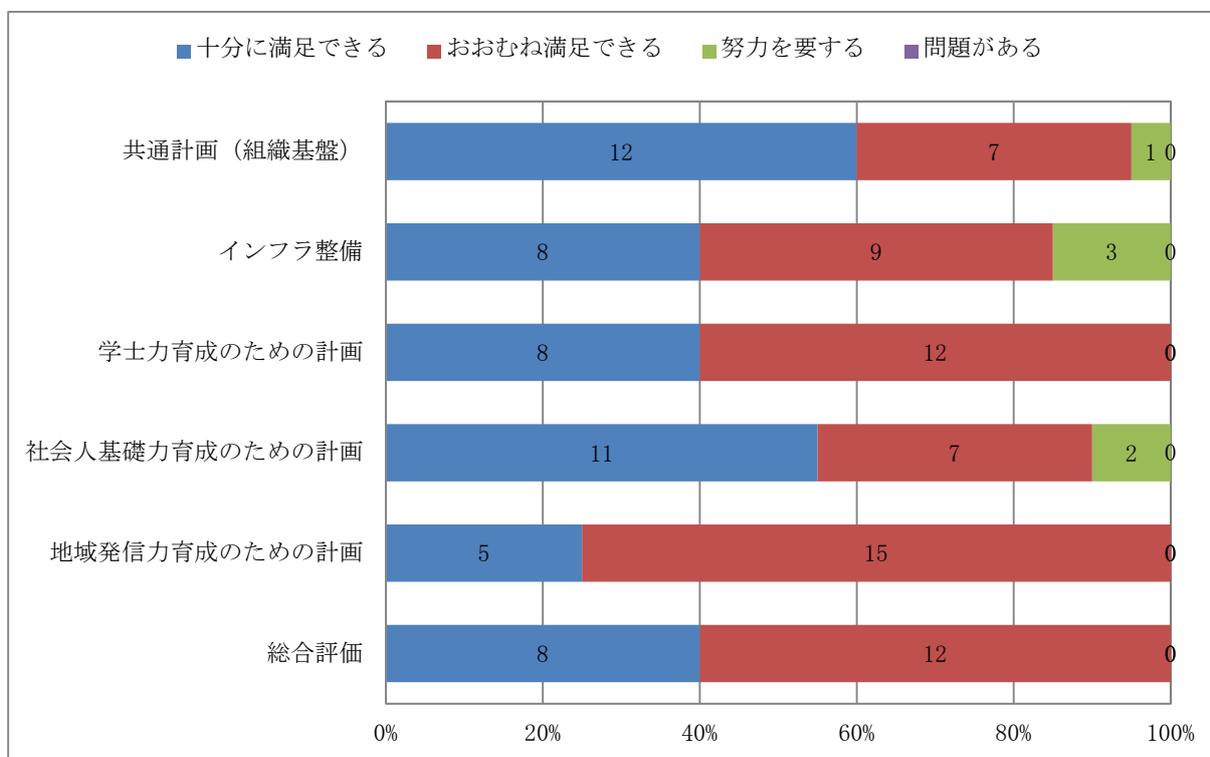
補助金調査		実績報告書		
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業から得られる具体的な成果	補助事業の実績	
⑩「エコナイト」の開催	⑩産学官連携のエコ啓発のための環境教育実践活動である「エコナイト」を県・市等と連携して実施し、学生・市民の環境意識を高める。また、行政・経済団体・市民団体等で構成される「エコパートナーシップおやかやま」を通じ情報共有発信と連携活動を行う。	⑪「大学連携による地域活性化シンポジウム」を行うことで、大学が行う地域に関する研究を集約し、連携校間の学生交流及び大学と市民との繋がりを保ち、地域との関係に立って大学の教育・研究への取り組みを可能とする。また本取組の趣旨及び事業概要を広く一般(学生、地域住民、大学教職員も含む)に説明する場として活用され、連携校だけでなく地域一体となった取組の必要性について提案し、地域や学生に対して協力要請を行うことができる。	⑫23年7月7日を中心に連携校参加大学が「エコナイト」における省エネ活動、ライドウン、マイ・カー・カー乗るまあdayを岡山県との連携活動として実施した。また、「東日本応援およびエコイベント」を、岡山市との連携によって実施し約110名が参加した。その他、12大学が学生主体で行うエコイベントを実施した。4大学の学生29名がエコキャンドルの工場見学に参加した。今年度のエコナイト参加者は連携校全体で1,500名であった。	⑬エコナイトは、岡山県、岡山市等と連携して学生間の交流活動推進と地域への拡充を目的とし、学内消灯や自動車通勤の自粛、その他各大学でイベントを行い、意義ある活動を行うことができた。学生と教職員が一体となってエコ啓発教育やイベントの取組を共有することにより、環境保護の重要性に対する理解と認識が深まった。また、今年度は、震災復興支援による学生、教職員間の連携力を高めることができた。

平成21年度

連携取組事業評価報告書

1. 連携取組評価における集計結果

連携取組評価における各点検項目別および総合の評価を集計した結果は以下の通りである。



2. 連携取組評価結果の分析

各点検項目別、総合およびその他の各コメント記述からそれぞれの項目について、「良好評価」「改善要求」の2つの観点から分析を行った。

2-1. 共通計画（組織基盤）

良 好 評 価	改 善 要 求
主幹大学や委員会の組織基盤の整備 先行事例の視察 連携間の連絡調整や情報共有体制の確立 設立記念シンポジウムの開催	各大学の役割の明確化 連携校間の連携協力意識の強化 情報発信・ホームページの充実 広報宣伝活動の展開 連携評価委員会の選定・現地視察の実施 連携評価委員会の実施方法 地域と一体となった取組の展開

2-2. インフラ整備

良好評価	改善要求
テレビ会議システムの整備 e-Learning用パソコンの設置 単位互換の制度化 学習環境の多様化 教職員の意識向上	配信用コンテンツの充実 授業時間の検討 遠隔授業運用面でのノウハウの蓄積・共有 設置時期の年度末集中の回避 テレビ会議システムの15大学同時接続の実現 各大学の環境整備状況の公開

2-3. 学士力育成のための計画

良好評価	改善要求
i*See2009の共催 吉備創生カレッジの活用 FD・SDシンポジウムの開催 授業評価アンケートに関する実質的な議論	科目提供大学数・科目数の増加 連携校間での履修しやすい科目選択 学生ニーズに応じた科目選択 FD・SD活動に対する連携校の共通認識の向上 FD・SD活動の協働体制の整備 各大学の共通課題の探求 サテライトオフィスの役割・方向付けの明確化

2-4. 社会人基礎力育成のための計画

良好評価	改善要求
実践的キャリア指導チームの組織化 キャリア形成講座プログラムの作成 職業指導のための体制強化	企業ニーズを踏まえた人材養成 キャリア教育指導者養成内容の充実化 キャリア教育におけるICT活用 大学間での連携・協働体制の強化 他大学への取組波及 受講者数増加と受講成果の具現化

2-5. 地域発信力育成のための計画

良好評価	改善要求
ボランティア・プロフェッサー科目の提供 産学（学生を含む）民の連携強化 双方向コンテンツ委員会での連携校への周知 会議でのテレビ会議システムの活用	講義内容・実施方法の検討 学生参画強化・学生教育への寄与の視点 地域が求める人材育成への取組 地域と大学の協働関係の構築 イベント開催の早期検討 共通イベントの連携校での周知 サテライトオフィスの役割・方向付けの明確化

2-6. 総合評価

良好評価	改善要求
次年度本格実施に向けた準備 連携校間の連絡調整・情報共有	全大学の協働体制作り 連携校間の意思統一 各大学が持つ特色を生かす 地域に対するアピール 継続的な事業展開 成果データの公表 負担や費用に関する将来的議論 実施時期の年度末集中の回避

2-7. その他

良好評価	改善要求
短期間での事業推進	学生が地域で活躍する場の提供 地域活性化や産業振興への貢献 持続可能性と将来的な事業負担の検討 より一層の代表校のリーダーシップ発揮 到達目標の共通認識と協働体制作り

3. 平成 22 年度補助事業実施計画

(1) 共通計画

- ①大学教育連携センターおよび各オフィスの運営
- ②「岡山オルガノン代表者委員会」の開催
- ③中間報告書の作成
- ④大学連携シンポジウムの開催
- ⑤平成 22 年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加
- ⑥「連携評価委員会」の開催、評価報告書の作成

(2) インフラ整備計画

- ⑦多地点接続装置の設置調整、9月より運用開始
- ⑧追加教材コンテンツの作成、8月～9月上旬に ICT 活用教材作成講習会の実施

(3) 学士力育成のための計画

- ⑨単位互換制度を活用した配信科目の内容の検討・協議・決定
- ⑩共同 FD 活動の取組内容の検討・協議・決定、1月に共同 FD・SD シンポジウムの開催
- ⑪共同 SD 活動を「吉備創生カレッジ」との業務委託により実施
- ⑫FD 研修事業「i*See 2010」の共催

- (4) 社会人基礎力育成のための計画
 - ⑬実践的キャリア指導チームによる連携校でのキャリア教育の検討・協議・試行実施
 - ⑭「社会人基礎力養成」に関する共同SDワークショップの開催
 - ⑮大学コンソーシアム岡山と連携した実践的体験型プログラムの実施

- (5) 地域発信力育成のための計画
 - ⑯ライブ型方式による遠隔授業の配信
 - ⑰エコナイトの開催
 - ⑱地域活性化シンポジウムの開催

4. 平成 22 年度補助事業実施方針

- (1) センターおよび各オフィスの役割分担の明確化
- (2) 年間活動計画を策定し、年間を通じてイベントの分散化および早期検討可能な体制整備
- (3) 補助金の適正使用を確認するための中間監査および会計経理担当者会議の実施
- (4) ホームページを活用した情報公開・情報発信の充実化
- (5) 単位互換科目履修生募集や学生参画イベント等の学生に対する周知徹底および呼びかけ
- (6) 本取組事業関連イベント等の地域に対する広報宣伝活動の連携校協力体制強化
- (7) 連携校独自のイベントや取組の共同開催の推進
- (8) 連携校教職員の本連携取組に対する連携・協働意識を高めるため、本事業取組を各大学の教授会等にて随時報告および学内での情報共有強化
- (9) テレビ会議システムや学習管理システムの有効活用に向けた各大学での検討実施
- (10) 連携校間の連絡調整時のメールおよび電話による二重確認の実施

(趣旨)

第1条 この要項は、岡山理科大学、岡山大学、岡山県立大学、岡山学院大学、岡山商科大学、川崎医科大学、川崎医療福祉大学、環太平洋大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、山陽学園大学、就実大学、中国学園大学、ノートルダム清心女子大学（以下、「構成大学」という）が、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムに基づく構成大学間の連携取組事業（以下、「連携取組事業」という）に関し締結した「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムの共同実施に関する協定書」第2条に基づき、連携評価委員会の組織及び運営に関し、必要事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 連携評価委員会は次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 構成大学が実施した連携取組事業の内容および成果の評価を行うこと。
- (2) 構成大学が実施した連携取組事業の内容に関して指導および助言を行うこと。

(組織)

第3条 連携評価委員会の組織は次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 有識者（産学官の外部委員）
- (2) 構成大学代表者（学長等）
- (3) その他委員会が必要と認めた者（学生を含む）

(委員長)

第4条 連携評価委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

- 2 委員長は、連携評価委員会の会議を主宰し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(委員会の成立等)

第5条 連携評価委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 連携評価委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 連携評価委員会は、必要があるときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 連携評価委員会の事務は、構成大学の協力を得て、岡山理科大学内に設置している大学教育連携センターにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、連携評価委員会に関し、必要な事項は別に定める。

(平成22年1月22日：岡山オルガノン代表者委員会にて承認)

(1) 有識者（産学官の外部委員）

所 属	職 名	氏 名
岡山県	副知事	古 矢 博 通
岡山県教育委員会	教育長	門 野 八洲雄
岡山経済同友会	代表幹事	中 島 基 善
山陽新聞社	代表取締役	越 宗 孝 昌
立命館大学共通教育推進機構	教授	木 野 茂

(2) 構成大学代表者（学長等）

所 属	職 名	氏 名
岡山大学	学長	千 葉 喬 三
岡山県立大学	学長	三 宮 信 夫
岡山学院大学	学長	原 田 博 史
岡山商科大学	学長	井 尻 昭 夫
川崎医科大学	学長	福 永 仁 夫
川崎医療福祉大学	学長	岡 田 喜 篤
環太平洋大学	学長	大 橋 博
吉備国際大学	学長	藤 田 和 弘
倉敷芸術科学大学	学長	添 田 喬
くらしき作陽大学	学長	松 田 英 毅
山陽学園大学	学長	赤 木 忠 厚
就実大学	学長	押 谷 善 一 郎
中国学園大学	学長	松 畑 熙 一
ノートルダム清心女子大学	学長	高 木 孝 子
岡山理科大学	学長	波 田 善 夫

〔本連携取組事業の目的〕

連携校間における（A）教養教育の充実・共同FD・SD活動による「学士力」育成、（B）実践的キャリア指導・社会活動参画による「社会人基礎力」育成、（C）地域連携による人材育成・地域貢献活動による「地域発信力」育成、という核となる3つの力の育成であり、これらの取組が地域一体となった実践の実現により、「岡山オルガノン」が構築され、岡山県から発信される地域創生型の人材育成へとつなげることです。特に本事業では、ネットワーク網で結ばれたテレビ会議システムの活用により、遠隔授業などの教育支援だけではなく、教職員や学生の交流を深化させていくための重要なコミュニケーション支援としての役割も果たし、これにより大学間連携の充実化を図りたいと考えています。

〔評価の目的〕

本連携取組事業の各々の取組を年度毎に振り返り、今後の継続的事業展開だけではなく、さらに発展的な取組へとつなげ、岡山県内の大学教育・学生サービスの質的向上を図ることを目的として点検・評価を行います。これを通して、成果や課題を連携校すべてにフィードバックし、各大学の特色を踏まえた上での大学教育充実に向けた改善を図る契機として活用します。

〔実施期間〕

平成22年3月15日～平成22年3月29日

〔評価規準・評価観点〕

（1）事業取組評価

- ①本連携取組事業の内容が目的に沿って適切な企画・実施がなされているか
- ②大学間の連携が適切に図れているか
- ③本事業のために導入した設備が目的達成のために有効に活用されているか

（2）地域貢献評価：

- ①産官民や高校との連携が適切に図れているか
- ②地域の担い手となる人材育成につながる取組となっているか

〔評価基準〕

- A：十分に満足できる（期待する効果が十分に見られる）
B：おおむね満足できる（期待する効果はあるが、未到達の部分もある）
C：努力を要する（期待する効果が見られない）
D：問題がある（期待する効果へとつなげるよう計画がなされていない）

[取組点検項目]

以下の5項目について評価をしていただきます。各項目の詳細な取組については文部科学省に今年度事業として提出した交付申請書の内容を掲載しておりますので、ご参照ください。

(1) 共通計画（組織基盤）

- ①代表校に「大学教育連携センター」および3大学に「サテライトオフィス」、また「岡山オルガノン代表者委員会」の設置
- ②大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン」の開催
- ③「連携評価委員会」の設置、3月に連携評価委員会を開催し、評価報告書を作成
- ④平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加

(2) インフラ整備計画

- ⑤次年度以降の遠隔教育の単位認定の制度化と単位互換協定締結の準備（年内に締結）
- ⑥ネットワーク、サーバー、コンテンツ管理およびパソコン設置に係る業者の決定、2月以降にe-Learning用パソコンの設置調整
- ⑦ライブ教育配信用のテレビ会議システムの整備、1月以降に試行運用の開始
- ⑧ICT活用教材作成講習会の実施、次年度配信用コンテンツの作成

(3) 学士力育成のための計画

- ⑨FD研修事業「i*See 2009」の共催
- ⑩「吉備創生カレッジ」に対して共同SD活動事業の委託内容の検討
- ⑪各大学における教養教育配信科目の検討及び候補の決定、12月に教養教育配信科目の検討・協議・決定
- ⑫共同FD・SDシンポジウムの開催、11月頃より共同FD・SD担当者会議の開催

(4) 社会人基礎力育成のための計画

- ⑬実践的キャリア指導チームの組織化、1月に実践的キャリア指導チーム会議の開催
- ⑭キャリア形成講座の発展型事業の委託

(5) 地域発信力育成のための計画

- ⑮ボランティア・プロフェッサーおよびコーディネート科目内容の検討会議の開催、1月以降に配信コンテンツの作成
- ⑯七タエコナイトおよび地域活性化シンポジウム準備会議の開催

[評価報告書の作成について]

連携評価委員会開催当日に、大学教育連携センターおよび各オフィスの代表者より、各取組点検項目につきまして配布資料に従って概略の説明を致しますので、以下のとおり、本連携取組の評価報告書の作成をお願い致します。

- (1) 評価報告書は連携評価委員会の全委員にご提出いただきます。
- (2) 委員会から評価報告書の作成につきましては、上記で説明しました [本連携取組事業の目的] および [評価の目的] をご理解いただき、[評価規準・評価観点] に従い、評定およびコメントの記載をお願いします。
- (3) 評定は大項目ごとに [評価基準] の4段階評価をお願いします。コメント欄には、評定に基づき「優れている事項」や「改善すべき事項」など、記述していただくようお願いします。特に、評定で「C」または「D」の評価をされた場合は、課題や改善点など具体的に記述していただき今後の取組に反映させたいと思っております。また、各取組点検項目の小項目の番号 (①～⑩) について個別にコメントを記述される場合は、小項目の番号を分かるように付記してください。
- (4) 「点検項目別評価」と「総合評価」のそれぞれ記述の方をお願いします。「その他のコメント」につきましては、本連携取組についてご意見・ご感想等ご自由にご記入ください。
- (5) 行数・頁数など必要に応じて追加していただいて結構です。

《記入例》

評 定	Ⓐ B C D
コメント	<p>全般的に・・・について目標が達成できている。</p> <p>今後は・・・の点に注意して・・・の一層の充実を図るよう期待する。</p> <p>(あるいは、・・・の点で特に効果が得られているようであり、今後も一層・・・に注意して成果を出していただきたい。)</p>

評 定	A Ⓑ C D
コメント	<p>・・・に関してはおおむね目標が達成され、その効果が期待できる。ただし、・・・については一部まだ取り組みの遅れ(あるいは、・・・などに不十分な点)が見られるので、・・・に注意して、次年度以降には達成させる必要がある。</p>

評 定	A B Ⓒ D
コメント	<p>・・・を実施したことにより、・・・に大きな成果があがっているのは確かである。ただし、実施した・・・の取組(①)が部分的であり、・・・と・・・を目標にしている・・・への寄与は低いと考えられる。そのため、・・・の取組(①)と・・・の取組(②)については、・・・を整備し、・・・に対してより発展的な事業を展開し、・・・の向上を図るよう検討する必要がある。</p>

評 定	A B C Ⓓ
コメント	<p>・・・に関しては、事業の当初目標が充分達成されているとは考えられない。特に、・・・の点で問題が有ると思われるので、・・・に留意し、早急に実施体制や・・・を見直す必要がある。(あるいは、・・・のように目標設定を変更し、・・・のような効果が得られるよう見直す必要がある。)(あるいは、導入した・・・等の設備が・・・活用されていないようであり、今後は・・・のような適用方法に変更して、導入効果を得るよう努力されたい。)</p>

※句読点や誤字脱字等は修正、文体は原文のままとしている。

(1) 共通計画（組織基盤）

[評定 A：コメント]

- ・初年度の目標である組織基盤の整備については、設備・物品の購入や運営のための打ち合わせなどを通じ、概ね目標のレベルに達しているものと思われる。
- ・連携大学間で協定を締結し計画実施のための組織基盤は確立されている。また、構成大学間において、本事業で実施する目的も共有されている。本事業を実施するため3つのオフィスを設置し、設置大学がリーダーシップを発揮し事業計画を推進している。
- ・代表校に「大学教育連携センター」、3大学に「サテライトオフィス」、「岡山オルガノン代表者委員会」を設置したことにより、本取組全体の統括を行い連携校間の連絡調整や情報共有等の中心的な役割を果たしたことに大きな成果があがっていることを認める。また、連携評価委員会を設置し、実績報告による連携取組事業の各々の取組の評価を行うなど、本連携取組事業が目的に沿って企画・実施がなされている。
- ・当初予定されていた「大学教育連携センター」と3つのサテライトオフィスが組織され、それぞれに計画された事業を実施している。組織基盤としては、十分であるように思われる。それぞれの組織をお引き受け頂いた大学に、感謝申し上げる。
- ・実施計画で策定された①から④の事業を確実に実施したことにより、『岡山オルガノン』の本格稼動に向けた組織基盤の確立について大きな成果があがっているのは確かである。実施計画の①から④すべての取組についてほぼ計画どおりの成果が得られたと考えられる。今後は、この組織基盤をもとにスタートする様々な取組が、岡山県全体の教育力向上に資することができる期待できる。
- ・全般的に組織基盤に関しては、目標が達成できている。今後は、大学教育連携センター及びサテライトオフィスの機能と関連性(連携協力)の点に留意して一層の充実を図るよう期待する。
- ・当初の計画どおり、「大学教育連携センター」「サテライトオフィス」の設置、設立シンポジウムの開催など予定されていた事業を順調に進めてきており評価できる。細かい点であるが、HPの運用が不十分であり、整備が必要である。
- ・代表校の「大学教育連携センター」と3大学の「サテライトオフィス」を設置し、学士力・社会人基礎力・地域発進力の3つの基本目標の達成を目指して分担しながら連携していく基本組織がしっかりしており、組織基盤は強固であると言える。今後は、組織がスムーズに展開していくための具体的な取り組みや4機関間の連携協力体制を作っていく必要がある。
- ・代表校に大学教育連携センターをおき、3大学にサテライトセンターを置くという組織的整備は成功しています。その成果が、「ハッシン！岡山オルガノン」となったと考えています。合同フォーラムへの参加、評価委員会の設置も重要な成果であると評価いたします。
- ・代表校に「大学教育連携センター」および岡山理科大学、岡山商科大学、中国学園大学の3大学に「サテライトオフィス」を設置するとともに、センター及び各オフィスにコーディネーター及び事務連絡員を配置し連携校との連絡調整を綿密に行うなど、共通意識の強化及び連携校

間の相互協力の体制強化に大きな役割を果たすとともに各大学が抱える問題解決の場となる等大きな成果を上げることができた。

- ・計画していた「大学教育連携センター」「サテライトオフィス」「岡山オルガノン代表者委員会」はいずれも設置され、会議や先進地視察など行って順調な滑り出しを見せた。また設立記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン」も平成21年11月に開催され、事業の情報発信に寄与しており、事業を運営していくための組織基盤づくりが順調に行われたと評価できる。
- ・実質半年の間であることを考えると、いずれも十分に満足できる結果と思われる。とくに①は組織基盤として必須であるが、岡山理科大学にセンターを、岡山大学、岡山商科大学、中国学園大学にサテライトオフィスを設置し、それぞれにコーディネーターを配置したことで、組織基盤の第一歩は固まったと思われるので、今後は全連携校の実質的な連携を進めるための核としての役割が期待される。

[評定B：コメント]

- ・①本取組の運営体制は、短期間で予定どおり構築されている。②「ハッシン！岡山オルガノン」開催の趣旨には、学生、地域住民へのPRがあるが、学生数が少なかったのは残念。地域住民の参加者の記録がないが、何人だったのか。③連携評価委員のうち、大学関係者でない有識者に対しては、現地調査を実施すれば良かった。
- ・大学教育センター及び3大学のサテライトオフィス、代表者委員会の設置・運営については、各大学の速度感に合わせ進行している。ほとんどのサテライトオフィスについては、大学間連携の機運が高まっていた経緯も感じられ、スムーズな取り組みが行えた点が評価できる。一部のサテライトオフィスの取り組みについては、実態があまり見えてこない部分があり、さらなる情報発信を行っていただきたい。
- ・7月採択で3年計画の初年度であるため、この基盤整備は必須の事業となると考えられる。本年度事業計画の①、②、④についてはほぼ満足される効果があったと思われるが、③については、評価委員の選定や委員会の開催について、若干余裕がなかったこと、また事業の説明が文章と口頭によるものであったが、プレゼンテーションに工夫が必要ではないかと思われる。加えて、連携大学代表者以外の外部評価者が、本事業の基盤となった大学コンソーシアム岡山に関連するメンバーが中心で完全な外部が1名であったことは検討の余地がある。
- ・初年度であるため準備期間が比較的短かったが、補助事業実施計画に沿って、共通した組織基盤(①)が立ち上がったことは大いに評価できる。ただし、3大学に設置された「サテライトオフィス」の活動の進捗状況に差がみられる。また、創立記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン」への参加状況にかなりの温度差がみられ、参加していない連携大学が散見されることは、連携事業の趣旨からして、今後の工夫・改善が求められる。
- ・本事業決定後、すみやかに「大学教育連携センター」と3箇所の「サテライトオフィス」が設置され、それぞれの事業がスタートしていることから、おおむね計画どおりに進んでいると評価できる。しかし、②の設立シンポジウムについては、実施内容や参加者の人数等をみると事前の準備や広報が十分とは言い難い。連携校、地域とより一体になった取り組みのしかたが期待される。
- ・この項目は、本取組の今後の成果を左右する極めて重要な、組織基盤に関するものであるが、組織づくりである①③の取組により、体制が整い、また、組織の運営についても、コーディネ

ーター会議での検討、先進地の調査等に取り組んでおり、今後の適切な組織運営が期待できる。ただ、関係者の本取組への周知、意識向上を図る②の取組で、パンフレットの作成が年度末になったが、組織立ち上げ期の機運の醸成に活用できていれば、より効果的であったと考えられる。

- ・代表校に「大学教育連携センター」および3大学にサテライトオフィスが設置されたことにより、連携校間の連絡調整や情報共有等取組全体を統括する体制が整い、今後3年間の事業展開を図る基盤整備できたことは、大きな成果である。今後さらに、大学間の連絡・調整を密にし、オルガノン全体としての活動ができるよう、組織基盤の強化が望ましい。また、連携評価委員会は、PDCA サイクルによって事業の質的向上を図る重要な組織であり、今後その機能が十分に生かされ、各大学の取組の改善や、全大学による地域創生型の人材育成の充実が図られることが期待される。シンポジウムの開催やパンフレットの作成・配付等により、取組の目的や内容等についての広報が図られているが、関係団体等を含めて産学官民の共通理解の一層の促進や、地域に対しての発信が必要であるとする。

[評定 C : コメント]

- ・「大学教育連携センター」やサテライトオフィスの設置、代表者委員会等の委員会の設置など組織作りは順調に進捗している。ただし計画が多岐にわたり検討や整備しなければならないことが多く、中心となる大学教育連携センター等に負荷が掛かりすぎのためと思われるが、全体の見通しが悪く、委員会相互の連携を改善する必要があるように思われる。

(2) インフラ整備

[評定 A : コメント]

- ・次年度以降の遠隔教育の単位認定の制度化と単位互換協定締結の準備は、e-Learning 用の各機器を15大学に対して着実に配置整備を実施したことにより、インターネット等を用いることによる多様なメディアを高度に利用して授業を行うための基盤整備に大きな成果があがっていると認める。
- ・15大学の単位互換が円滑に制度化できたことは評価できる。インフラ整備について、特にライブ配信講義を中心とした設備については、順調に設置できたことが評価できる。提供する科目については、専門の異なる大学でも履修しやすい科目を選択するなどの対応が必要ではないか。
- ・実施計画で策定された⑤から⑧の事業を確実に実施したことにより、『岡山オルガノン』の中核をなす e-Learning およびライブ教育配信ためのシステム環境の整備が整った。この結果、ネットワークで結ばれたテレビ会議システムの活用により大学間連携の充実化のための環境が整い、今後、遠隔授業だけでなく、教職員や学生の交流を深化させていくことができると考えられる。
- ・インフラ整備の⑤の点で特に効果が得られているようであり、今後もライブ教育配信用テレビ会議システムの整備について留意し、成果を出していただきたい。
- ・インフラ整備(⑤～⑧)も、補助事業実施計画に沿ってほぼ順調に進められている。遠隔教育の単位認定の制度化(⑤)については、大学コンソーシアム岡山との関係をより明確にして、円滑な運用がなされるよう検討する必要がある。ライブ教育配信用のテレビ会議システムの整備(⑦)は、予定通り試行運用が開始されている。3月23日に開催された「地域活性化委員会」

には、本学が学位記授与式のためテレビ会議で参加したが、画像や音声および機器の操作方法にも問題はなく非常に有効であったとの報告を受けている。

- ・遠隔教育の単位認定の制度化と単位互換協定締結への準備やテレビ会議システムなどの整備への準備が着実に進められていて、システム試行運用も進んでいて、準備段階としてはインフラ整備が着実に進んでいると言える。今後は、配信用コンテンツの作成やシステムの実際運用に向けた連携協働体制をしっかりとしたものとして整備していかなければならない。
- ・全提携校に e-Learning を活用した単位認定制度の整備（パソコン整備を含む）、テレビ会議システムの整備等により各大学の学生の学習環境の多様化及び教職員の意識向上にも大きな役割を果たしている。ライブ型授業を実施することにより学生は所属大学内の教室において他大学の授業を受講できることは学生の他大学への移動する必要がなくなり、学生が他大学の授業を受講することに大きな役割を果たすことができる。
- ・ネットワーク、サーバー、コンテンツ管理およびパソコン設置に係る業者決定、eラーニング用パソコンの設置調整が平成 21 年度内に完了した。次年度配信用コンテンツには加計教育コンソーシアムで使用しているものを借用する工夫も図られ、本事業の中核を担う TV 会議システムや、eラーニングのためのインフラ整備は順調に行われたと評価できる。いっそうのコンテンツ充実を期待したい。

[評定 B : コメント]

- ・ハードの整備については、ほぼ目標に到達している段階と評価できるが、運用に関するコンテンツ、ノウハウの集積段階には至っていない。今後、コンテンツの充実が必要である。
- ・遠隔教育のためのネットワーク等、および各大学間における単位互換協定の準備も順調に進展している。初年度ということもあり、スタートが少々遅れたが、年度内にはほぼ計画通りの水準に到達できるものとする。
- ・ネットワーク、サーバー等のハードの準備は計画通りに進んでおり、すでに使える状態になっている。Live 方式での e-Learning については授業時間のすり合わせに問題が残っており、VOD 方式での e-Learning については、コンテンツの作成が遅れ気味である。
- ・具体的な事項なので事務的に処理が進められることが多く、日程的にきつい条件の下に順調に進んでいると思われる。実際に導入した ICT 機器を使ってみると問題点も出てくると思われるので、遠隔授業のみならずいろいろな場面で使用する機会を作ることが重要と思われる。また e-Learning 用コンテンツ制作のノウハウを連携大学に広げる活動も重要である。
- ・遠隔授業における単位互換協定の締結、ネットワーク等に係る業者選定、テレビ会議システムの整備など計画どおり進めており、遠隔授業を受配信することができるようになった。次年度以降もハード面での整備が必要であるが、各大学に満遍なく設置されるようお願いする。
- ・各大学に、ライブ型遠隔授業配信システム、e-Learning 用パソコン等が順次設置されており、設備の準備は着実に進んでいると評価できる。しかし、⑦事業 2 年目のスタート時点ではまだすべての連携校においてライブ型遠隔授業用システムが利用できる状態になっていない点については、速やかな対応が必要と思われる。
- ・この項目は、来年度以降の遠隔教育を円滑に実施するための準備に関するものであるが、遠隔教育の単位認定制度や単位互換制度の整備に関する⑤の取組は適切に実施できている。また、ハード整備に関する⑥⑦の取組も年度内に終了し、順調に進められている。事業実施が年度後

半になったため、やむを得ない部分もあるが、ハード整備が年度末になったことから、⑧の取組が十分実施できたのか危惧される。

- 学生が大学を移動することなくライブ配信で授業を受けることができるようハード面の整備が順調に進んでおり、実施に向けての環境が整っている。今年度中に、VOD教材の作成方法等の研修も行われているが、学生にとって適切かつ魅力的なVODコンテンツの作成・蓄積が重要であり、今後はその充実を目指すことが求められる。
- インフラ整備として必須の⑥⑦が順調に進んでいるようなので、おおむね満足できるが、⑧については実際に単位互換の科目配信が始まらないと何とも言えないので、未到達な部分を含んでいる。

[評定C：コメント]

- ⑤～⑧オルガノンとしては、必要なインフラ整備は整えられているように思う。しかし、15大学間では進行速度に多少の差が生じているのではないかと、その部分が不明。各大学のハードの整備及び単位認定等の学内規程の改正の現状を一覧表にして公表すべきである。そのデータに基づいて、本評価は行うべきである。
- インフラ整備についても7月採択で3年計画の初年度であり、かつ15大学の連携という裾野の広い事業計画であるため、順調に推移させることへの困難さは容易に想像できる。しかし、⑤～⑧について、特に⑦は、次年度初頭からライブ遠隔授業を実施するため、その準備がかなり切迫した状況で行われた。各大学が入試や年度末の多忙な期間であったため、若干綱渡り的であったことは否めない。努力と労力を注ぎこまれたことは十分に認識しているが、この運用がもう少し早い時期に行われていればと思い、C評価とする。
- 単位互換協定は必要な事柄です。テレビ会議システムの導入、パソコンの設置等スムーズであったと思います。ただ、ネットワークの一層の充実と使いこなしのノウハウの蓄積の面で、まだ不安が残ります。ライブ授業の実施の際の細かな条件等に、これから詰めるべき点があるように思います。また、ICT教材の作成・運用等の面でも、ノウハウの蓄積・共有にさらに努めるべき点が多いと思います。

(3) 学士力育成のための計画

[評定A：コメント]

- 共同SD、共同FD・SDシンポジウムの試みは、大きな成果をあげつつある。シンポジウムや講習会などでは、優良校の発表となることが多く、様々なレベルの大学の実態を知ることはほぼできない。今回の試みは、その意味で実質的な議論を行うことができ、有意である。今後の発展が望まれる。
- 共同FD・SD、学生参画のFD等を実施したことにより、FDは学生と教職員も教育改善活動の補助的役割にとどまらず主体的に関与すべきであるという認識を学生自身が持つことができるようになるなど学士力育成に大きな成果があがっていると認める。また、ICTを活用した授業配信の取組も学士力育成のために着実に進捗していると認める。
- FD・SDシンポジウムの開催について、FDの第一人者による講演会の実施、参加大学のFD・SD活動情報の共有化が行えたことが評価できる。

- ・ 学士力育成のための計画については、全般的に目標が達成されている。今後は、共同 FD・SD の担当者会議のあり方に留意され、一層の充実を図っていただきたい。
- ・ FD・SD については、具体的に実施され、また、シンポジウムも開催され大きな成果もあったと認められる。ライブ型遠隔授業も次年度からスタートすることになり、順調に進めてきている。科目については今後とも検討して、学生のニーズに添った科目を配信できるように期待する。
- ・ 共同 FD・SD 活動事業への準備と担当者会議や FD 研修事業などの具体的展開が始まっていて、学生主体の教育改善活動は非常にユニークで、全国的な反響も大きく、大変好ましいことである。今後は、とかく当該サテライトオフィスだけの主体的な展開となりやすい問題を、どのように各大学の協働体制を整備することによって解決していくかが大きな課題となる。
- ・ FD 研修事業の開催、共同 FD・SD シンポジウムの開催等により学生目線による教育改善活動及び連携校の授業評価アンケートの有効性の確認等に大きな役割を果たすことができた。各大学における教養教育配信科目の検討等により連携校間の教養科目の受講が可能になり、学生の主体的学びの促進及び地域で生きる学生の育成にも役立つものであると思う。また連携校間で教養科目を共有することは非常勤講師の確保にも道を開くものである。
- ・ FD 研修事業「i*See 2009」の共催、FD・SD シンポジウムの開催、吉備創生カレッジの活用により、教職員の資質向上を図った。また各大学における教養教育配信科目の検討が行われ、次年度は岡山商科大学、倉敷芸術科学大学、川崎医科大学の 3 大学から 5 科目の配信が決定され、大学間連携が具体的に動き始めたと評価できる。配信科目については、他の大学も含めたさらなる科目数の充実が図られるよう期待したい。

[評定 B : コメント]

- ・ 初年度ということもあり、スタートが少々遅れたが、当初の計画は年度内に実施できるものと考ええる。
- ・ ⑪教養教育科目を主に配信する計画であるが、教養科目は各大学とも初年時に設定されていることが多い。初年時は各大学の教員による講義をまず学生に聴かせて、高年次になってからオルガノン科目を活用するのが良いと考える。その場合に、高年次向きの教養科目を配信するようにプログラムを組むべきと思う。⑫FD、SD 共に各大学の当面の共通の課題を探求し、それを解決する手がかりを見出すような内容及び方法を採用するとよい。
- ・ 学士力育成について、⑨～⑫の取組は FD/SD のシンポジウム企画など順調に推移したと感じられる。ただし、⑪で示されている ICT を用いた授業配信については、本年度は基盤部分の整備が中心となっているためか、地域発信力育成担当サテライトオフィスに委ねられている印象があり、学士力育成担当サテライトオフィスでの事業内容や担当が明確になっていない感じが否めない点が残念である。次年度以降に、メインオフィスからの方向付けも含めて、判り易く活動することが望まれる。
- ・ 当初計画されていた事業（i*See 2009、吉備創生カレッジにおける共同 SD 研修、共同 FD・SD シンポジウム）はすべて実施された。本学の場合、大学の理念（医療福祉の創造的担い手の育成）がやや特殊であるため、一般大学と共有できない部分もいくらかある。可能な限りの協力は惜しまないつもりである。

- ・実施計画で策定された⑨から⑫の事業を確実に実施したことにより、『岡山オルガノン』の本格稼働に向けた学士力育成のための研修活動について大きな成果があがっているのは確かである。ただし、これらのFD・SDの取組を学士力の育成にどのように結び付け、活用していくのかについて、さらなる協議や趣旨の周知をより広範囲に行うことができれば、より多くの関係者に本取組の意義が理解されるのではないかと考える。
- ・学士力育成のための計画では、初年度はFD・SDに重点が置かれているが、次年度以降は年次計画に沿って、中心的な課題である学士力そのものの内実やその育成方法について具体的な取り組みの展開が期待される。3月14日に開催された「共同FD・SDシンポジウム」(⑫)は、学生による授業アンケートの成果や課題に関する基調講演に加えて、15大学が相互に情報交換・意見交換するイベントであり、連携事業として多く成果を得ることができている。
- ・全体の計画は順調に進んでいる。FD・SDに関するオルガノンの事業への各連携大学の取組みには跛行性がみられるし、また各大学で独自に進めてきたことな連携して進めようとする機運を高める必要がある。
- ・担当大学においてすでに実績のあるFD活動や、「吉備創生カレッジ」という既存の組織とうまく連携して本事業をより活発に推進しようとする試み、またFD・SDシンポジウムにおける大学間の情報共有や率直な意見交換は、連携事業にとって意味のあることと評価できる。一方⑩については、当初の計画に比べ遅れが見られ、また連携大学との連絡・調整も十分ではないと思われる。この点については2年目の着実な推進を期待する。
- ・i*See 2009、吉備創生カレッジのSD科目は好評で、よい成果をあげたと考えます。FD・SDシンポジウムも、授業評価のあり方を問うよい結果を残したと思います。教養教育科目配信については、その具体的な実施に関して細部にまだ詰める点があるように思います。
- ・FD、SD活動の充実を図る⑨、⑫の取組は、適切かつ効果的に実施できたものと考え。また、来年度に向けた準備となる⑩、⑪の取組も、適切にできているが、⑪の取組について、費用対効果の観点から、配信科目のさらなる拡大を期待したい。
- ・共同FD・SDシンポジウムや共同FD・SD担当者会議が開催されるなど、連携校においてFD・SD活動に積極的に取り組む必要性が共通理解されたことは成果であった。特に、FDの内容について、本事業の目的である学士力向上につながるかという観点で、さらなるブラッシュアップが望まれるとともに、来年度以降具体的な取組（例えば授業改善、授業評価の実施等）として、各校において実践されるよう検証を行っていく必要がある。また、教養教育配信については、連携校となっている各大学がそれぞれに特色ある科目を配信することができるよう、準備を進めることが求められる。
- ・⑨⑩⑫は、いずれも十分に満足できる。⑪の次年度以降の単位互換のための開講予定科目は初年度とはいえ、提供大学も科目数も少ない。ICTを活用した教養教育の共有化は岡山オルガノンにとっては魅力のあるものとして期待されるので、提供科目の開発にもっと力を入れることが望まれる。

(4) 社会人基礎力育成のための計画

[評定 A : コメント]

- ・⑬講座プログラムやカリキュラムを作成し、具体的に実施した結果を検証し、評価もなされたとのことで、取組が充実し進展しているように思う。学生のニーズを調査した上でテーマをしぼって、チームとして結束して活動したのが成功の要因であると考え。
- ・実践的キャリア指導チームの組織化、1月に実践的キャリア指導チーム会議の開催、キャリア形成講座の発展型事業の委託等を実施したことにより、各大学で現在不足しているキャリア形成教育担当教員の確保につなげられると共に、平成23年度から義務化される職業指導（キャリアガイダンス）のための体制強化にも大きな成果があがっていると認める。
- ・社会人基礎力については、本事業の端緒となった母体である大学コンソーシアム岡山からの委託事業やその発展形を実施するという形態であったため、比較的円滑に実施されたと考えられる。十分な成果は出ているように感じられるが、今後は、キャリア指導の指導員育成の面でも、あるいは参加する学生数の面でも、拡大を目指して実施されるべきであろう。
- ・実施計画で策定された⑬から⑭の事業を確実に実施したことにより、『岡山オルガノン』の本格稼働に向けた社会人基礎力育成のために大きな成果があがっているのは確かである。特に、「キャリア形成講座の発展型事業の委託の取組」（⑭）は、受講学生の評価も高く、今後の連携校間での社会人基礎力の育成のための講座展開の取組に重要なヒントを与える良い取組であったと考える。
- ・全般的に目標が達成できており、今後一層の充実を図るよう期待する。
- ・実践的キャリア指導チームの組織化ということで、第一次チームを形成して、新カリキュラム・新プログラムを作成し、テスト実践などを企業・大学・高校で進めており、成果が期待できる。多くの学生が受講できるように広報などの検討を望む。
- ・地域の実践的キャリア指導のチームづくりや、学生自身のキャリアアップのための講義・演習を受講できる体制づくりとともに、次年度以降のキャリア形成講座への準備などが着実に進められていて、今後の成果が期待できる。今後は、各大学の連携協働体制と、講座の具体的内容・方法が受講学生の希望に沿うものとなって受講者数増と受講成果につながるような方策をとることが大きな課題となる。
- ・地域の実践的キャリア指導チームの組織化、キャリア形成講座の発展型事業の委託により各大学で不足しているキャリア形成教育担当者を確保できたとともに、多くの学生がキャリア教育を受講できる環境が整い学生のキャリア形成の体制を整えることができた。
- ・本項目に関する取組については、担当するサテライトオフィスの熱意が感じられ、⑬の取組では、次年度への展開可能性が見えてきており、高く評価できる。今後、さらに企業等のニーズを踏まえた人材の養成を期待したい。また、⑭の取組では、キャリア形成講座が、コンソーシアムでのこれまでの経験を踏まえた、さらに質の高いものとなることを期待する。
- ・実践的キャリア指導チームが立ち上げられ、企業・団体、大学、高等学校において試行を行うなど、積極的に講座プログラム案の検討がなされたことは、次年度に向けての基盤となったと考えられる。また、これまで大学コンソーシアム岡山が実施してきたキャリア形成講座の実績を踏まえての展開が構想されており、効果的な事業となることが期待できる。
- ・大学コンソーシアム岡山で実施したキャリア形成講座の成果を総括し、さらに発展させた新たなプログラムを作成。大学コンソーシアム岡山へ事業委託し、これまで培ったノウハウ、資産を次年度以降、有効活用するための道筋をつけた。また産業界からも人材を集めたキャリア支援指導チームづくりも綿密に行われ、次年度以降の展開に道筋をつけたと評価できる。

[評定 B : コメント]

- 大学教育にはキャリア教育が義務化されたが、実際の教育にあたる人材は非常に少ない。このため、キャリア教育実務者の育成は急務である。しかしながら、現段階では学生を対象とした実践事例は数あるものの、指導者養成への動きは十分とはいえない状況と評価する。
- 初年度ということもあり、スタートが少々遅れたが、当初の計画は年度内に実施できるものとする。
- 担当サテライトオフィスから、他のオルガノン参加大学に対する働きかけが見えてこない。キャリア教育は重要なことであるので他大学へ取り組み内容を波及させるような一層の努力が求められる。
- 初年度のためか、社会人基礎力育成に関する連携大学間における連絡調整が必ずしも十分ではないように思われる。15 大学が相互に連携して活動するという本事業の趣旨の実現に向けて、これまで以上に連携大学を巻き込むための工夫や努力が求められるのではなかろうか。
- 今年は準備期間ということで、計画は順調に進んでいる。具体的成果は来年度に期待する。
- キャリア形成講座の組織化、体系化が順調に進んでいるように感じました。今後は、それを連携校の取組としてどのように具体化するかに、力を注ぐことが必要かと思います。
- 講座の内容はよく考えられており、十分満足できるが、新講座の企画案が諸事情により変更となったようで残念である。キャリア形成講座においても ICT 活用の可能性について検討してはどうか。

[評定 C : コメント]

- 本学の特殊性が最も大きな足枷となる事業である。社会人基礎力は、分野によらず共通した社会人としての基礎的な力という意味であろうが、現場で必要とされる基礎的な力は必ずしも共通とは言い切れない。医療福祉は人の生命・生活に直接関わる職種であるため、一般的なキャリア教育（自己実現）では対応できない部分がある。
- 現在までに実施してきたキャリア指導チームの組織化、講座のプログラム内容などが、各大学が現在行っているキャリア教育の支援に具体的にどのように資するのか現時点では見えてこない。また大学コンソーシアムへの事業委託という形での展開では、本事業が目指す連携取組としては不十分と考えられ、連携校にとって実質的に意味のあるキャリア教育支援となるような展開の仕方が望まれる。

(5) 地域発信力育成のための計画

[評定 A : コメント]

- ボランティア・プロフェッサーおよびコーディネート科目内容の検討会議の開催、1 月以降に配信コンテンツの作成及び試験配信、七夕エコナイトおよび地域活性化シンポジウム準備会議の開催等を実施したことにより、これらの取組が、学生・企業・地域・大学との連携が深まり、学生のための地域が求める人材育成に大きく貢献できるものであることが確認できたので大きな成果があったと認める。

- ・双方向コンテンツ委員会をいち早く組織され、ボランティア・プロフェッサー科目の提供を紹介したこと、またライブ配信講義の受講体験をさせるため、テレビ会議システムを利用した委員会を開催したことが評価できる。
- ・ボランティア・プロフェッサー科目やコーディネート科目の配信コンテンツの作成や地域活性化シンポジウム会議への準備体制づくりなどが綿密に進められていて今後の成果が期待できる。今後は、「双方向コンテンツ委員会」などでの具体的実施内容・方法を明らかにし、どのように地域連携を進めるかの体制・内容・方法の開発に力を入れるべきである。
- ・テレビ会議システムを利用して企業の経営者等が実施する「ボランティア・プロフェッサー科目」のライブ配信を試験実施する等次年度以降の本格実施に道を開くとともに学生の地元経済・社会への理解を深めることができ、学生・企業・地域・大学の連携を深めることができた。また七夕エコナイト及び地域活性化シンポジウムの開催により学生の環境教育の実践的活動の実施及び地域住民との交流に役立つとともに学生が地域住民との協働できる取り組みに役立つことができた。
- ・岡山商科大学と岡山大学で行われているボランティア・プロフェッサー科目は、協力している岡山経済同友会にとっても看板事業となっており、テレビ会議システムを使用した遠隔授業を実施することにより、さらなる産学連携が期待できる。学生と地域住民が協力しあえる「七夕エコナイト」の実施とあわせ、次年度以降、地域と大学が協働関係を深めることで、地域に開かれた大学づくりに向けたさらなる事業展開が期待できる。

[評定 B : コメント]

- ・地域発進力育成に向けた講義科目も準備され、地域活性化に向けたシンポジウムの準備も軌道に乗っている。
- ・⑮大学では開講が難しい講義が用意されており、学生のやる気を誘発することが期待される。その検証及び評価は次年度の活動に委ねられる。
- ・地域発信力について、サテライトオフィスが実施していた事業を組み込んで発展形で充実させる試みは評価できる。しかし、学士力育成の e-Learning 方式のライブ単位互換授業の実施拠点と、地域発信力のサテライト拠点とが相互に乗り入れしている状況は、本事業全体の構想と組織構築において、個々のサテライトオフィスの役割分担と連携協力体制の境界が曖昧な印象を拭えない。次年度以降は、この辺りの整備も必要な印象を受ける。
- ・本格的な活動は来年からであり、今年度はその準備であろう。計画された事業（ボランティア・プロフェッサーの検討会議、七夕エコナイトの準備会議）はすべて実施されている。地方の大学として、地域との連携は決して無視できない視点であり、それぞれの特徴を生かした地域連携をどのように統合するか、今後のさらなる検討が必要と思われる。
- ・実施計画で策定された⑮から⑯の事業を確実に実施したことにより、『岡山オルガノン』の本格稼働に向けた地域発信力育成のための準備が進んでいるのは確かである。ただし、実施した⑯七夕エコナイトおよび地域活性化シンポジウム準備会議の開催については、実施時期について新年度に向けての人事異動もあるため、もう少し早い段階で実施していただけた方が良かった。
- ・地域発信力育成のための計画については、概ね目標が達成され、その成果が期待できる。ただし、大学のみでなく地域と一体化して進めるプログラムの導入などを検討して欲しい。

- ・補助事業実施計画に沿って地域活性化委員会が立ち上がり、3月23日に委員会が開催され、連携大学における地域活性化をめざした取り組みが紹介された。今年度は各大学それぞれの取り組みが紹介されたが、次年度以降は地域発信力育成のために、大学相互の“連携”あるいは“つながり”を重視した事業展開を検討する必要がある。その意味でも、平成22年7月に実施が予定されている「七夕エコナイト」の成功に向けての周到な準備が期待される。
- ・来年度にむけて準備計画は順調に進んでいる。具体的成果は来年度に期待する。とくに大学が連携して地域活性化に寄与できそれが学生教育に繋がるよう期待する。
- ・次年度以降の実施に向けての準備段階であり評価し難いが、委員会は開催されており計画とおりに進められている。本学は、「エコナイト」について全く知らない状況であり、参加し易い広報を期待する。
- ・ライブの遠隔授業の試験的配信の実施、地域活性化委員会における連携大学間での情報交換・共有など、次年度の事業に実質的に結びつくような活動が進められていることは評価できる。ただし、「ボランティアプロフェサ科目」「コーディネート科目」の内容や、連携組織として地域の活性化へどう取り組むかについては、さらに十分な検討を行なうことが必要である。
- ・ボランティア・プロフェッサー科目、コーディネート科目については期待されます。これらを共同配信することは、学生に対しても社会に対しても十分に有意義な活動になるものと評価しております。
- ・⑮の取組については、次年度に向けて準備が確実にできていると考えられる。⑯の取組では、今後、地域活性化シンポジウム開催に向けた検討を行うとのことであるが、「地域活性・環境教育の創出」「地域人材の活用」「地域貢献活動」といった地域発信力育成というテーマに合致したものとなることを期待する。
- ・同時双方向テレビ会議システムを活用し、ライブ方式で講義を受講することができるようシステムが構築されたことは、連携校間で単位互換制度を充実させていくことに大きな成果があったと考えられる。また、ボランティア・プロフェッサー科目の活用は、学生が企業や地域に対する関心を高め、地域で活躍できる人材育成につながるため、今後一層の充実を期待したい。今後、単位互換制度が有効に活用されていくためには、双方向コンテンツの内容の充実や受講環境の整備などが不可欠であると考えられる。地域住民と学生の交流促進については、連携校でエコナイトの実施に向けた準備が進んでいるが、さらに各大学において取り組まれている地域と連携した研究に、学生が参加・参画できるような仕組みづくりを行うなど、地域が必要とする人材育成に向けて幅広い取組を期待したい。
- ・地域発信力育成のために双方向ライブ遠隔授業とeラーニングとしてのVOD講義の準備がテレビ会議システムを活用して進められていることは認められるが、今後の講義展開およびその効果の全体像を明らかにする努力が望まれる。

3. 総合評価

[評定A：コメント]

- ・代表校に設置された「大学教育連携センター」、3大学に「サテライトオフィス」、「岡山オルガン代表者委員会」が、本取組全体の統括を行い、連携校間の連絡調整や情報共有等の中心的な役割を果たしたことで全ての取組に大きな成果をもたらしたものと認める。

- ・初年度にしては、各大学の速度差があるにもかかわらず、コアになるライブ設備も設置でき、事業の取り組みについて、見通しがついた。今後、このシステムを活用し、どのような成果が出せるのか、さらなる努力が期待される。
- ・学士力、社会人基礎力、地域発信力の3つの力の育成を図るため、1. 大学連携推進のための組織体制を整え、2. シンポジウム開催、専門家チーム編成、単位認定制度確立等により、関係機関に対して事業内容の周知徹底を図るとともに、3. 本事業推進に不可欠であるインフラ整備、テレビ会議システムの試行運用、ICT活用教材作成講習会を実施することにより、次年度以降の本格的な事業展開に向けた準備を行うという本補助事業の本年度の目的が十分達成されたと考えられる。
- ・全般的に目標が達成できている。今後は、上述のコメント内容に注意して一層の成果が得られるよう期待する。
- ・初年度ということで、インフラの整備、諸計画実施に向けての委員会の開催など準備段階であるが、全体的に計画通り実施されており評価できる。次年度以降の実施に期待している。
- ・採択後半年という短期間であったにもかかわらず、「センター」と「サテライトオフィス」とを核とした諸準備が精力的に進められ、次年度からの実質的な事業展開への期待が大きく膨らんでいる。課題としては、中核4大学の連携と他の11大学との協働体制づくりを精力的に進めるとともに、単発的な事業の集積に終わることなく、岡山県内の総合的の大学力を増進することを目標とした連携・協働を進めなければならない。
- ・計画初年度であるにもかかわらず、ほぼ当初の計画通りに実施しており目的である「学士力」「社会人基礎力」「地域発信力」の育成に着実に道筋を付けており次年度以降の更なる発展が期待できる。本計画を完遂することにより岡山県全体の学生の学士力向上は勿論のこと、学生が在学中から主体的に地域貢献活動に積極的に取り組むことにより、地域活性化の担い手として卒業後も地域での活躍が期待できるものである。
- ・全体的に、順調に滑り出した印象を受ける。参加校が15校と多く、事業も多岐に渡るため、意思統一には困難も予想されるが、各校の連携・調整を十分に図り、「木を見て森を見ず」にならぬよう、「地域発信力」「学士力」「社会人基礎力」の向上という所期の目的達成を目指し、引き続きご尽力いただきたい。

[評定B：コメント]

- ・15大学の参加によるオルガノンであり、連帯の活動は簡単ではない。初年度の活動としては、困難な環境の中、良好な活動結果であると評価する。
- ・計画された諸課題はほぼ準備が完了している。次年度からの本格実施が期待できる。
- ・全般的に短期間に予定の計画をほぼ達成できているように思う。その成果を具体的に（定量化できるものは定量化して）表面に出すことが必要。評価は、公表されたデータの裏付けの基に行わねばならない。
- ・種々のコメントを加えてきたものの、7月採択で実質半年間の事業としては十分な進捗状況であり、また内容も当初の目的に合致したものとなっていると感心する。ただし補助金で賄われる3年間とその後、母体に近い大学コンソーシアム岡山への吸収によって、各連携校の費用や実施事業に関連する負担に関して、十分な議論のないままに推移することは、やはり協力と連

携を謳う限り、極力避けるべきであろう。十分な理解と合意の中で遂行、発展させていくべき性格のものであらうと感じられる。

- ・計画されていた事業はほぼ順調に実施されており、大きな問題があるとは思えない。ただ、複数の大学が連携する場合、それぞれの特殊性を損なうことなく、むしろ積極的な多様性として利用するには、それなりの知恵を絞る必要がある。
- ・初年度に予定されていた基盤整備を、総じて順調に進めることができた点は大いに評価できる。ご尽力いただいた代表校の「大学教育連携センター」および3大学の「サテライトオフィス」、そして連携大学の関係者の皆様に対して、厚く御礼申し上げる次第である。15もの大学が連携することは必ずしも容易ではなく、大学間に少なからず温度差がみられることはやむを得ないことである。基盤整備も進んでいることから、次年度以降は連携をより深めることに重点を置いた事業展開が求められる。
- ・全体の計画は順調に進んでいる。各連携大学の取組みやこの事業の認知度に跛行性がみられるように思われる。各大学で全学的な取組みにできるようにさらなる連携を期待する。
- ・準備時間の不足によるものか内容的に不十分と思われる事業や、連携事業の進め方としては改善の望まれる点がみられるのも事実である。これらの修正を図りながら、より発展的な展開が期待される2年目の事業につなげていく必要がある。ともあれ、15大学連携という大きな取り組みであり、補助金交付決定から実質的に半年間での実績としては、おおむね順調に進められていると評価したい。
- ・組織体制の整備と学士力、社会人基礎力、地域発信力の育成にかかわる事業について、基礎的な整備と基本的な作業が充実し、次年度以降に大きな成果が期待できるかと思えます。インフラ整備に関して今後より一層の充実を図るとともに、細部の詰めを十分に行って事業全体を進めることが必要かと思えます。
- ・今年度は、初年度ということで、実質的には半年の取組期間であったことから、本年度に予定していた事業の実施が、年度末に集中しているが、次年度の本格的な事業展開に向けた準備は、概ね順調に進められているものと評価できる。
- ・事業1年目であるが、連携校がそれぞれの特色を生かしながら、大学相互の連携や地域との連携を推進することにより、学生の学士力、社会人基礎力、地域発信力の向上を図る取組が着実に進められている。今後、連携校間の一体性を高めるなど事業の基盤となる部分について、さらなる強化が望まれるとともに、連携校、関係団体等での共通認識の確立にも意を用いることが期待される。
- ・半年間という短い期間にもかかわらず、各方面の準備状況は十分満足できる程度であるが、来年度以後の展開とその期待される効果について不明の部分も少なくなく、来年度の実施の過程で明確になることを望みたい。

4. その他

- ・代表校ならびにサテライトオフィスの大学の関係職員の皆さまには、本当に短い期間でよく整備されたと感心しております。全国的に実施されているコンソーシアムでもそうですが、連携と協力に入り込み切れない個々の大学の目標とする教育体制との折り合いをどのように付けていくのか、その様な場合に、連携各校の事業負担の程度をどのように構築するのかという点に

については終了後を見据えて是非早期からの検討を期待したいと存じます。オルガノン事業では15大学が終了時点を目指して集束していくことが望まれますが、その後は、再び拡散していく中で、こういった事業を個々の大学としてどの程度求めているのかという尺度の中で、関係を深くする大学とそうでない大学が生じてくるのは、ある面、致し方ないのかも知れないと感じております。そのような緩やかな連携に向けて、終了時点（平成23年度末）への集束とその後の拡散についてイメージしていただければ嬉しいと思います。

- 本取組の代表校である岡山理科大学が大きなリーダーシップを発揮していただき、着実に推進されていることについて敬意を表するとともに、本学も次年度以降の本格稼働に向けて連携校のひとつとして全学的に、より積極的に参画していきたいと考える。
- 補助事業であるからには成果を検証して報告する説明責任が求められる。したがって、本事業の3本柱であるところの、「学士力」「社会人基礎力」「地域発信力」を構成する資質・能力項目を具体的に明示して、到達目標を設定し達成度を評価するなどの一連の検証方法について、連携校大学間で共通認識ないしは合意を得ておく必要がある。
- 本事業の成果による大学教育・学生サービスの向上とともに、15大学が連携して総合的の大学力を上げていくためには、本事業および「大学コンソーシアム岡山」の存在意義と理念・目標の共有化が前提となる。そのための具体的な事業として、例えば「教養教育」の共同プログラムの策定によって、「教養教育岡山方式」の確立への努力をするなど、具体的な目標設定による協働体制づくりが重要である。
- 本計画は地域の産学官連携の中核をなすものであり、環境整備を実施することにより更なる発展が期待できる。今後も積極的な財政支援をお願いしたい。
- こうした大学連携の取組が、大学間のメリットにとどまらず、地域社会の活性化や産業の振興等に広く貢献できるものとなること期待したい。また、そうした成果を上手に県民にアピールしていくことも大切だと考える。国の補助は、平成23年度までであることから、この取組が持続可能なものとなる方策について、検討を進めることも必要であると考えます。
- 県教育委員会としては、学生が地域で活躍できる場の提供やキャリア形成に資する学習機会の提供など、本取組の充実が図られるよう一層連携を推進していきたい。

平成22年度

連携取組事業評価報告書

1. 連携取組評価における集計結果

連携取組評価における各点検項目別および総合評価の集計結果は図1～6の通りである。

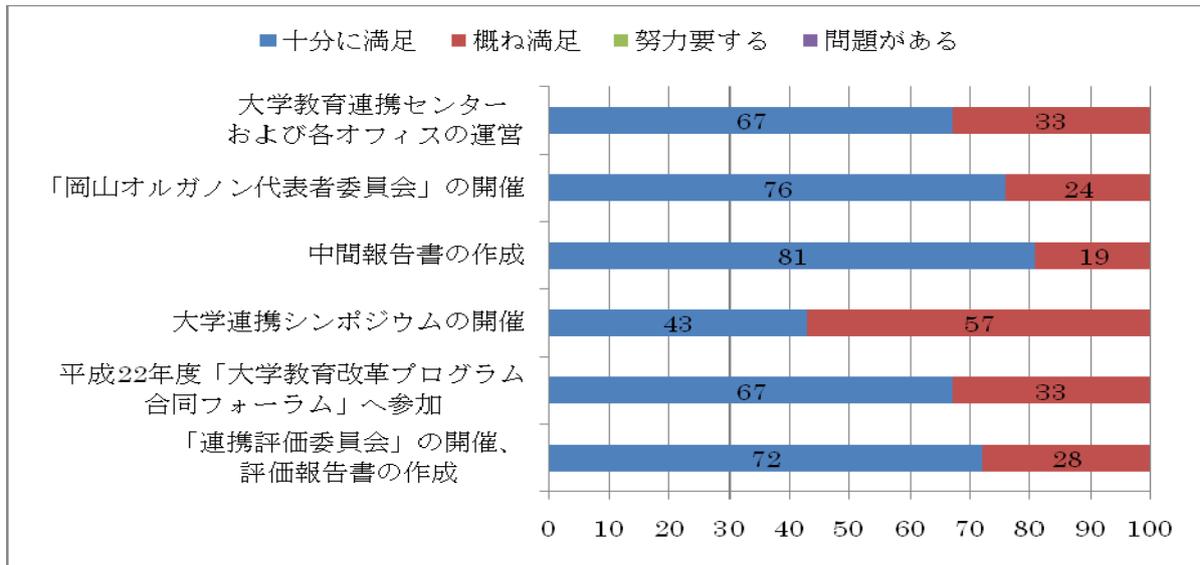


図1 共通計画(組織基盤)

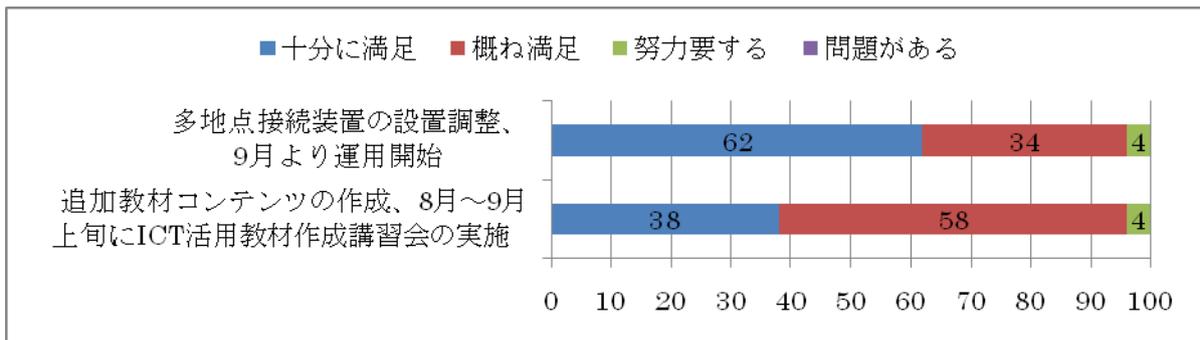


図2 インフラ整備

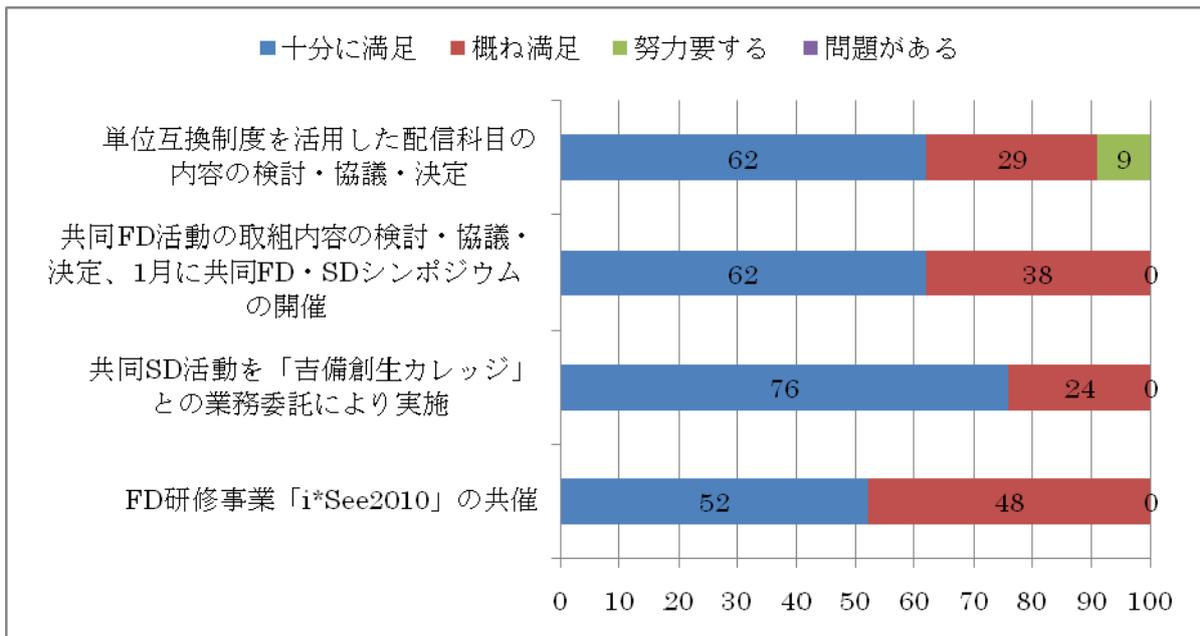


図3 学士力育成のための計画

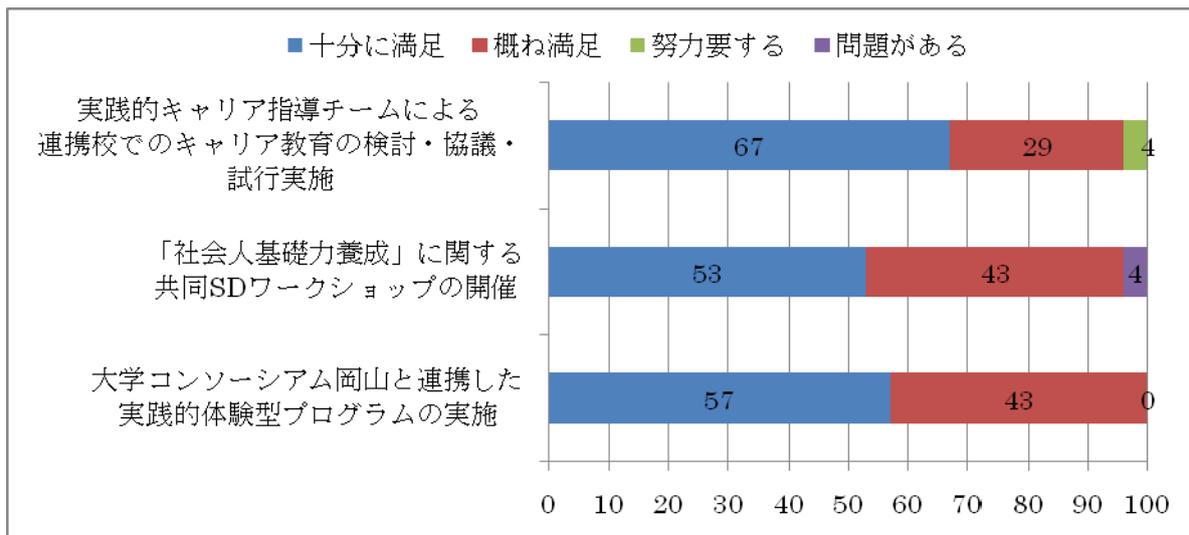


図4 社会人基礎力育成のための計画

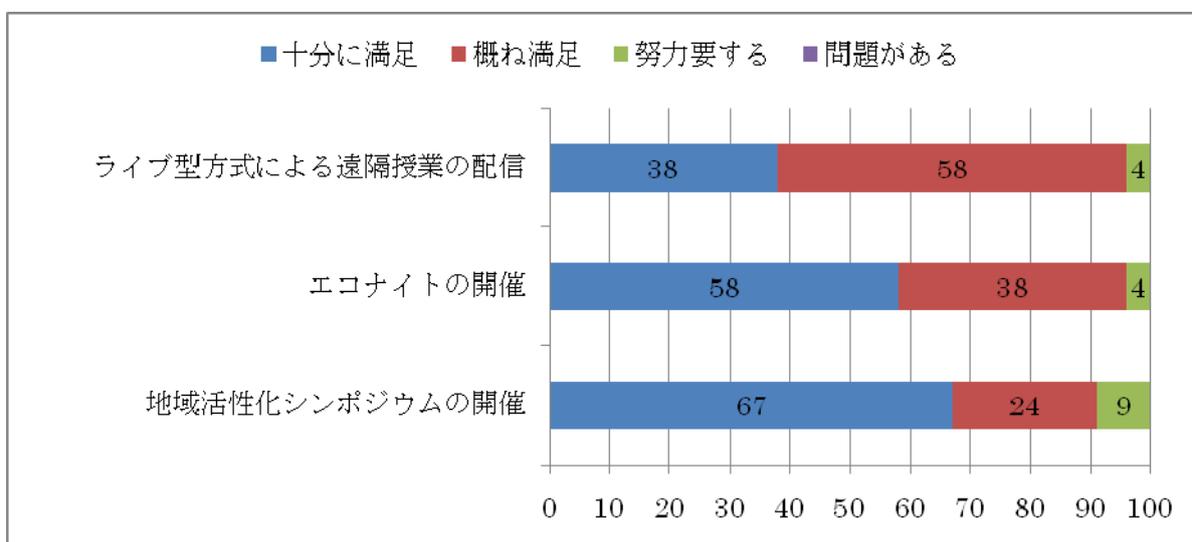


図5 地域発信力育成のための計画

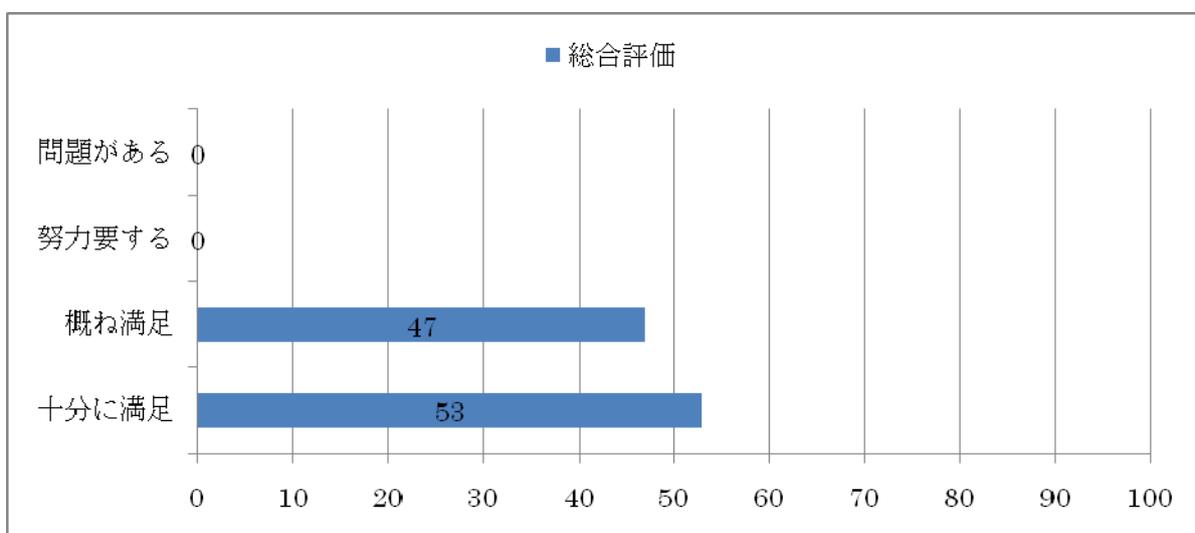


図6 総合評価

2. 連携取組評価結果の分析

各点検項目別、総合評価およびその他の各コメント記述から各項目について、「良好評価」「改善要求」の2つの観点より分析を行った(表1から7)。

表1 共通計画(組織基盤)

良好評価	改善要求
連携校間の連携協力意識の強化 代表者委員会、連携評価委員会の開催 現地視察の実施 各大学の役割の明確化 大学教育改革プログラム合同フォーラムへの出席 各大学の課題の共有化と相互協力の体制強化	地域と一体となった取組の展開 情報発信・ホームページの充実 広報宣伝活動の展開 各大学内での事業の浸透化 本事業と大学コンソーシアム岡山との連携 岡山オルガノン事業実施の必要性

表2 インフラ整備

良好評価	改善要求
テレビ会議システムの15大学同時接続の実現 各大学の環境整備状況の公開 設置時期の年度末集中回避 遠隔授業運用の面でのノウハウの蓄積・共有 ICT活用教材作成講習会の開催 単位互換制度の制度化 学習管理システムの運用開始	配信コンテンツの充実 授業時間の検討 大学教員の負担軽減 広報活動の充実 危機管理マニュアル手引書の作成 本格的な実用化 テレビ会議システムの積極的な活用 インフラ整備の安定した運用 コンテンツ開発のための協力体制 コンテンツ開発費支援の検討 著作権関連事項の早期検討

表 3 学士力育成のための計画

良好評価	改善要求
<p>連携校間での履修しやすい科目選択</p> <p>FD・SD活動に対する連携校の共通認識の向上</p> <p>FD・SD活動の協働体制の整備</p> <p>各大学の共通課題の探求</p> <p>科目提供大学数・科目数の増加</p> <p>サテライトオフィスの役割・方向付けの明確化</p> <p>共同SDの地域貢献</p> <p>単位互換制度の活用による教育内容・質の充実</p>	<p>事業の理念・方針を明確化した上で科目設定</p> <p>単位互換制度のライブ配信科目専用時間の徹底化</p> <p>学生ニーズに応じた科目選択</p> <p>産官民との連携の強化</p> <p>事業主体と学生ニーズの調和</p> <p>提供科目による学生数格差の軽減</p> <p>PDCAサイクルのCAの検討</p> <p>学生ニーズに応じた学生参画型授業の検討</p>

表 4 社会人基礎力育成のための計画

良好評価	改善要求
<p>企業ニーズを踏まえた人材育成</p> <p>実社会で人材育成能力開発を目指した実践プログラム</p> <p>今後の連携校間における社会人育成に貢献</p> <p>実践的キャリア指導チーム力の強化</p> <p>キャリア教育を中心とした高大連携</p>	<p>社会人基礎力育成のためのキャリア教育への受講者数増加</p> <p>プログラムの有効活用</p> <p>ライブやVOD配信科目への提供</p> <p>連携校間で積極的に質の高い講座を活用</p> <p>これまでの大学コンソーシアム岡山で実施してきた取組以外の岡山オルガノン事業独自の取組の実施</p>

表 5 地域発信力育成のための計画

良好評価	改善要求
イベント開催の早期検討 共通イベントの連携校での周知 サテライトオフィスの役割・方向付けの明確化 地域活性化シンポジウムの開催 エコ啓発活動の地域発信 産学民の連携 連携校の共通認識による事業の推進	地域が求める人材育成への取組 地域と大学の協働関係の構築 講義内容・実施方法の検討 学生参画強化・学生教育への寄与の視点 ライブ型遠隔授業に関するアンケートの有効活用 効果的な受講環境の整備

表 6 総合評価

良好評価	改善要求
連携校間の意思統一 継続的な事業展開 成果データの公表 実施時期の年度末集中の回避 連携校間の連絡調整・情報共有	全大学の協働体制作り 各大学が持つ特色を生かす 負担や費用に関する将来的議論 地域に対するアピール

表 7 その他

良好評価	改善要求
より一層の代表校のリーダーシップ発揮 到達目標の共通認識と協働体制作り 短期間での事業推進	学生が地域で活躍する場の提供 地域活性化や産業振興への貢献 持続可能性と将来的な事業負担の検討 事業のアピールの強化 連携評価委員会の資料内容の検討

3. 平成 23 年度補助事業実施計画

本年度の補助事業の目的を達成するため、

■共通計画（岡山理科大学）

- ① 4月～大学教育連携センターおよび各オフィスの運営
- ② 4月～「将来構想委員会」の開催
- ③ 5月～「岡山オルガノン代表者委員会」の開催
- ④ 12月上旬「岡山オルガノン事業報告会」の開催
- ⑤ 1月 平成 23 年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加
- ⑥ 1月下旬 「連携評価委員会」の開催、最終報告書の作成

■学士力育成のための計画（岡山大学）

- ⑦ 4月～単位互換制度を活用した配信科目の追加検討・協議・決定
- ⑧ 4月～新規 VOD 科目のコンテンツ制作、8月～9月に ICT 活用教材作成講習会の実施
- ⑨ 8月 独自の共同 SD 研修会「クレイマー対策講座」を実施
- ⑩ 9月 FD 研修事業「i*See 2011」の共催
- ⑪ 11月 「共同 FD・SD 実施報告会」（遠隔授業による成果報告を含む）の開催

■社会人基礎力育成のための計画（中国学園大学）

- ⑫ 4月～連携校および高校（高大連携）への出張講義の実施
＜実践的キャリア指導チームの強化充実＞
- ⑬ 6月 学生参画によるキャリア教育担当者意見交換会（ワークショップ）の開催
- ⑭ 10月 「実践マナー&ビジネスマインド短期集中講座」の実施
- ⑮ 11月 「社会人基礎力養成シンポジウム」の開催

■地域発信力育成のための計画（岡山商科大学）

- ⑯ 4月～双方向ライブ型方式による遠隔授業の継続配信
- ⑰ 6月 「大学連携による地域活性化シンポジウム」の開催
- ⑱ 7月 「エコナイト」の開催

4. 平成 23 年度補助事業実施方針

平成 21 年度および平成 22 年度の連携取組の評価を受けて、改善要求に対するセンターおよび各オフィスにおいて対応を熟慮して、平成 23 年度における 9 の補助事業実施方針を策定した。

- ①事業の持続可能性と将来的な事業負担の検討
- ②各大学内での事業等の浸透化
- ③ホームページを活用した情報公開・情報発信の充実化
- ④著作権関連事項の早期検討
- ⑤単位互換履修生募集および学生参画イベント等の呼びかけと周知徹底
- ⑥配信科目の充実化と FD・SD 活動の協働体制の強化
- ⑦テレビ会議システムの積極的な活用
- ⑧大学におけるキャリア教育の充実化
- ⑨社会人基礎力育成のためのキャリア教育への受講者数増加

1. 「岡山オルガノン」連携評価委員会要項

参考資料 1

(趣旨)

第1条 この要項は、岡山理科大学、岡山大学、岡山県立大学、岡山学院大学、岡山商科大学、川崎医科大学、川崎医療福祉大学、環太平洋大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、山陽学園大学、就実大学、中国学園大学、ノートルダム清心女子大学（以下、「構成大学」という）が、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムに基づく構成大学間の連携取組事業（以下、「連携取組事業」という）に関し締結した「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムの共同実施に関する協定書」第2条に基づき、連携評価委員会の組織及び運営に関し、必要事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 連携評価委員会は次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 構成大学が実施した連携取組事業の内容および成果の評価を行うこと。
- (2) 構成大学が実施した連携取組事業の内容に関して指導および助言を行うこと。

(組織)

第3条 連携評価委員会の組織は次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 有識者（産学官の外部委員）
- (2) 構成大学代表者（学長等）
- (3) その他委員会が必要と認めた者（学生を含む）

(委員長)

第4条 連携評価委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

- 2 委員長は、連携評価委員会の会議を主宰し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(委員会の成立等)

第5条 連携評価委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 連携評価委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 連携評価委員会は、必要があるときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 連携評価委員会の事務は、構成大学の協力を得て、岡山理科大学内に設置している大学教育連携センターにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、連携評価委員会に関し、必要な事項は別に定める。

(平成22年1月22日：岡山オルガノン代表者委員会にて承認)

2. 平成22年度 連携評価委員会 名簿

参考資料2

(1) 有識者（産学官の外部委員）

所 属	職 名	氏 名
岡山県	県民生活部長	平 松 卓 雄
岡山県教育委員会	教育長	門 野 八洲雄
社団法人岡山経済同友会	代表幹事	中 島 基 善
山陽新聞社	代表取締役社長	越 宗 孝 昌
立命館大学共通教育推進機構	教授	木 野 茂
両備ホールディングス株式会社	代表取締役社長	小 嶋 光 信

(2) 構成大学代表者（学長等）

所 属	職 名	氏 名
岡山大学	学長	千 葉 喬 三
岡山県立大学	学長	三 宮 信 夫
岡山学院大学	学長	原 田 博 史
岡山商科大学	学長	井 尻 昭 夫
川崎医科大学	学長	福 永 仁 夫
川崎医療福祉大学	学長	岡 田 喜 篤
環太平洋大学	学長	梶 田 叡 一
吉備国際大学	学長	藤 田 和 弘
倉敷芸術科学大学	学長	添 田 喬
くらしき作陽大学	学長	松 田 英 毅
山陽学園大学	学長	赤 木 忠 厚
就実大学	学長	押 谷 善 一 郎
中国学園大学	学長	松 畑 熙 一
ノートルダム清心女子大学	学長	高 木 孝 子
岡山理科大学	学長	波 田 善 夫

3. 連携取組事業の評価について

参考資料 3

[本連携取組事業の目的]

連携校間における（A）教養教育の充実・共同 FD・SD 活動による「学士力」育成、（B）実践的キャリア指導・社会活動参画による「社会人基礎力」育成、（C）地域連携による人材育成・地域貢献活動による「地域発信力」育成、という核となる 3 つの力の育成であり、これらの取組が地域一体となった実践の実現により、「岡山オルガノン」が構築され、岡山県から発信される地域創生型の人材育成へとつなげることです。特に本事業では、ネットワーク網で結ばれたテレビ会議システムの活用により、遠隔授業などの教育支援だけではなく、教職員や学生の交流を深化させていくための重要なコミュニケーション支援としての役割も果たし、これにより大学間連携の充実化を図りたいと考えています。

[評価の目的]

本連携取組事業の各々の取組を年度毎に振り返り、今後の継続的事業展開だけではなく、さらに発展的な取組へとつなげ、岡山県内の大学教育・学生サービスの質的向上を図ることを目的として点検・評価を行います。これを通して、成果や課題を連携校すべてにフィードバックし、各大学の特色を踏まえた上での大学教育充実に向けた改善を図る契機として活用します。

[実施期間]

平成 23 年 3 月 14 日～平成 23 年 3 月 29 日

[評価規準・評価観点]

（1）事業取組評価

- ①本連携取組事業の内容が目的に沿って適切な企画・実施がなされているか
- ②大学間の連携が適切に図れているか
- ③本事業のために導入した設備が目的達成のために有効に活用されているか

（2）地域貢献評価：

- ①産官民や高校との連携が適切に図れているか
- ②地域の担い手となる人材育成につながる取組となっているか

[評価基準]

- 4：十分に満足できる（期待する効果が十分に見られる）
- 3：おおむね満足できる（期待する効果はあるが、未到達の部分もある）
- 2：努力を要する（期待する効果が見られない）
- 1：問題がある（期待する効果へとつながるよう計画がなされていない）

[取組点検項目]

文部科学省に今年度提出した交付申請書の「本年度の補助事業実施計画」にある以下の 18 項目について評価をしていただきます。

(1) 共通計画

- ①大学教育連携センターおよび各オフィスの運営
- ②「岡山オルガノン代表者委員会」の開催
- ③中間報告書の作成
- ④大学連携シンポジウムの開催
- ⑤平成 22 年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加
- ⑥「連携評価委員会」の開催、評価報告書の作成

(2) インフラ整備計画

- ⑦多地点接続装置の設置調整、9 月より運用開始
- ⑧追加教材コンテンツの作成、8 月～9 月上旬に ICT 活用教材作成講習会の実施

(3) 学士力育成のための計画

- ⑨単位互換制度を活用した配信科目の内容の検討・協議・決定
- ⑩共同 FD 活動の取組内容の検討・協議・決定、1 月に共同 FD・SD シンポジウムの開催
- ⑪共同 SD 活動を「吉備創生カレッジ」との業務委託により実施
- ⑫FD 研修事業「i*See 2010」の共催

(4) 社会人基礎力育成のための計画

- ⑬実践的キャリア指導チームによる連携校でのキャリア教育の検討・協議・試行実施
- ⑭「社会人基礎力養成」に関する共同 SD ワークショップの開催
- ⑮大学コンソーシアム岡山と連携した実践的体験型プログラムの実施

(5) 地域発信力育成のための計画

- ⑯ライブ型方式による遠隔授業の配信
- ⑰エコナイトの開催
- ⑱地域活性化シンポジウムの開催

[評価報告書の作成について]

連携評価委員会開催当日に、大学教育連携センターおよび各オフィスより、各取組点検項目につきまして配布資料に従って概略の説明を致しますので、以下のとおり、本連携取組の評価報告書の作成をお願い致します。

- (1) 評価報告書は連携評価委員会の全委員にご提出いただきます。
- (2) 委員会から評価報告書の作成につきましては、上記で説明しました [本連携取組事業の目的] および [評価の目的] をご理解いただき、[評価規準・評価観点] に従い、評定およびコメントの記載をお願いします。
- (3) 評定は各項目別に [評価基準] の4段階評価でお願いします。「総合評価」では全体の評定をお書きください。コメント欄には、大項目ごとに各評定に基づき「優れている事項」や「改善すべき事項」など、記述していただくようお願いします。特に、評定で「2」または「1」の評価をされた場合は、課題や改善点など具体的に記述していただき今後の取組に反映させたいと思っております。また、各取組点検項目の小項目の番号(①～⑱)について個別にコメントを記述される場合は、各項目の番号が分かるように付記してください。
- (4) 「点検項目別評価」と「総合評価」のそれぞれ記述の方をお願いします。「その他のコメント」につきましては、本連携取組についてご意見・ご感想等ご自由にご記入ください。
- (5) 行数・页数など必要に応じて追加していただいて結構です。

《記入例》

①・・・および・・・に関する科目の検討		④	3	2	1
コメント	<p>全般的に・・・について目標が達成できている。</p> <p>今後は・・・の点に注意して・・・の一層の充実を図るよう期待する。</p> <p>(あるいは、・・・の点で特に効果が得られているようであり、今後も一層・・・に注意して成果を出していただきたい。)</p>				

②「・・・シンポジウム」の開催		4	③	2	1
コメント	<p>・・・に関してはおおむね目標が達成され、その効果が期待できる。ただし、・・・については一部まだ取り組みの遅れ(あるいは、・・・などに不十分な点)が見られるので、・・・に注意して、次年度以降には達成させる必要がある。</p>				

③「・・・委員会」の開催		4	3	②	1
コメント	<p>・・・を実施したことにより、・・・に大きな成果があがっているのは確かである。ただし、実施した・・・の取組(①)が部分的であり、・・・と・・・を目標にしている・・・への寄与は低いと考えられる。そのため、・・・の取組(①)と・・・の取組(②)については、・・・を整備し、・・・に対してより発展的な事業を展開し、・・・の向上を図るよう検討する必要がある。</p>				

④・・・に対する・・・活動の展開		4	3	2	①
コメント	<p>・・・に関しては、事業の当初目標が充分達成されているとは考えられない。特に、・・・の点で問題が有ると思われるので、・・・に留意し、早急に実施体制や・・・を見直す必要がある。(あるいは、・・・のように目標設定を変更し、・・・のような効果が得られるよう見直す必要がある。)(あるいは、導入した・・・等の設備が・・・活用されていないようであり、今後は・・・のような適用方法に変更して、導入効果を得るよう努力されたい。)</p>				

※句読点や誤字脱字等は修正、文体は原文のままとしている。

(1) 共通計画（組織基盤）

- ・大学教育連携センター及び各オフィスは互いに良く連携し、代表者委員会の調整のもと、15大学の連携という困難な事業を円滑に推進していることが高く評価できる。
- ・シンポジウムの開催及び合同フォーラムへの参加で、情報発信は十分に行われていると感じられるが、中間報告書については、情報発信後のフィードバックについて今後期待したい点がある。
- ・初年度に比べ組織基盤の充実、大学間連携の強化が進んだことは間違いない。シンポジウム開催、フォーラム参加といった意欲的な試みも評価できる。惜しむらくは情報発信力の弱さである。メールマガジンの一般登録者はわずか20人程度である。「地域を変える」とうたったシンポジウムも、地域の関心をどれだけ集め、アピールできたか。オルガノンの最大のテーマは「地域創生型の人材育成」であり、そのためにも学生やこれから大学を目指す高校生、その保護者を中心とした「外」へ情報発信し、理解、共感を得て取り組みの発展を目指すことが欠かせない。最終年度は「いかに地域を巻き込むか」に知恵を絞っていただきたい。
- ・大学教育連携センター及び3つのサテライトオフィスのリーダーシップにより、連携校間の情報共有や連絡調整がスムーズに機能し、各種取組は計画どおり順調に進んだと評価できる。
- ・中間報告書を作成することにより、これまでの取組や成果、問題点を整理できた。また、報告書を関係機関へ配布したことや、⑤「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加したことにより本取組を広くアピールできたと思われる。メールマガジンの発行、ホームページの充実などにより関係者への情報発信は上手く機能しているが、一般の方を対象とした情報発信に、もうひと工夫加えると、いっそう事業を発展できると考える。
- ・全般的におおむね目標が達成され、その効果が期待できる。特に③の中間報告書では、各大学側ごとの取組を明らかにすることで課題の共有に結びつけていること、④の大学連携シンポジウムの開催では地域に対して直接情報発信しようとしていることが評価できる。ただし、④では一般参加者が20名に止まっており、次年度以降一層の周知などによりその増加を期待したい。
- ・全般的に個々の事業は活発に実施された。今後の問題は、それぞれの大学内での浸透である。
- ・実施計画で策定された①～⑥の事業を確実に、また計画通りに実施されている。組織基盤の確立について大きな成果が上がっている。シンポジウムの開催、フォーラムの開催などの様々な取り組みは岡山県全体の教育力向上に資することができると大いに期待できるものである。
- ・全般的に共通計画について目標が達成できている。
- ・全ての計画が順調に進展している。この調子で頑張ってもらいたい。
- ・入試志願状況の記事に関連して新聞広告を出すのならば、取組内容の説明とともに、何故今岡山オルガノンが必要かを説明しておくのがよい。
- ・中間報告書に、失敗談や改善策を明記するのは良い。

- ・大学連携シンポジウムで、大学と地域に gap は無かったのか。それを答えるパネリストはいたか。
- ・連携評価委員会では、⑤での意見交換で出た他の取組の「同様の課題」を披露してもらえばよかった。評価委員会では、良い話ばかり出さなくてよい。
- ・全体として、良く計画され実践されているが、センター・オフィス間の連携をもっと深めてほしい。また、委員会などの個々の会への協力体制も不十分であり、大学間の連携を深める努力を共にしたいものです。
- ・大学教育連携センター統括のもと、各連携校間で情報共有及び調整が図れたことは、今後の連携校間における協力体制の強化に繋がった。
- ・また、中間報告書の作成により取組事業内容も整理され、今後の課題も明確になった。組織基盤も概ね確立されたものと思われる。
- ・連携センターなど組織も確立され、各部門がそれぞれの役割を適切に果たしている。またホームページ、メールマガジン等を有効活用し情報発信に努めている。ただし、さらに多くの人々に周知を図る必要があると思われる。
- ・各種委員会、報告書などを開催・作成し参加範囲の拡大、問題点の改善に積極的に取り組んでおり、昨年より格段の成長がうかがえる。
- ・平成21年度の中間報告書及び評価報告書をもとに、大学教育連携センター及び各オフィスが中心となって、指摘された改善事項に取り組んだ結果、平成22年度では共通計画に関しておおむね目標が達成できている。今後も「岡山オルガノン」の事業目的、取り組み内容などについての情報発信をより一層図ることが望ましい。
- ・共通計画については、当初の目標が達成されており、かなりの成果があがっている。
- ・大学教育連携センター及び各オフィスの運営が行われている。
- ・HPは、「オルガノン」で google 検索するとトップで岡山オルガノンのページが表示される。内容も充実しているが、データ更新も頻繁に実施されていることを示している。多くの大学が加盟しており、日程調整は困難であると思われるが、比較的頻繁に会議が開催できている。
- ・代表者委員会の開催について、3回の会議を開催できており、2年目でありながら将来へ向けの方針に関する提案もなされるなど、成果を上げていると評価できる。
- ・中間報告書の作成について、多数の大学の取り組みなどを集めて編集する作業は大変であったと思われる。その意味では高い評価を与えるべきであるが、その点をのぞけば、良好という評価でよいのでは、と考える。
- ・大学連携シンポについて、シンポジウムの内容としては、比較的良質なものであり、人選や構成などの工夫が良好な成果になったと思われる。今一步の視点としては、一度の開催であった点であり、今後多地点での視聴が行えるようになったので、そのような取り組みも必要と考える。
- ・フォーラムへの参加について、平成22年度のフォーラムへの参加に関しては、十分な成果を上げたものと思われる。他の GP に関する情報収集も比較的活発に行っているようなので、そのような内容も含めるならば、4でもよい。
- ・評価委員会の開催、評価報告の作成について、評価報告書に関しては、大変要領よく要点をまとめて提示されており、高いレベルにある。

- ・ 3年のプロジェクト期間の2年度目であり、1年度目のインフラ整備と本事業に関わる多彩な個々のサテライト事業の展開を実質的に実施する年度として捉えると、十分な活動が行われたと感じられる。⑤フォーラムへの参加や③中間報告書、⑥連携評価委員会などでの報告は予定されていた各事業が、十分に展開出来たことを示す良い機会であったと評価できる。但し、事業仕分けによる文科省としてのこういった事業全体の廃止という判断の最大の要因である各大学の個別の努力で対応すべきという論点を凌駕する事業の必要性の説明は若干不十分な印象がある。

(2) インフラ整備

- 15 大学の連携を行う上で、多地点接続装置は要となる設備である。本装置を教育活動に有効に活用し具体的な成果が上げられるよう期待する。
- VOD 科目の運用には様々な課題があると思うが個別の対応が取られていることは高く評価できる。
- 多地点接続装置、ギガビット VPN 対応ルーターの導入により機能面では飛躍的に向上し、遠隔授業の充実などに期待が膨らむが、バージョンアップやメンテナンスにはどの程度の労力、頻度が必要だろうか。またトラブルなどが生じた場合、誰がどのように対処するのか。本格的な実用化へ試行を重ね、あらゆる課題を浮かび上がらせ、解消する努力を続けてもらいたい。「危機管理マニュアル」といった手引書を作成するのも一つの手だ。
- 全連携校で多地点接続装置及びギガビット VPN ルーターを設置したことにより、ライブ型遠隔講義や VOD 科目を受講できる環境が整備されたことは、単位互換制度を推進するうえで大きな成果があった。次年度以降の VOD コンテンツの作成を早期から着手し、計画的に準備が進められたと評価できる。
- 全般的におおむね目標が達成され、その効果が期待できる。特に⑧において導入した多地点接続装置を使用して「e-Learning 著作権セミナー」を開催しているが、ハードだけでなく、課題となる著作権の扱いについても整備を進められていることは今後の配信拡大に寄与するものと考えられる。
- VOD の教材作成についてはしっかり行えた。テレビ会議システムの利用については、会議や講義への利用に積極的に取り組めた。本学も学内のネットワークを張り替え、来年度からは本館棟においても接続可能になるため、さらなる利用が進むと考えられる。
- 岡山オルガノンの中核をなす e-Learning 及びライブ教育配信のためのシステム環境が整ったと思われるが、大変な作業であるため若干時間的に遅れ気味かなと感じる。しかしネットワークで結ばれたテレビ会議システムが機能すれば大学間連携が充実し、遠隔操作だけでなく、教職員や学生の交流が活発に行えると大いに期待できるものである。*評価 3 は時間的な遅れである。
- 全般的にインフラ整備について目標が達成できている。
- インフラ整備そのものは順調に整備されている。しかしながら、利用実績が低水準にあるため改善が必要。
- 配信科目については利用実績の上がるような内容の検討が必要。FD, SDについては順調に実施されている。
- ハードの対応は速いが（予算執行の関係か）、ソフトの対応も遅れないように願いたい。
- 著作権の関連事項は、早く具体案をまとめられた方がよい。オルガノンの連携校には使い易く、組織外の人に使い難いような措置が望ましい。
- インフラへの基本整備は順調に進行しているようであるが、コンテンツ開発のための協力体制や開発費支援のあり方などをもっと詳しく検討するべきであろう。
- 多地点接続装置に加え、全連携校にギガビットルーターが設置され、テレビ会議システムの活用が充実したことは評価できる。

- ・課題となるVODコンテンツの著作権については「e-Learning 著作権セミナー」が開催されたが、今後は、著作権などの関連規程の更なる整備が必要である。
- ・多地点接続装置を導入することにより提携大学との同時テレビ会議を実施することが可能となり、来年度以降セミナー、委員会での活用の拡大が可能となるなどインフラの整備が進んだことは大きな成果である。
- ・教材コンテンツについてはさらに作成を進めるとともに、受講者の拡大を図る必要がある。
- ・平成22年度は、多地点接続用サーバーの設置により多地点同時接続が実現し、テレビ会議の開催、授業の配信など、インフラ整備の充実に向けて大きな成果があがっている。ただし、教材コンテンツの作成においては、各大学による新規VOD科目の選出依頼方法の検討、VOD科目受講生による授業アンケートの実施及びその対応など、今後もより一層の充実を目指す必要がある。
- ・インフラ整備については、計画通り進んでいるが、今後の運用についてその効果が最大限になるよう検討を要する。
- ・多地点接続装置について、実質的にこれを利用した講義が（ほとんど？）行われていないので、能力を発揮する段階にない。今後、そのような取り組みがたくさん行われる必要がある。
- ・追加教材コンテンツについて、現時点においては、提供科目数が少ないため、高い評価を与えにくい。コンテンツ作成への習熟と実現化が必要である。
- ・⑦については1年度目のインフラ整備を翌年に新たに機種を変更せざるを得なくなった印象があり、当初の見通しと機種選択についての適切性が問われる事態ではないだろうか。さらに⑧についても本来、1年度目に実施すべき項目ではなかったか。また連携評価委員会での説明にもあったがVOD作成に関して各科目の講師が、自学の学生への対面講義とは別途、VOD録画をボランティアで実施しているという事は、ある面、大学教員の負担増につながっている可能性もあり、計画として本当に適切であったのかどうか不明である。

(3) 学士力育成のための計画

- ・ライブ配信科目、VOD 配信科目について各大学から特色ある科目が提供され、大学間連携、設備の活用が三位一体となって運営され始めたことが高く評価できる。大学間連携による FD・SD シンポジウムは外部有識者などの意見も聞かれ有為なものであった。「i*See2010」も先進的な取り組みであるが、各連携大学関係教職員のさらなる参画を期待する。また、実施結果のみで結果の良否、今後の取り組み方について P D C A についての検討が必要である。
- ・シンポジウム、共同 SD 活動、FD 研修事業といった試みは、ワークショップやディスカッションを交え、参加した職員、学生の意識改革に大きく寄与したようだ。一方、授業のライブ配信、VOD 配信では「オルガノン時間」の設定が大きな収穫だ。参加 15 大学が足並みをそろえるということ自体が、オルガノン事業成功への意気込みを感じさせる。ただ、提供科目は、たとえば科目によって受講者数に大きく差が生じており、事業主体と学生ニーズの間の溝を感じさせる。原因の分析に加え、今後の配信科目の選定にさらなる検討が求められる。
- ・⑨は科目配信大学の特色を活かした講義を提供したことで、教育内容・質を充実させることができた。
- ・⑩及び⑫は連携校間で意見・情報交換が活発に行われ、FD・SD に対する意識が高められた。これらの取組で得たノウハウを今後の学生教育に反映させ、学士力のさらなる向上を目指したい。
- ・全般的におおむね目標が達成され、その効果が期待できる。⑨については、来年度は配信科目が相当増加するが、費用対効果の観点から、一層の配信科目の増加に加えて受講者の増加も期待したい。また、⑩の共同 SD 活動を「吉備創生カレッジ」という開かれた形で実施することは地域貢献に結びつくものとする。
- ・配信科目の内容についての検討や共同 FD、共同 SD は順調に行えた。FD 研修事業の開催については十分であったが、残念ながら本学からの積極的な参加が実施できなかった。
- ・⑨の問題点としてライブ科目授業のための専用時間（オルガノン時間）の徹底化が求められる。
- ・⑩～⑫の FD・SD の取り組みを、学士力の育成にどのように結びつけ、活用していくかについて、さらなる協議や趣旨の周知を広範囲に行うことが重要と考えられる。今年度おこなった取り組みの内容は評価される。
- ・全般的に学士力育成のための計画について目標が達成できている。
- ・配信科目の内容を検討するにあたり、まずその理念を確立する必要がある。二つの方向があり、一つは大学、地域の特色を生かした科目、他の一つは基礎学力を充実させる科目。後者は各大学で工夫されているが、それでも学生にとって不十分なこともある。方針をはっきりさせて科目を設定すべきである。
- ・FD や SD は各大学によって取組に差があることが予想されるので、担当オフィスはその実情を把握しておくことが今後の企画の参考になると思う。
- ・単位互換制度をさらに実質化するため、時間割の共有化や要望の高い科目の新設などの具体策への努力をしてほしい。FD・SD 活動をもっと大学間協働で進めるようになってほしい。
- ・共同 FD・SD 活動が実施され、「i*See2010」においては、教員・職員・学生が対等な立場で議論でき、積極的な教育改善への動機付けとなった。

- ・また単位互換制度を利用した配信科目については、「ライブ科目授業のための専用時間」も設定され、今後は各大学の特色を活かした更なる配信科目の充実に期待する。
- ・オルガノン時間の設定など単位互換制度の充実拡大に努めており、連携校の教育内容の充実に成果を挙げている。来年度以降配信科目がさらに拡大する予定であり、教養科目の講師の確保に貢献することが出来るなど当初の目的を充分達成している。
- ・単位互換制度を活用した科目配信は、連携大学の教育を質・量ともに充実させる上で、多いに評価できる取り組みであり、今後が期待される。共同 FD・SD シンポジウムや研修会の開催は、各大学が抱える教育上の問題点に対して、その対応・解決策を共有する上では、効果的である。学生参画型 FD 研修事業は、受益者目線の上に乗って議論を行うものであり、大学教員の教育改善活動のためには効果的な事業で、多いに評価できる。今後も学生の参加・参画型事業がより一層企画・実施されるよう期待する。
- ・⑨については配信科目に偏りが無いよう分野からみてバランスのとれた科目はもちろん、学士力養成に適する内容を盛りこむことが期待される。⑩については、FD と SD シンポジウムの共同開催により、どのような効果をもたらされるかを明確にする必要がある。また、⑨から⑫については、大学で実施されている学士力養成と岡山オルガノンにより期待されている学士力養成の相違や関連性について検討されたい。
- ・単位互換制度について、現段階においては、提供科目の抽出に一定の理念がない。今後、本格化に伴って単位互換に関するコンセプトの確立が必要である。
- ・共同 FD について、小規模の地方大学では FD,SD 活動が行いにくい。この点に関し、地域の大学がタッグを組んでの事業として大変期待したい。
- ・吉備創生カレッジについて、内容としては、もっとブレイクしてもよいのではないと思うが、会場の制約などもあるのかもしれない。この講義内容も VOD 化などの可能性もあるかもしれない。
- ・FD 研修について、岡山大学は従来から大きな成果を上げてきた。共催することによって、どのような前進があったのか、という点に関する情報がない。
- ・ライブ配信授業と VOD 授業が、3科目ずつであったこと、受講学生数がそれほど多数であったとは感じられないことは、これらの事業が本質的に各大学の学生の、更には大学の求めるものであるのかどうかという疑問につながると思われる。特に本学のような単科大学である国家資格に対する専門科目に特化した教育を展開する立場では、抱える教育の問題点などを、他の多くの大学と共有すること自体の困難さを感じる処であり、これら事業の継続性を論じる際に、県内に立地するという事だけで事業参加を強いられる印象になっているのは再考が必要なのかも知れない。

(4) 社会人基礎力育成のための計画

- ・キャリア指導チームの組織がはっきりしないが、その活動は、連携大学のみならず高校、企業団体まで広げられており、評価できる。
- ・大学コンソーシアム岡山でこれまで行われてきた取り組みだけでなく、岡山オルガノン事業独自の取り組みが期待される。
- ・実践的キャリア指導チームによる講義・講演、SDワークショップは、いずれもスキルアップを図りつつ事業展開できたと評価したい。他方、大学コンソーシアム岡山との連携プログラムは就活に励む学生を支援する有意義な試みだったが、残念ながら他の同種事業と日程が重なり、出席断念を余儀なくされた学生が出たことだ。入念な下調べの上での日程の選定はもちろんのこと、たとえば学生が足を運びやすい会場を確保したり、学生が最も活用しやすい開催曜日、時間を選ぶといった学生本位の日程調整に、より配慮すべきだろう。
- ・⑬は様々な受講形態に対応したプログラムを作成したり、講師のスキルアップに努めるなど、高い質の講座が提供されている。また、大学・高校・企業などにおいて数多くの講演を実施しており、社会人基礎力育成に向けて積極的な取組ができていると評価できる。今後は連携校においても積極的に活用することが望まれる。
- ・⑮はテレビ会議システムによる配信を行うなど、より多くの学生が参加できる体制を構築する必要がある。
- ・全般的に目的達成に向けた企画・実施がなされていると考えられる。担当するサテライトオフィスの熱意が感じられ、失敗を恐れず、高みを目指す学生が増えたとの評価も頷かれる。
- ・それぞれの事業の実施は十分であったと思われる。ただ、本学の場合には、医療福祉系であるという特殊性があるため、十分に利用させていただくことはできなかった。
- ・キャリア教育は連携校独自の方法で展開していると思われるが、コンソーシアム、オルガノンで取り組んでいることに敬意を表したい。今後の連携校間での社会人基礎力の育成のための講座展開の取り組みに重要なヒントを与えてくれる良い取り組みである。
- ・全般的に社会人基礎力育成のための計画について目標が達成できている。
- ・⑬は、連携校に広くプログラムを実践してもらふこと及びチーム力を強化することが望まれる。
- ・⑬と⑮は、実践的キャリア教育を実施するという点では共通である。方法などで違いはあるものの、計画として内容的に差がないので、関連させて取組まれることが望まれる。
- ・非常に効果的な取組みになっており、履修した学生のモチベーションがかなり高まっている。
- ・キャリア教育を中心とした高大連携はまだ不十分で、県内高校と大学間の魅力ある連携プログラムにして、高校生が地元大学への進学を増やす努力をすることの意義は非常に大きい。
- ・大学コンソーシアム岡山と連携した「実践マナー&ビジネスマインド講座」においては、連携大学のみならず四国・関西の学生も参加し、大学、高校、企業の連携により実施されたことは、大きな成果があったと認められる。
- ・キャリア教育の検討・試行については大学、高校、企業とも開催が偏っており、今後はSDワークショップ、大学コンソーシアム岡山との連携などを含め総合的に開催を検討し、実施校、企業の更なる拡大・拡充を図る必要があると思われる。
- ・実践的キャリア指導チームによるキャリア教育、共同SDワークショップの開催及び実践的な

体験プログラムの実施によって、受講者のチャレンジ精神の更なる高揚、内定難関企業への積極的な挑戦、社会人として必要なマナーの向上など、具体的な成果が上がっており、社会人基礎力育成の当初の目的が達成されつつある。今後は、キャリア教育や実践的体験型プログラムの取り組み内容、実績及び具体的な成果等を連携校の学生や教職員に対して十分周知し、受講者を増やすよう方策講じることが望まれる。

- ・社会人基礎力養成については、各大学が実施している中味との違いが明確で当初の目標が達成されている。
- ・⑬充実しており、発展しつつある。
- ・⑮参加学生の偏りをどう考えるか。
- ・就職活動とは異なるキャリア養成を展開している点は十分評価でき、本学などでもコミュニケーション能力の養成は必須であるので、興味深い。但し、多彩な将来像を描く多くの学生に対して如何に普遍的な教育として提供するかという点、更には参加学生が本質的にこういった事業への興味と才覚を元来有した者ではないかということ併せて考えると、本事業の拡大と継続については同好会的な色合いを拭い切れない印象もある。

(5) 地域発信力育成のための計画

- ・ライブ型遠隔授業の取り組みについてはPDCAサイクルにより、取り組みがなされており、高く評価できる。エコナイトは各連携大学それぞれ工夫を凝らしており、環境啓発活動に寄与したと考えられる。
- ・各大学の地域研究を取りまとめたシンポジウムは画期的であるが、各大学の教職員、学生の参画について期待したい。
- ・ライブ型遠隔授業は、他大学の受講者の少なさが気がかりだ。情報提供不足か、魅力の乏しさか、原因分析と対策の検討を急いでほしい。また、地域活性化シンポジウム、エコナイトは時宜を得たイベントが実践できたと評価したい。ただ、欲を言えば、もっと「学外＝地域」を巻き込む取り組みがあってもよさそうだ。住民たちの刺激になり、一方で外部の方々の視線、評価は活動をよりよいものに育てていくための大きな財産にもなる。「キャンパスを飛び出す」という試みに積極的にチャレンジしてほしい。
- ・テレビ会議システムを受配信テストを入念に行ったことにより、次年度から本格的に始まるライブ型遠隔講義を円滑に進める体制が整えられたと評価できる。但し、機器操作マニュアルに載っていないトラブルが生じた場合、直ちに対処できるかどうか懸念される。
- ・地域発信力育成に向けた講義の配信、七夕エコナイト及び地域活性化シンポジウムを開催したことにより、学生・地域・大学・企業などとの連携が深まった。地域活性化に寄与できる人材を育成するとともに、地域から必要とされる大学になれるよう、これらの取組を継続・発展させることを望む。
- ・全般的におおむね目標が達成され、その効果が期待できる。特に⑩の地域活性化シンポジウムの開催は地域貢献に結びつくものであり、来年度以降も開催されることを期待する。
- ・ライブ型方式による遠隔授業の配信に関しては、準備が完了した。来年度から配信予定である。エコナイト、シンポジウムの開催については、十分な実施ができたと思う。特に、エコナイトについては、来年度には岡山県との連携も期待されており、今後の展開が楽しみである。
- ・⑯は岡山オルガノンの中核をなすもので良い取り組みである。連携校に早く普及することを期待する。⑰は日本中で求められているテーマであり、岡山県全体で取り組むべき問題である。問題を提起したことは良い取り組みである。⑱は地域活性化に大学として何ができるかがテーマであるが、行政と大学と県民が情報を共有することが重要であり、一つの投げかけとして評価できる。
- ・全般的に地域発信力育成のための計画について目標が達成できている。
- ・エコナイトの写真④の説明（小講演の内容）があっても良かった。省エネの実践と同時にその背景にあるエネルギー問題を扱っていることも重要である。
- ・地域活性化は、今では各大学で実施されているので、SDやキャリア教育ほどの新規性はない。したがって、実施するならば、各大学での取組の違いを浮立たせ、意見交換の材料を提供するようにされるとよい。
- ・⑯他大学生の参加数が少ない。同じ授業を共有する他大学生の数を増やす必要がある。
- ・⑰参加大学数を増やす必要がある。
- ・遠隔授業は今後大きな役割を發揮することが期待されているので、提供科目を増やし、多くの

学生が受講するように指導と周知徹底を図りたい。エコナイトについては、もっと地域住民などを巻き込んで行えるようにするべきであろう。

- ・地域活性化シンポジウムでは、地域住民の方から率直な意見を聞くことができ、今後の地域住民の方と大学、学生との関わりの中で、何が共通して必要なものなのかなど、地域への活動のきっかけとなったことは評価できる。
- ・今後、様々な視点から地域を捉え、継続的な実施に期待する。
- ・受講者数は前後期合わせて500名足らずと若干少なく思えるが、地域と連携した科目を提供することにより、学生の地域への理解の深化をさらに図ることが出来たと思われる。今後は参加学生の更なる拡大が望まれる。
- ・エコナイトについては関係自治体などさらに参加範囲を拡大して実施することが望ましい。
- ・ライブ型方式による遠隔授業の配信、エコナイトの開催、地域活性化シンポジウムの開催など、地域発信力育成のための計画は順調に進んでおり、全般的に目標が達成されつつある。今後の課題として、大学と地域との有機的な連携（相互作用）のためには、エコナイトなどのイベントや地域活性化シンポジウムの開催意義を広く地域の方々と共有し、一般市民を多く巻き込んだ取り組みを展開する必要がある。
- ・地域発信力養成については、おおむね目標が達成され、その効果が期待できる。ただし、ライブ型方式による遠隔授業配信については、大学が限られており、より多くの大学が参画できるよう改善が望まれる。
- ・⑯まだまだ実施不足。
- ・⑰さらなる盛り上がりを期待したい。
- ・⑱参加人数の少なさ、連結地点数の少なさが、今年の課題です。
- ・エコナイトは地域や社会へのアピールという点では興味深い取り組みであろうと感じられる。しかし、本学特有の事情などもあり十分な参画は出来なかった。⑯については(3)の学士力育成の一部と感じられ本サテライト事業による展開で良いのであろうか？ 本サテライト事業が、各大学が展開する地域貢献の向上のための教育的啓発的事業として大学教職員（学生も含む？）を対象として実施する点と、⑰の様に実際に共同でアクションを起すという点の双方を目指していることは評価できると考える。

3. 総合評価

- 大学には地域との連携を行い社会のニーズを捉えると共に、知的資源及び地域で広く貢献する人材の育成を行う責務がある。平成 22 年度の取り組みは 15 大学の連携という困難を乗り越え、地域に対する責任を果たす具体的な成果があがり始めた初年と言える。
- 岡山オルガノン事業は連携 15 大学の全教職員の取り組みとして自覚され、大学教育の質向上に向け、推進されることを期待する。
- インフラ整備をはじめ計画されていた事業が着実に実践され、「岡山オルガノンの構築」へ、階段をまた一つ上ったと評価できる。ただ、最終年度へ期待は膨らむ半面、課題は少なくない。基盤が整う一方で、遠隔授業での配信科目などコンテンツは果たして充実しているといえるだろうか。事業の発展の下地となる個々の取り組みの「検証」は十分だろうか。大学によって温度差も見え隠れする。大学間の連携が生み出す力、可能性の限界はまだまだ先にあるはずだ。新年度は「地域創生型の人材育成」という大きな目的へ、いま一度、意思統一を図り、また補助が終わった後にどう継続、飛躍させていくかについても明確な方向性を示すべきだろう。
- それぞれの取組事業の方向性や意義が明確になり、取組内容も一層充実したと評価できる。また、来年度以降のライブ型遠隔講義や VOD 配信講義の本格的な実施に向けて、準備が着実に進められたことが評価できる。各種取組が充実している中で、今後は各連携校の特色を積極的に押し出した事業を展開することが望まれる。
- 2 年目を終えた時点として、全般的におおむね目標が達成され、その効果が期待できると思われる。センター及び各オフィスの尽力によるものであるが、⑥の『「連携評価委員会」の開催、評価報告書の作成』にあるように、評価報告書で明らかとなった改善要求を重点項目 10 点に絞り、連携校の共通認識として事業を推進したことも寄与していると考えられる。
- 全体的には、問題なく実施された。但し、多くの大学が協力して行う事業であるため、それぞれの大学の特徴を考えると、どうしても参加できる事業の種類に濃淡ができる。これは、こうした取り組みを行う上で、いたしかたのない制約であると思う。その範囲ではあるが、十分に組み合わせたと思う。
- 学士力、社会人基礎力、地域発信力の 3 つの力の育成を図るため、本事業は周到な準備と実行が展開し成果を上げている。このような素晴らしい取り組みがなされているが、連携校で十分な周知が図られていない。今後何らかの方法で本事業の内容を周知することが望ましい。
- しかしながら、内容としては本事業の目的にふさわしい取り組みがなされ、目的を十分達成していると考えられる。
- 全般的に補助事業について目標が達成できている。
- 短期間、限られた予算の枠内で、よくここまで 2 年間の実績を積まれたことに感心し、十分評価したい。
- 非常に整然と、また効果的に活動が行なわれており、大いに評価できる。
- 全体的にスタートしたばかりで満足な結果は得られていないように思われる。
- 連携大学の学生、教職員、ならびに岡山県民にもっと知ってもらうべき PR の必要があると思われる。
- 「岡山オルガノン」及び「大学コンソーシアム岡山」への各大学内の協働実施体制が不十分であるとともに、大学間協働への積極的な取組にはまだまだなっていないので、今後とも体制づく

りの強化に力を入れるようにしたい。

- ・初年度の実績を踏まえて、事業全体がほぼ順調に実施されている。
- ・今後の大学コンソーシアム岡山への吸収に向けては、各連携校間で十分な討論を行った上で、事業全体を進めること必要である。
- ・G P補助期間終了後の事業が、さらに充実していくことを期待する。
- ・3年計画の2年度が終了し、組織も整備され、インフラもほぼ整備された。当初の計画に沿って実施されており、次年度は最終年度であり、参加範囲の拡大、内容の更なる充実を図り連携校がそれぞれの特色を生かした取り組みを実施することにより、本事業の目的を達成することが出来ると思われる。
- ・「岡山オルガノン」連携事業の根幹となる「学士力」、「社会人基礎力」及び「地域発信力」育成に向けての各取り組みは、当初の目標がおおむね達成され、成果があがっている。しかしながら、大学間の連携が適切に図られているかについては、この事業のとらえ方に大学によって多少温度差があるように見受けられる。本事業において、ネットワーク網で結ばれたテレビ会議システムなどのコミュニケーション手段を有効に活用し、大学間、大学と地域間の連携が適切に図られていくことを期待する。
- ・全般的にみて、当初の目標が達成できていると評価する。
- ・1年度目に事業計画の整備をし、2年度目に実施、3年度目は2年度目の評価のもとに発展的な展開と、資金補助終了後の継続展開を確定するという流れであろうと考えると、中間年度として各事業はそれぞれに十分な展開を実施されたと評価できる。現在、連携校に在籍する学生に対して直接的に作用する部分（ライブ配信ならびに VOD 授業、キャリア養成講座への参加など）と、連携大学のそれぞれの事業の目標への理解と啓発、教育的事業の部分（FD/SD やシンポジウムなど）について、連携評価委員会においても、それぞれへの参画者の感想や意識の変化といった実施の効果についての情報が乏しかったことを加味すると、事業主体（理科大学メインオフィスとそれぞれのサテライトオフィス）は献身的な努力でそれぞれの事業を展開されているが、そのこと自体で完結している印象を拭い切れなとも感じられた。勿論、教育制度その他の改革がどの程度の効果を生み出すのかということ、短時日に評価されるものでもなく、これらの事業に参画した学生が数年～十数年後に社会人として如何に活動するかといったことがその評価になるので、現在、展開している事業がそういった効果を創出すると信じて展開せざるを得ないことも十分理解できる。

4. その他のコメント

- 大学が持つ「知」を地域に還元し、また 15 大学による連携という貴重かつ壮大な取り組みであり、これほど多彩な事業を展開しながら、認知度は百点満点といえるだろうか。活動に弾みをつけ、より充実したものに育てていくためにもアピール不足は何とか克服したいところだ。地域の、あるいは社会の理解を促し、共感を呼ぶには「分かりやすさ」も重要なポイントであり、要点を絞った資料作成、情報発信を心掛けるのはもちろんのこと、細かく言えば、専門的な横文字などなじみの薄い言葉の多用を控えるといった配慮がもっとあってよい。オルガノンの成功は地域力向上の一つの鍵でもあり、地域とともに歩むためのさらなる工夫に期待したい。
- 本年度は本格的な事業展開がなされたので、大学間の連携によるメリットが学生だけでなく、地域社会の活性化などにも結びつくことを、事業自体やその成果を通じて県民にアピールしていくことを期待する。
- 本取り組みについては、岡山理科大学が大きなリーダーシップを発揮していただき、着実に推進されていることに敬意を表するとともに、本学も次年度以降の取り組みに向けて連携校の一大学として全学的に積極的に参画していきたいと考える。
- 資料のまとめ方について、⑦⑧⑨及び⑩は「遠隔授業の配信」という事業で共通している。オフィス別にレポートがまとめられているが、共通しているものは連続して、内容も関連させて説明していただくと、分かり易いと思う。
- 評価委員会の資料としては、オフィブ別でなく（組織のたて割でなく）、内容別に整理して報告される方が良いと思う。
- 写真の説明のあるページとないページとがある。写真説明は入れておくこと。
- 地域社会の中で大学が果たすべき役割への認識が極めて不十分であるため、どのような活動を展開するにしても、十分な成果につながらない。大学の使命の一つである「地域連携」の重要性への認識を高めるための何らかの企画を考えて欲しい。
- 「岡山オルガノン」連携事業終了後の大学間の新たな連携について、早めに議論を進めて行く必要がある。
- 教育改革 GP 全体が事業仕分けによって事業全体が「廃止」という判定を受け、その主な理由として、ここで展開する事業は「それぞれの大学が自ら努力すべきことである」という主旨であったことを重く受け止めなければならない印象は強い。それぞれの学生も、自らの将来像と能力とキャラクターに合わせて志望大学を決め、入学への努力を行い、在籍する大学の中で各自の将来設計に合わせて努力しているなかで、「岡山県に所在」というくくりで、どういった共通項を連携大学で共有するのかというのは、特に本学のように単科医科という性質を内包する大学にとっては、熟慮が必要な点だと感じる。大学合同フォーラムにおいても、平成 21 年度の基調講演では 18 歳人口を上回る大学定員の全入時代を迎え、大学教育は 20 年前の高校教育に近い部分を含有しなければならなくなった故に、学生指導や共通教養科目などの充実も必要であり、いわゆる職能開発や専門研究は修士や博士課程で実施すべしという論点であったが、平成 22 年度の講演では、そうであるからこそ、それぞれの大学はその教育目標の独自性と専門性に合わせて、得意分野に特化した立脚点を更に向上させる方向へ向かう必要性が論じられていた。単位互換についても大学コンソーシアム岡山で実施していた学生が他大学に出向いて対面授業

を受講するというシステムから、オルガノンではライブ配信さらには VOD 利用という展開によって、利便性を高めることを目指していることは理解できるが、連携各大学あるいは総合大学の場合にはそれぞれの学部の独自性、更に連携校間であっても競合があり他大学と比較した優位性を旨とする展開において、連携校内で共有する部分を発展させようとする本事業への実質的な参画は、それぞれの連携校内である種の矛盾を内包しながら遂行する形になる印象がある。特に本学の場合、良医養成という命題に対して最大限の努力をする中で、入学直後から卒業までのタイトなカリキュラム、附属病院の存在など、現在のオルガノンの多彩な事業展開に対して十分な貢献が出来ないこともあるが、また実施事業からの恩恵を在学生が受けることも物理的にも困難な状況がある。3年度目に2年度に比して、多くのライブ配信ならびに VOD 授業項目が構築されていく予定であることはオルガノン事業にとっては非常に素晴らしいことであろうと拝察するも、先述したが VOD にしても各連携校の教育担当者のボランティア的な負担増への対応の土台の上に成り立っていることなども考慮すると、今後の継続（大学コンソーシアム岡山への事業継承）に当たって、本質的な事業の再評価も必要なのかも知れない。但し、3年間で国から相当額の補助を受けた事業を見直して単に中止するというのも、国民に対して説明出来ない展開であり今後の3年間前後で、展開事業の合理的な方向性のシフトなどを検討することも必要になってくる印象である。

- この論理とは別に、担当の方々が、2年度目として、十分な事業展開をされたことには、感服するとともに、その御苦勞には最大限の敬意を表したい。

